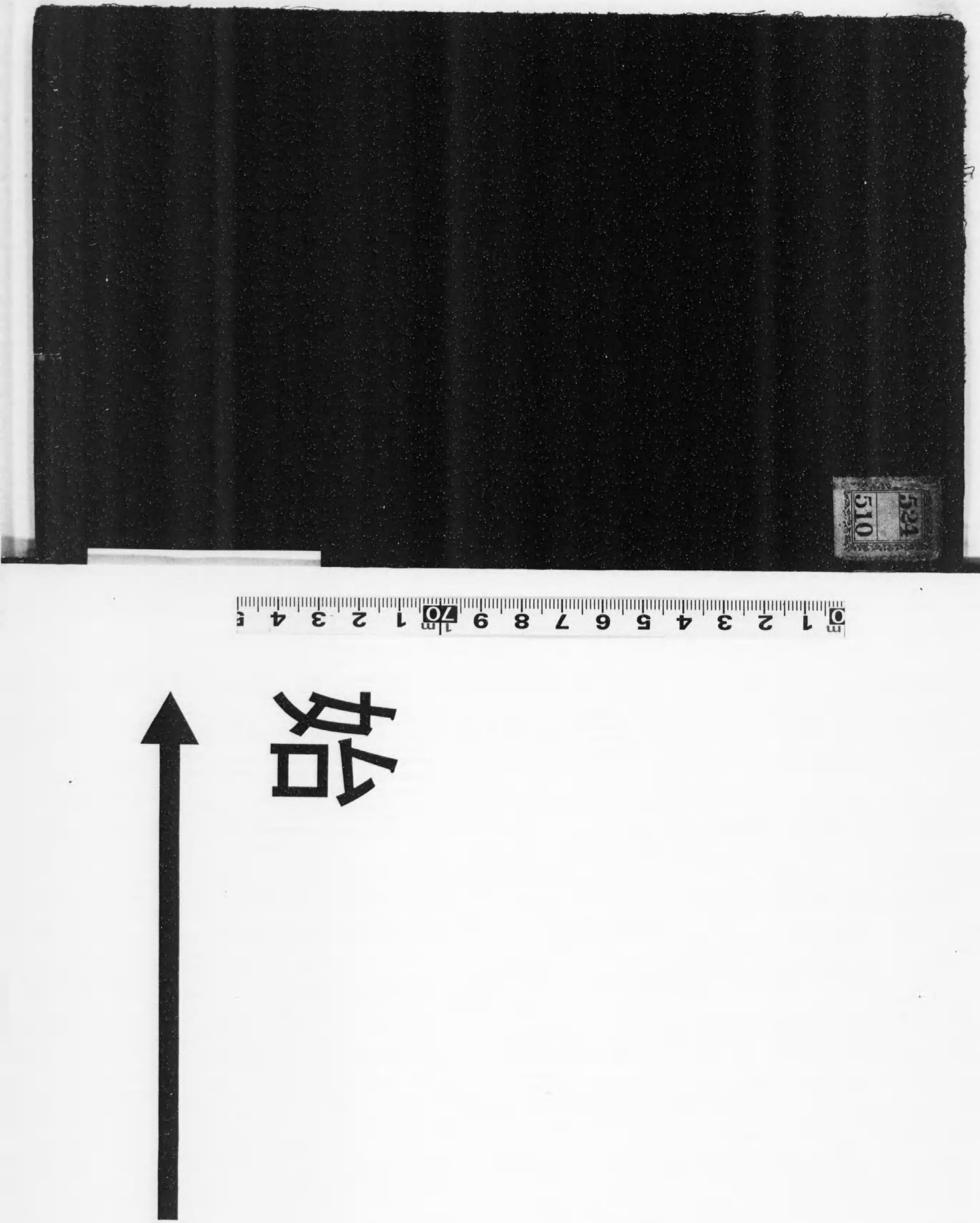
524
510
0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 70 1 2 3 4
部

524
510

大連三品事情

大正十五年十一月

大連商業會議所

524-510

大連三品事情

目次

一 大豆

一 滿洲大豆の經濟的發達事情……一
二 大豆耕地の分布と其生産額……五
三 域内の消費額と其出廻高……一二
四 貿易上に於ける大豆の位置……一五
五 大連港を中心とする大豆の集散……二〇

二 豆粕

一 豆粕の用途と大豆加工業の將來……二九
二 油房の大勢と豆粕の出廻數量……三三
三 大連に於ける油房と豆粕生産高……四二
四 豆粕の輸移出徑路と其仕向地……四五

大正 15.12.18 寄贈

所寄贈本

目次

五　大連を中心とする豆粕の輸移出……四七
六　豆粕需要の一般的將來……五五
三　豆油
一　豆油用途の範圍と其特質……五七
二　搾油の歴史と其將來……五九
三　豆油の生産高と其出廻高……六一
四　豆油の輸移出と其仕向地……六六
五　大連港に於ける豆油の集散……六八
四　取引及採算
一　大豆栽培の收支計算……七九
二　奥地搬出と混合保管……八六
三　特産三品の取引事情……九三
四　特産市場と銀爲替取引……九七
五　油房經營と生産經費……九九
六　輸出諸掛りと船運賃……一〇三

大連三品事情

一　大豆

一　滿洲大豆の經濟的發達事情

大豆は豆科植物の蝶形亞科に屬する一年生草本にして、日本、朝鮮及支那に於て其の風土上の天惠あり、現在に於ても尙世界に於ける大豆の生産は主として之等の地方に局限せられ、歐米其他に栽培せらるゝあるも其量たるや比較的僅少のものに過ぎない。滿洲に於ける栽培の歴史に關しては正確なる記錄なく、支那の中部地方より移入せられたりと云ひ、又滿洲を原産地となすの說あるも、何れにもせよ農民が食料品として自作自給せしは永き年代に亙るものにして約七十餘年前大麻及胡麻よりする搾油法に則り大豆油を搾出するに至りて一層なる重要味を加へ之を食料、點燈用、車軸油用に供すると共に搾粕は家畜の飼料に當て、漸次需給擴大の途に入つたのであつた。然かも日清戰役後豆粕が日本に於ける肥料用に銷化の一方途を開拓し得るや、玆に其需給關係に一新紀元を劃するに至り、更に其の豆油の過剩に對する捌口を歐洲に求めて而して屢々たる需要の趨勢を見るに至つて、愈々大豆其のものゝ價値を世界的に認めらるゝことゝなり、遂に今日に於ける世界的貿易品としての位置を占めしむるに至らしめた。卽ち滿洲大豆が

其の生産を激増するに至りしは僅々二三十年來のことにして、今日世界大豆生産額の約半ばを産出し、其額三百五十萬噸を算せらるゝに至りしことは、稍々奇跡の感あるを如きも、要は大豆が滿蒙に於て、其の根莖に寄生する一種のバクテリヤが空中窒素を固定せしむる其の氣候風土に特種の天惠あるによるものにして、科學的操作に長所を有する歐米に於て之が採種栽培に成功を見る能はざる如きは、眞に大豆をして滿洲特産の名を辱かしめざる事情にあらしめて居る。即ち大豆主要生産國最近の作付面積及生産額概數を見れば明らかに滿洲大豆の世界に於ける地位を窺ひ得て餘りある。

地別	作付面積	收穫高	反當收穫	總生産高に對する割合
日本（臺灣を含む）	四八六、七四〇町	四、三一〇、四八六石	〇・八五〇石	一・〇
朝鮮	七八九、〇三一	四、六七九、二八八	〇・五九三	一・二
滿洲	二、〇九二、〇〇〇	一八、七五〇、〇〇〇	〇・九〇〇	四・三
支那本土	二、三〇〇、〇〇〇	一五、〇〇〇、〇〇〇	〇・六五〇	三・五
北米合衆國	七五、九〇〇	六〇八、〇〇〇	〇・七四五	〇・二
總計	五、七四三、六七一	四三、三五七、七七四	〇・七七八	一

叙上數字によりて世界に於ける主要産地の生産高は四千三百萬石を推定し得らるゝを以て、其他の生産を合する全世界の總額は大略四千五百萬石内外の數字たるを知り得べく、大約日本一割、朝鮮一割、支那本土三割、滿洲四割五分とし、殘餘の五分を世界各地方に於ける生産とすることに推定して大差なかるべきことが稱せらる。而して支那本土の如きは其の生産三割を占むるを如きも其地域廣汎にして人口多數なる關係上其の生産の殆ど多くは地方的需要に消費せられ反つて滿洲よりの輸入に俟つ事情にあり、從て世界的市場への供給に永續的地位を保ち得るものは滿洲を措きて他に之を求むべからざる情勢にある。

二　大豆耕地の分布と其生産額

關東州、奉天、吉林及黑龍江を包括せる地域は其面積六萬四千二百五十三方里即ち内地の約二倍半に當り、其の既墾地一千百萬町歩に對する二割弱即ち二百萬町歩が大豆の作付面積と推算せられて居る。勿論調査不充分なる支那領土のことゝて、適確の數字を求めんことは困難にして、加ふるに各地何れも輪作法を行ひて土地の疲癖を防ぐ慣習あると、又高粱其他に對する市價の高下も、年々の作付段別に多大の變化を來す等の事情あり、他面北滿及東蒙地方に於ける未開墾地の開拓は年を逐ふて其範圍を擴めつゝあるを以て、之が生産額推定は甚だ困難事たるを免れざるも、大體に於て作付反別による生産額の割出しは大正八年滿鐵農務課の調査に係る大豆の作付面積、單位面積に於ける收量をあらゆる方途より考察し、各地方別に平均數を取り、生産額を推定したるものに根本標準が置かれて居る。

滿洲大豆產額推定表

（單位日本石）

	耕地面積	大豆作付歩合	大豆作付面積	一反歩收量	收穫高
	反	%	反	石	石
奉天省					
瀋陽	一、七六五、八〇〇	一一〇・〇	三五三、一一〇〇	一・〇〇	三五三、一一〇〇
開原	一、一三一、五〇〇	一一一・〇	一四八、九〇〇	一・一〇	一七三、八〇〇
鐵嶺	一、一三一、六〇〇	一一〇・〇	三一六、五〇〇	一・一〇	三五七、一一〇〇
東豐	一、三六〇、〇〇〇	一一四・〇	三一六、〇〇〇	一・一〇	三五八、六〇〇
西豐	一、三五四、一〇〇	一一六・〇	三五一、一〇〇	一・一〇	三八七、三〇〇
西豐	一、三一〇、〇〇	一一四・〇	三一四、六〇〇	一・一〇	三四六、一〇〇
營口	五三四、五〇〇	一五・〇	七八、七〇〇	〇・七〇	五五、一〇〇
遼陽	二、一九二、三〇〇	一一〇・〇	四三八、五〇〇	一・一〇	四八一、四〇〇
鞍山	一、一八五、四〇〇	一一七・〇	一一〇、五〇〇	〇・九〇	一八一、四〇〇
安東	八三五、八〇〇	一一七・〇	一四〇、四〇〇	〇・九〇	一一六、四〇〇
海城	八九一、六〇〇	一一一・〇	一九六、一一〇〇	〇・八〇	一五七、〇〇〇
蓋平	一、五九八、四〇〇	一一〇・〇	三一九、七〇〇	〇・九〇	一八七、七〇〇
黑山	一、四八一、一一〇〇	一一七・〇	一五一、八〇〇	一・〇〇	一五一、八〇〇
錦縣	一、〇六八、九〇〇	一一三・〇	一四五、八〇〇	〇・九〇	一一一、一一〇〇
新民	一、五七三、六〇〇	一一六・〇	一五一、八〇〇	〇・八〇	一〇一、四〇〇
奉天	三五一、五〇〇	一一七・〇	五九、八〇〇	〇・九〇	五三、八〇〇
撫順	五三六、九〇〇	一一六・〇	八四、六〇〇	〇・九〇	五〇、六〇〇
鐵嶺	七七一、三〇〇	一一七・〇	一三一、一〇〇	〇・八〇	一〇四、九〇〇
開原	一、一九六、〇〇〇	一一五・〇	一五九、〇〇〇	〇・九〇	一一六、一〇〇
昌圖	六一六、三〇〇	一一〇・〇	一一三、三〇〇	〇・九〇	一一一、〇〇〇
西豐	六〇六、四〇〇	一一五・〇	九一、〇〇〇	〇・九〇	八一、九〇〇
西豐	五九五、〇〇〇	一一七・〇	一〇一、一〇〇	〇・九〇	九一、一〇〇
東京城	四一六、六〇〇	一一〇・〇	八三、三〇〇	一・〇〇	八三、三〇〇
東京城	七〇一、八〇〇	一一五・〇	一〇五、三〇〇	〇・九〇	九四、八〇〇
化縣	三九二、〇〇〇	一一〇・〇	七八、四〇〇	〇・九〇	七〇、六〇〇
旬縣	八一八、〇〇〇	一一〇・〇	一六三、六〇〇	〇・九〇	一四七、一〇〇
仁縣	六七六、〇〇〇	一一八・〇	一一一、七〇〇	〇・九〇	一〇八、五〇〇
江縣	五八一、一一〇〇	一一九・〇	一一〇、六〇〇	〇・八〇	八八、五〇〇
安東	六五、七〇〇	一一八・〇	一一八〇〇	〇・九〇	一〇、六〇〇
臨江	三一八、六〇〇	一一一・〇	六九、〇〇〇	〇・九〇	六一、一〇〇
輯安	四八、〇〇〇	一一七・〇	八、一〇〇	〇・八〇	六、六〇〇
通化	一四、六〇〇	一一〇・〇	三、〇〇〇	〇・九〇	一、七〇〇
寬甸	三〇、四〇〇	一一〇・〇	六、一〇〇	〇・九〇	五、五〇〇
鳳凰	六七、一〇〇	一一一・〇	一四、七九〇〇	一・〇〇	一四、七九〇〇
興京	七四三、四〇〇	一一六・〇	一一八、九〇〇	〇・九〇	一〇七、〇〇〇
安東	三五一、五〇〇	一一七・〇	五九、八〇〇	〇・九〇	五三、八〇〇
錦縣	五三六、九〇〇	一一六・〇	八四、六〇〇	〇・九〇	五〇、六〇〇
錦縣	七七一、三〇〇	一一七・〇	一三一、一〇〇	〇・八〇	一〇四、九〇〇
興城	一、一九六、〇〇〇	一一五・〇	一五九、〇〇〇	〇・九〇	一一六、一〇〇
義縣	六一六、三〇〇	一一〇・〇	一一三、三〇〇	〇・九〇	一一一、〇〇〇
北鎮	六〇六、四〇〇	一一五・〇	九一、〇〇〇	〇・九〇	八一、九〇〇
盤山	五九五、〇〇〇	一一七・〇	一〇一、一〇〇	〇・九〇	九一、一〇〇
武安	四一六、六〇〇	一一〇・〇	八三、三〇〇	一・〇〇	八三、三〇〇
長甫	七〇一、八〇〇	一一五・〇	一〇五、三〇〇	〇・九〇	九四、八〇〇
臨江	三九二、〇〇〇	一一〇・〇	七八、四〇〇	〇・九〇	七〇、六〇〇
桓仁	八一八、〇〇〇	一一〇・〇	一六三、六〇〇	〇・九〇	一四七、一〇〇
寬甸	六七六、〇〇〇	一一八・〇	一一一、七〇〇	〇・九〇	一〇八、五〇〇
鳳凰	五八一、一一〇〇	一一九・〇	一一〇、六〇〇	〇・八〇	八八、五〇〇
通化	六五、七〇〇	一一八・〇	一一八〇〇	〇・九〇	一〇、六〇〇
輯安	三一八、六〇〇	一一一・〇	六九、〇〇〇	〇・九〇	六一、一〇〇
臨江	四八、〇〇〇	一一七・〇	八、一〇〇	〇・八〇	六、六〇〇
安東	一四、六〇〇	一一〇・〇	三、〇〇〇	〇・九〇	一、七〇〇
桓仁	三〇、四〇〇	一一〇・〇	六、一〇〇	〇・九〇	五、五〇〇
寬甸	六七、一〇〇	一一一・〇	一四、七九〇〇	一・〇〇	一四、七九〇〇
鳳凰	七四三、四〇〇	一一六・〇	一一八、九〇〇	〇・九〇	一〇七、〇〇〇

海龍	一、二二五、五〇〇	二六・〇	三一六、四〇〇	一・〇〇	三一六、四〇〇
輝南	二九五、七〇〇	二六・〇	七六、九〇〇	一・〇〇	七六、九〇〇
柳河	六六五、三〇〇	二〇・〇	一三三、一〇〇	一・一〇	一四六、四〇〇
岫巖	五七九、一〇〇	一五・〇	八六、九〇〇	〇・九〇	七八、二〇〇
莊河	一、一〇〇、五〇〇	一五・〇	一六五、一〇〇	〇・九〇	一四八、六〇〇
復	一、二二四、五〇〇	二六・〇	三一八、四〇〇	〇・六〇	一九一、〇〇〇
遂源	五七七、八〇〇	一七・〇	九八、二〇〇	〇・九〇	八八、四〇〇
雙山	一三八、三〇〇	一二・〇	一六、六〇〇	〇・八〇	一三、三〇〇
洮南	二五六、一〇〇	一八・〇	四六、一〇〇	〇・六〇	二七、七〇〇
突泉	八〇、六〇〇	一五・〇	一二、一〇〇	〇・六〇	七、三〇〇
瞻榆	五〇、八〇〇	一六・〇	八、一〇〇	〇・六〇	四、九〇〇
昌圖	二、一八九、八〇〇	二二・〇	四八一、八〇〇	一・一〇	五三〇、〇〇〇
康平	八六三、〇〇〇	一五・〇	一二九、五〇〇	〇・八〇	一〇三、六〇〇
梨樹	一、九六六、六〇〇	二五・〇	四九一、七〇〇	一・一〇	五四〇、九〇〇
懷德	一、五九三、四〇〇	二七・〇	四三〇、二〇〇	一・〇〇	四三〇、二〇〇
開通	九二、四〇〇	一七・〇	一五、七〇〇	〇・六〇	九、四〇〇
洮安	一四〇、七〇〇	一七・〇	二三、九〇〇	〇・九〇	二一、五〇〇
安廣	一一九、七〇〇	一六・〇	一九、二〇〇	〇・六〇	一一、五〇〇
鎭東	一四三、八〇〇	一七・〇	二四、四〇〇	〇・七〇	一七、一〇〇
法庫	一、一〇八、六〇〇	一八・〇	一九九、五〇〇	〇・九〇	一七九、六〇〇

關東州	一、四八〇、六〇〇	三〇・〇	四四四、二〇〇	〇・六〇	二六六、五〇〇
合計	四五、五七四、三〇〇	二〇・九	九、五一一、五〇〇	〇・九三	八、九六〇、九〇〇
吉林省					
吉林	三、二三七、六〇〇	一五・〇	四八五、六〇〇	〇・七〇	三三九、九〇〇
雙陽	一、一四八、〇〇〇	二二・〇	二五二、六〇〇	一・〇〇	二五二、六〇〇
舒蘭	一、〇六一、〇〇〇	一〇・〇	一〇六、一〇〇	〇・七〇	七四、三〇〇
長春	二、四七八、八〇〇	二二・〇	五四五、三〇〇	一・〇〇	五四五、三〇〇
德惠	一、六八七、六〇〇	二〇・〇	三三七、五〇〇	一・〇〇	三三七、五〇〇
伊通	一、五二三、〇〇〇	二五・〇	三八〇、八〇〇	一・〇〇	三八〇、八〇〇
樺甸	三四二、〇〇〇	二〇・〇	六八、四〇〇	〇・八〇	五四、七〇〇
濛江	五八、九〇〇	一七・〇	一〇、〇〇〇	〇・六〇	六、〇〇〇
磐石	七九〇、五〇〇	二三・〇	一八一、八〇〇	〇・九〇	一六三、六〇〇
農安	二、四一一、八〇〇	二〇・〇	四八二、四〇〇	〇・八〇	三八五、九〇〇
長嶺	七六八、二〇〇	一一・〇	八四、五〇〇	〇・六〇	五〇、七〇〇
濱江	二八六、四〇〇	二〇・〇	五七、三〇〇	〇・九〇	五一、六〇〇
阿城	九〇八、〇〇〇	一二・〇	一〇九、〇〇〇	〇・七〇	七六、三〇〇
扶餘	二、一七八、一〇〇	二〇・〇	四三五、六〇〇	〇・七〇	三〇四、九〇〇
榆樹	二、一八六、一〇〇	二〇・〇	四三七、二〇〇	〇・九〇	三九三、五〇〇
雙城	二、二九五、二〇〇	二〇・〇	四五九、〇〇〇	〇・八〇	三六七、二〇〇
五常	一、四七七、五〇〇	二〇・〇	二九五、五〇〇	〇・七〇	二〇六、九〇〇

木蘭	饒慶	訥	拜	甫	武	林	安	肇	肇	肇	嫩	大	龍	黑龍江省計	合計
一〇〇〇	一四〇〇	一五〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	三〇〇〇	一〇〇〇
一五〇〇	一四〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	三〇〇〇	一〇〇〇
一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇
一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇
一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇
一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇
一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇
一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇
一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇
一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇
一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇
一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇
一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇
一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇
一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇
一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇

密	虎	饒	綏	同	賓	富	方	樺	依	龍	瓦	克	德	珠	汪	和	延	同	賓
一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇
一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇
一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇
一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇
一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇
一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇
一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇
一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇
一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇
一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇
一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇
一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇
一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇
一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇
一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇

通河	三九五、六〇〇	一・五八〇	七、二〇〇	〇・五八〇	五七、〇〇〇	
湯原	七四二、八〇〇	一・二〇〇	八九、一〇〇	〇・七〇〇	六二、四〇〇	
克山	六九、四〇〇	一・八〇〇	一二、五〇〇	〇・五八〇	一〇、〇〇〇	
龍鎮	七九、四〇〇	一・七〇〇	一三、五〇〇	〇・七〇〇	九、五〇〇	
嫩江	七七六、七〇〇	一・二〇〇	九二、二〇〇	〇・七〇〇	六五、二〇〇	
布西	一二〇、九〇〇	一・二〇〇	一四、五〇〇	〇・七〇〇	一〇、二〇〇	
綏化	二、二六六、六〇〇	一・六〇〇	三六二、七〇〇	一・〇〇〇	四六二、七〇〇	
綏楞	四二〇、四〇〇	一・七〇〇	七一、五〇〇	〇・五八〇	五七、二〇〇	
呼蘭	二、三一〇、一〇〇	一・八〇〇	四一五、八〇〇	一・〇〇〇	四一五、八〇〇	
海倫	五、二二七、〇〇〇	一・八〇〇	九四、〇、九〇〇	一・一〇〇	一、〇三九、〇〇〇	
通化	四五五、一〇〇	一・七〇〇	七七、四〇〇	〇・五八〇	六一、九〇〇	
巴彦	二、四九六、〇〇〇	一・八〇〇	四四九、三〇〇	一・〇〇〇	四四九、三〇〇	
合計	三一、七三八、三〇〇	一・七〇三	五、四七七、六〇〇	〇・九一	四、九六一、五〇〇	
總計	一〇八、四一〇、〇〇〇	一・九〇三	一二〇、九一六、八〇〇	〇・九〇〇	一八、八四一、二〇〇	

以上數字によりて滿洲大豆の平年生產額は一千八百八十萬石と推定せらるゝに至り、他面當時に於ける輸移出量、豆油の原料と其生產高、食料としての消費高、飼料としての使用量及び次年度播種用數量より推算したる左の數字により

大豆輸出額　四、八九四、八〇〇日本石　家畜飼料　一、三八五、六〇〇日本石

油房原料　七、九五五、一〇〇　次年度種子　一、〇四六、〇〇〇

食料消費　三、六〇〇、五〇〇　計　一八、八八二、〇〇〇

一千八百八十萬石を算出し得て、其の當時に於ける滿洲大豆產額二百七十萬噸と稱する基礎を作り得たのであつた。然しながら其後年々の開拓は、交通機關の發達と相俟つて次第に其の速度を加へ、假りに一年約五萬町歩の大豆作付耕地の開墾を見たりとして、其の年產增額は四十萬石乃至五十萬石の概算となることゝなり、最近に於ける滿鐵調査課に於ける推算によれば

大豆原形輸出額	七、〇〇〇、〇〇〇石	一、〇二三、一四一噸
大豆の主要油房消費額	一二、〇〇〇、〇〇〇	一、七五四、八一五
地方消費額	三、八〇〇、〇〇〇	五五五、四七六
播種用消費額	一、二〇〇、〇〇〇	一七五、三九一
合計	二四、〇〇〇、〇〇〇	三、五〇八、八二三

即ち年產額三百五十萬噸が稱せらるゝに至つて居る。是れ蓋し其の輸出量が歐洲製油工業の復興と共に夥しき數量を喚ぶに至り、十四年度に於ける輸出量大豆百五十二萬八千噸を告ぐるに至り、一方豆粕に百二十九萬噸、豆油十三萬噸を喚べるを見れば自ら其の大勢を察するに餘りあるものである。

三　域內の消費額と其出廻高

大豆の域內消費としては味噌、醬油、豆腐、モヤシ、家畜飼料としての目的に使用するもの竝に地方消費を目的とせる大規模油房の搾油原料に供せらるゝもの約五百萬石(七十三萬噸)に上り、其の外種子用として殘さるゝもの約百五十萬石(二十一萬噸)との合計六百五十萬石(九十五萬噸)內外が全く地方的に消費せらるゝものとせられ生產推定額二千四百萬石(三百五十萬噸)より之等の數量を差引きたる一千七百五十萬石(二百五十五萬噸)內外が滿洲各地重要市場に出廻る數量と見ることが出來る。而して之等重要市場に出廻る大豆は其の原形の儘海外に輸移出せらるゝものと、沿線都市に於ける油房の製油原料との二途に別るゝも、其の何れを問はず其の仕出地と仕向地竝に其發著數量を考察することは、大豆の域內集散狀況を見る唯一の資料たるを疑はず、而して大連、營口、安東到著のものは一部が大豆の原形に於て輸出せられ、一部は豆油及豆粕と變じ、奧地加工のものと相合して輸出の目的物となるものである。

單位米噸(一五一二斤)

發驛	著驛	大連	營口	安東	其他	計
大正十四年						
遂陽		一七、〇一七	四〇、〇二五	一	一、〇三四	二二、〇七七
奉順		四二、二五四	五、〇一一	六六	二〇一	四七、五三二
奉天		一〇、〇二〇	六三七	一	一三二	一〇、七九〇
鐵嶺		二二、九〇三	三、三七〇	三五	一六二	二五、四七〇
開原		一〇七、一〇二	五四、六五八	四〇	一、五〇四	一六三、四〇四
昌圖		一二、九六〇	六六		二〇六	一三、一三二
雙廟子		一三、六四六	五、〇三四		八二	一、八三	五六、八五八
四平街		五一、六〇八	四、八八一	一	四、四一四	八一、二一一
四洮線		七一、九〇五	四九二	五	二六七	二五、八六〇
郭家店		二五、〇九六	一四、二四四	六七	三一四	八七、二三九
公主嶺		七二、七一四	三、七四八	一	一一五	六九、一〇三
范家屯		六五、三四〇	三、五九九		一三二	一〇二、九四三
長春		九八、九七七				
吉長線		二五五、四一〇	一	一	二三一	二五五、六四一
東支線		七五五、二九四	八九一		四一六	七五六、六一一
其他各驛及他線		一四一、二六九	三五、九〇五	四、三七五	四一、八七三	二二四、四一二
合計		一、七六二、六一五	一三六、五六二	四、七五六	五二、三八九	一、九五六、三二二
外に浦鹽に搬出のもの						五二六、三一五
總計						二、四八二、六三七
大正十三年						
遂陽		一七、三二一	二、一九一		七七四	二〇、二八七
撫順		四八、四七八	一二、八八六		一九	六〇、三八三
奉天		九、三二九	二、五三七		九	一一、八七五

	東京	吉長	長春	范家屯	公主嶺	郭家店	四平街	四洮	雙城堡	昌圖	開原	鐵嶺	奉天
其他各驛及他線合計	一八六四三〇	一二三五八五	五八六七二	二七六四三	一八六七二	八七六四七	二〇六五五	二七八〇三	五七五九一	六七二四四	一四一五四	一四二六八	三六一二七
外に浦鹽に搬出のもの計	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
總計	一八六四三〇	一二三五八五	五八六七二	二七六四三	一八六七二	八七六四七	二〇六五五	二七八〇三	五七五九一	六七二四四	一四一五四	一四二六八	三六一二七

四　貿易上に於ける大豆の位置

一　大豆

	東京	吉長	長春	范家屯	公主嶺	郭家店	四平街	四洮	雙城堡	昌圖	開原	鐵嶺	奉天
其他各驛及他線合計	一八六四三〇	一二三五八五	五八六七二	二七六四三	一八六七二	八七六四七	二〇六五五	二七八〇三	五七五九一	六七二四四	一四一五四	一四二六八	三六一二七
外に浦鹽に搬出のもの計	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
總計	一八六四三〇	一二三五八五	五八六七二	二七六四三	一八六七二	八七六四七	二〇六五五	二七八〇三	五七五九一	六七二四四	一四一五四	一四二六八	三六一二七

一五

	遼陽	順天
其他各驛及他線合計	一〇七三五	六七二三四
外に浦鹽に搬出のもの計	一	一
總計	一〇七三五	六七二三四

大正十二年

	遼陽	順天
其他各驛及他線合計	一〇七三五	六七二三四
外に浦鹽に搬出のもの計	一	一
總計	一〇七三五	六七二三四

一四

過去に於ける滿洲の偉大なる發展は、其の土に培はれたる特產物を中心とせるもの與つて力あり、尙年々の開拓進捗は愈々農產をして重要なる位置を占めしむるに至り、就中大豆は工業原料としての用途世界に普きを以て自ら輸出に勢を喚び、依て來る作付の增加は年々五萬町步內外に及ぶと稱せられ、其豐凶如何は殆ど滿洲の經濟界を左右するかの觀を示すに至つて居る。卽ち大豆及大豆を原料としたる產品の輸出高を以て、其の總貿易高及總輸出高に對比せしむれば、以て滿洲大豆の貿易上に於ける位置を察するを得んか。

南滿三港に於ける對比

（單位海關兩）

年別	總貿易高	總輸出高	大豆輸出高	豆粕輸出高	豆油輸出高
大正十四年	四八四、三五八、七三五	二五九、七三二、六二六	五四、二〇四、四八九	五七、一六四、九三七	一、九九一、三〇四、七
同十三年	三九五、七六七、六一九	二一三、四四〇、六九二	四〇、一八四、七二七	五八、八一二、三五一	一五、八八七、四五三
同十二年	四三四、七九〇、四〇三	二四六、七四八、〇五五	四二、〇五五、九三九	六三、一二五、二四八	一八、七八八、九〇一
同十一年	三九五、二六三、二〇四	二一九、九二八、五四七	三九、一六四、五三八	五八、〇七二、一三八	一四、三六七、四一〇
同十年	三七六、五四九、八八三	一九四、〇七五、〇七七	三四、〇七四、三八一	五三、六七九、五六五	一六、〇〇一、九二〇

綏芬河に於ける對比

（單位海關兩）

年別	總貿易高	總輸出高	大豆輸出高	豆粕輸出高	豆油輸出高
大正十四年	四七、三九〇、六四一	四一、〇五〇、〇六五	二五、四六一、三四九	六、二二一、一七九	五、五三七、一二八
同十三年	四八、一五九、九四八	四四、〇八三、三七五	二九、八三四、〇九一	四、五九四、八五五	六、八三三、九〇三
同十二年	三二、四五四、六九一	三〇、九七二、二九五	一五、二〇八、二九五	八、七四四、八二九	二、九六二、五三二
同十一年	三二、四一九、七四七	二八、五〇〇、二〇一	一五、二三九、六七五	五、六八一、一五三	一、八一〇、三二六
同十年	二一、二七八、〇九六	一六、〇四〇、五二五	五、六三三、三〇三	二、七三〇、六三〇	二六〇、五八三

全滿貿易に於ける對比

（單位海關兩）

年別	總貿易高	總輸出高	大豆輸出高	豆粕輸出高	豆油輸出高
大正十四年	五三一、七四九、三二六	三〇〇、七八一、六九一	七九、六六五、八三八	六三、三八六、一一六	二五、四五〇、一七五
同十三年	四四三、九二七、五六七	二五七、五二四、〇六七	七〇、〇一八、八一八	六三、四〇七、一〇六	二二、七二一、三一六
同十二年	四六八、二四五、〇九四	二七七、七二〇、三五〇	五七、二六四、一三四	七一、八七〇、〇七七	二一、七五一、四三三
同十一年	四二七、六八二、九五一	二四八、四二八、七四八	五四、四〇四、二一三	六三、七五三、一九一	一六、一七七、七三六
同十年	三九七、八二七、九七九	二一〇、一一五、六〇二	三九、七〇七、六八四	五六、四一〇、一九五	一六、二六二、五〇三

全滿貿易割合

年別	總貿易高に對する三品（大豆、豆粕、豆油）の割合	總輸出高に對する三品の割合	總輸出高に對する大豆の割合	總輸出高に對する豆粕の割合	總輸出高に對する豆油の割合
大正十四年	三一・一七	五・六〇	二・六五	二・一一	〇・八五
同十三年	三・五二	六・〇六	二・七二	二・四六	〇・八八

一大豆

年					
大正十二年	三、二二	五、四三	二、〇六	二、五九	〇、七八
同十一年	三、一四	五、四一	二、一九	二、五七	〇、六五
同十年	二、八二	五、三五	一、八九	二、六八	〇、七七

斯く重要なる位置を占め居るも、其の貿易上の歴史たるや甚だ新らしく、殊に大豆の原形に於て輸出せらるゝものは、極めて最近に現はれたる歐洲搾油業の復興と共に俄に其の數を加ふるに至つたものである。

滿洲輸出大豆數量累年表

（單位米噸）

年別	大連	營口	安東	浦鹽	計
大正十四年	八五一、六〇八	一一四、〇五〇	二二、四〇五	五二九、四四九	一、五一六、五一二
同十三年	七九〇、三二四	八五、六一一	九、三六八	六〇七、三〇二	一、四九二、八〇五
同十二年	七五一、五四三	一二七、九八一	二四、二〇三	三八四、二六〇	一、二八七、九八七
同十一年	六〇八、八二九	一一三、〇九九	二二、七七五	三八六、七〇四	一、三一一、四〇七
同十年	五六二、六〇八	九八、六三一	五、五三三	一七三、四五五	八四〇、二二七
同九年	五五八、九八〇	七四、六一五	一六、五九六	三八、九二六	六八九、一一七
同八年	五八四、〇七二	八三、九九一	二四、一〇〇	六三、一六六	七五五、三二九
同七年	三二六、八四九	四四、九四六	二四、二〇三	九〇、三九八	四八六、三九六
同六年	一八六、一三五	五二、七八五	三一、八四一	三五八、三三九	六二九、一〇〇
同五年	一六九、九六九	一一、一八六	三三、一七〇	二九七、七九〇	六一二、一一五
同四年	二九九、六七八	一四五、六二四	四一、〇六四	四六二、九二四	九四九、一九〇
同三年	二七四、四〇八	八八、九四七	二〇、七二一	二五四、〇七二	六三八、一四八
同二年	一四三、一二八	九八、四〇四	二七、七五八	二七五、五九九	五四四、八八九
同元年	一七〇、八六一	一一、七六三七	三六、五九九	—	—

近年輸出數量の最も多きは歐洲向けにして殆ど其の輸移出額の過半數を占めて居る、之に次ぐを日本とし、支那各港向け更に之に亞ぐ事情にある。

最近五箇年間全滿洲大豆輸出仕向地別數量表

（大連、營口、安東は海關報告、浦鹽は國際運送報告による合計噸數合致せざるも大勢の參考に資するこゝとせり）

（單位米噸）

年別	日本	支那	歐洲	關印	其他	計
大正十四年	四五二、二四四	二七一、九七九	七〇八、六八五	七八、四九五	一七、三九七	一、五二八、八〇〇
同十三年	四九五、九五七	一二八、二五三	七八七、四三五	八四、四三五	一三、四一六	一、五〇九、五六〇
同十二年	四九八、二一七	二七七、二九二	四三五、三八九	八三、八六一	二〇、四八六	一、三一五、二四五
同十一年	三二七、八九五	三一四、三四二	三六六、八〇六	一一九、四〇六	二〇、一〇八	一、一四八、五五七
同十年	三二六、二二〇	二五〇、四七三	一八五、四三五	七四、九二二	一八、二四八	八五五、二九八

五　大連港を中心とする大豆の集散

大連港に於ける到著大豆と其仕出地　大連到著の大豆は奥地開發の深まると共に年々增加し居り、大正元年に於ける五十萬噸は最近百七、八十萬噸を算するに至つて居る。特に大正七、八年頃よりは露國の政情不安定なりし關係上浦鹽搬出の杜絶せる爲め一層の殷盛を喚ばしめた、即ち元年以後に於ける大連埠頭到著數量を見れば自ら其の推移を察するに足る。

年次	數量	年次	數量
大正十四年	一、七七二、〇二九噸	大正七年	一、二二三、八一三噸
同　十三年	一、七五四、〇四九	同　六年	一、〇四一、五二七
同　十二年	一、八四五、四七二	同　五年	九四〇、九六八
同　十一年	一、六三九、九二八	同　四年	八〇八、七七四
同　十年	一、五七六、二六七	同　三年	八七五、〇二〇
同　九年	一、六二二、三六六	同　二年	六〇七、八二六
同　八年	一、六九五、五〇〇	同　元年	五一一、八三八

然らば此の到著大豆が最近如何なる割當によつて奥地より發送せられつゝあるかを見るに、之れ亦四洮線の開通、浦鹽港の回復によつて、出廻りに變化の認めらるゝもの尠からず、從て奥地集散市場よりする海港搬出に至るまでの間にも幾多の變遷を見せつゝあること勿論である。

地方別	十四年	十三年	十二年
奉天以南	九七、一八〇噸	一一六、七八七噸	一一九、四九四噸
鐵嶺	二九、〇八九	三三、二〇二	二四、五八四
開原	一五八、九五一	二三五、六六四	二三八、一六九
四平街	五七、〇二二	五一、二二四	六六、二二四
四洮線	七六、一三四	六五、七一六	五七、五九一
公主嶺	七五、七六九	八〇、九八一	一三〇、六九五
范家屯	五五、〇〇六	五九、一四七	八七、五八四
長春	七四、二七八	九八、二一六	一八六、七四七
吉長線	二一七、六七八	一九九、三八一	二七〇、〇四五
東支線	八二四、三六四	七一三、九一九	五二一、八一二
其他各驛	一〇六、五五三	九八、八一二	一四二、五二七
合計	一、七七二、〇二九	一、七五四、〇四九	一、八四五、四七二

叙上によつて年々約百八十萬噸の大豆が大連に到著し居ることが明らかであるが、之等の大豆は單に輸出の目的のみに向つて搬出せられたるものに非ずして、其の過半數は油房の原料として當地に於て銷化せられ、豆粕、豆油と形を變へて輸出の目的物となつて居る、即ち十四年度に於ける大連の油房生産高は豆粕二千七百三十四萬枚に及び居るを以て、大體に於て八十五萬噸内外が油房によつて銷化せられたることが想像せられ之れを差引いた約九十萬噸が大豆の形に於て輸移出せられたことゝ想像することが出來る。

大連港輸出大豆の仕向地　過去三箇年に於ける輸出は、十二年の一〇〇に對し、十三年は一〇

四、十四年は一二〇の增進を見せて居る、然しながら其の仕向地內容を見れば、此間多少の變遷が行はれ居ること勿論であつて、十四年に於ける歐洲向けが十三年に比し著しく減少を示したるは浦鹽の回復が如實となつた反映であること勿論であるが、此の減少に拘らず總輸出高に依然として數字を加へつゝあることは、要するに近年支那沿岸に向け移出に優勢を喪び居るによるもの多く、中支及南支方面の需要は年々に其の數量を增す趨勢にある。卽ち仕向け地別數量に就き過去三箇年を對比すれば次の如くである。

（單位米噸）

年次	輸出總計	日本	支那	南洋	歐洲	米國
大正十四年	八九二〇八九	四〇二、三五八	二一九、八七八	八九、四五二	一七九、九一三	四八八
同十三年	七七二、一二八	三五七、七四二	八五、七六〇	九二、九六〇	一三五、四九四	一七二
同十二年	七三八、四七五	四六九、六九五	七二、〇五〇	七六、一九四	一一九、〇〇九	一五、二七三

此の外支那沿岸向けとしては我克船による輸出あるも、之は年々四千二、三百噸內外の數量に止まりて特種の變化を現はすことなし。之を要するに大連港に於ける輸出數量の變遷は主として支那、歐洲、日本、南洋によつて大勢が決せらるゝものにして、之等各地の港別消長を研究することは、其使途の將來に對する觀察竝に之によつて來る今後の需要如何を測定するバロメーターたり得るものなるを以て、玆に過去三箇年に對する夫々の勢程を揭げ以て參照に資せんとす。

支那各港仕向けの變遷　支那向大豆は、中支及南支を以て主なる需要地となす、元來南支地方及長江沿岸は滿洲に次ぐ大豆の產地にして浦口大豆など稱する著名なる大豆の產出地あり、住民は古來大豆及豆油を食料とし、豆粕を肥料とする風習行はれ現在各地に小規模の油房あるも、其の原料は消費數量を補ふ能はずして之が供給を滿洲に仰ぎ居る有樣なれば、時偶々、水旱災に際する如きあれば俄に需要數量を加ふるに至り、需給必ずしも一定の標準なき如きも、大體に於て年々增加の傾向にあり、特に十四年に於て各地何れも需要に增加を加へて居ることを見ることが出來る。（單位噸）

仕向地	十四年	十三年	十二年
秦皇島	—	三四九	—
天津	三、一九一	九五三	—
虎頭崖	五九一	一六七	—
梁家口	一、一八八	七八一	一六二
龍口	一、八〇二	一、七〇〇	八八二
登州府	一二三	一二四	一三七
劑家旺	—	—	—
芝罘	三、一六四	一、七四六	三、二五八
威海衛	一六	一五	—
石虎嘴	—	—	二二六
青島	一二、九一一	一、二一八	四九〇
上海	一三二、三五九	二九、二一九	三二、〇二二

福州	五六八	一、〇六二	三二	
厦門	五、四〇八	七、三一五	五、五八六	
香港	一五、五三八	一一、八七五	九、六一四	
廣東	二八、四六二	二〇、七〇五	一八、九六〇	
汕頭	一一、三六五	五、四八六	—	
興化	二、四一九	一、七四八	一六三	
泉州		五四四	五一八	
安東	七七二	七一三	—	
合計	二一九、八七八	八五、七六〇	七二、〇五〇	

南洋仕向け各港別推移　南洋に於ける大豆の用途は食料品としての鉛化にして、主として「テンペ」豆腐醤油等に用ひらる、就中大豆と南洋の特産たるタピオカ澱粉とを混ぜて作りたる「テンペ」と稱する副食物の消費量は近年愈々其數を加へ、此の種食料の普及は新たなる販路擴張に向て幾多の餘地あるを感ぜしめて居る。其の需要高は年々多少の起伏あるも要するに增加の趨向にして、バタビヤ、スマラン、スラバヤを以て主要需要地とし、大連港よりする直接積出し以外香港、上海を中繼とする輸入數量亦尠なからざるが如し。

仕向地	十四年	十三年	十二年
シンガポール	八、三六四	三、七一一	五六
バタビヤ	三八、八八一	二三、五一〇	一九、八六七
チエリボン	二、〇四七	七、八〇一	三、〇三九
デガヽ	二、〇二九	二、一九八	二、一九八
スマラン	一六、九八〇	二〇、二一八	一二、〇二二
スラバヤ	一四、一六二	二〇、三三九	四、六〇七
テリジヤツプ	一、九六三	五、四四九	一、一〇二
ジヤバ	五、〇二六	一一、九〇〇	三三、二〇三
合計	八九、四五二	九二、九六〇	七六、一九四

歐洲各港仕向けの變遷　滿洲大豆が歐洲に輸出せられたるは僅か二十數年以前のことに係るも、爾來大連及浦鹽よりの輸出數量は年々增加の一方にして、最近獨逸に於ける工業の回復は更に一層の需要を喚ばんとしつゝある、積出數量の最も多きポートサイドは、事實此地に於て直接消費せらるゝものにあらずして、南歐特に多惱河沿岸に產出せらるゝ大豆と共に消費地たる北歐方面に積換へらるゝものに過ぎず、大豆の需要地としては和蘭「アムステルダム」近郊及「ロツテルダム」を第一とし、獨逸「ハンブルグ」「丁抹「コペンハーゲン」瑞典「カールシヤム」「英國「ハル」「ロンドン」之れに亞いで居る。

仕向地	十四年	十三年	十二年
ポートセツト	一〇〇、五四三	八六、八九三	四一、一六九
アントワープ	七九一	七九一	—
ロツテルダム	五一、八七九	八八、三九三	二〇、七八六
ハンブルグ	一五、五三〇	二〇、六三一	九、七八三
カルシヤム	四、四〇三	七、六七三	四、四二六
ロンドン	五、一七五	一二、〇七七	一一、三四六

リバープール	一、五九二	一、五九二	一、四二二
コーペンハーゲン	—	—	一四、六一六
ストックホルム	—	—	五、五〇八
ゼノア	—	一、一三二	—
ハル	—	一四、〇九八	六、六二〇
アボンマス	—	二、二〇四	三、三三三
合計	一七九、九一三	二三五、四九四	一一九、〇〇九

日本內地仕向け各港別推移　日本に於ける大豆は製油原料として銷化せらるゝものの最も多數を占め、味噌、醬油、豆腐の製造に使用せらるものも亦尠からず。蓋し工業保護政策たる假置場制度を設け横濱、淸水、名古屋等に於て製油工場を假置場內に設けて、以て輸入大豆の關稅免除に策してより以來輸入大豆の數量は俄に增加するに至つた、現在是等內地油房は其の原料大豆を輸入するに當つて運賃の關係より浦鹽を通じて原料の供給を受くるを寧ろ便宜とする場合尠なからず、最近大連より見たる內地向け輸出數量の稍減少せるは、其の需要の減退と見んよりは寧ろ浦鹽港の回復によりて起りたる輸送徑路の變更と察することが出來る。

仕向地	十四年	十三年	十二年
大泊	五	—	—
知取	—	七	—
惠須取	—	一三	—
小樽	—	—	三八四
函館	九九	九九	一、二四二

青森	二三〇	—	一、四二九
酒田	—	—	五、七六七
新潟	三、五一三	一、三七七	二、二三八
伏木	五九二	六八八	一、三二二
小木	五六四	五六四	—
敦賀	一、一八六	三九〇	二、五三五
宮津	一三〇	一三〇	九七
境	—	八五二	一六〇
石濱	—	—	四、〇六五
横濱	八五、五九六	七九、七二八	一三一、四六九
清水	一〇五、一五二	一〇一、六三六	四六、〇四五
名古屋	一九、五五二	一五、二八一	三六、五六八
武豊	三三、三七〇	三三、五三七	五四、五五一
四日市	八、五七三	七、二五四	一一、九四〇
大阪	六、九九六	四、五七二	四、五九六
神戸	五九、五七八	四四、〇七七	八四、二九八
尾道	—	—	九七
糸崎	六五	三二	—
宇品	一、四〇九	八一二	一、三七八
下關	二一三	二二六	五七三
門司	七、三五八	一三、〇八七	二〇、九八八
若松	一四、六八一	一四、九二二	九、二三七
博多	六六	—	二九二

長崎	一、二〇五	一、四二九	二、二二六	二、五四九
若津	九八	—	九、九五九	—
三池	三三	—	一、七六五	—
三角	二、二一六	—	一八、四九七	二、八一〇
鹿兒島	一〇、六九九	二、二二六	四、五三二	一〇、三三四
那覇	一、四七九	九、九五九	五〇	六、一五七
基隆	二一、四四四	一、七六五	三五七、七四二	二三、八一三
高雄	六、二五六	一八、四九七		二、七五一
朝鮮	—	四、五三二		一〇
合計	四〇二、三五八	五〇		四六九、六九五
		三五七、七四二		

之を要するに大連の大豆集散は浦鹽の回復目覺ましきものあるに拘らず依然增進を續け居るものにして、浦鹽の牽制によつて增進の率を低められ居ることは事實なるも問題は運賃の利不利に歸着するものなるを以て南滿、四洮、洮昂、各鐵道相協力して搬出採算を有利ならしむるに至り、更に長扶鐵道其他交通の完備を見るに至れば、齊々哈爾、安達を中心とする所謂北滿の穀倉に於ける產出品は大連港によつて集散せらるゝに至るべく、仕向地への勢程も亦自ら打開せられて、尙一層の殷盛を見るべく期待せらる。

二　豆　粕

一　豆粕の用途と大豆加工業の紹來

滿洲に於ける種實搾油工業は約二百年前に既に其の濫觴が開かれ居りたることが傳へられ居るも、其の當時に於ける種實原料は殆ど麻實に限られ今日行はるゝ如き大豆を原料とする搾油は約六十年前鐵嶺及長春附近に於て其の麻實の搾油法を大豆に應用して好結果を得たるに始まる。爾來大豆搾油の業に從事するもの累次增加を示せしも、素より其の目的は油を求むるにありて、粕は單なる副產として家畜の飼料其他に供せられたるに過ぎず、從て其の需給範圍も全く地方的のものであり、其の生產も驢を動力とする程度以下のものに限られ、從て其產額も甚だ少量のものなりしことは想像するに餘りあるものであつた。然しながら日清戰後日本向けに肥料としての用途を見出すに及んで需要に駸々たる勢を爲し、遂に油と粕とをして工場採算に對立の位置を示すに至らしめた。

而も豆油は遂に遠く歐米にまで販銷の途を開拓し、世界的商品たるの位置を占むるに至りたるも、豆粕は其の用途の大部分は日本に對する肥料用にして、支那各港其他に輸移出せらるゝものも亦要するに肥料の目的に外ならず、品質上に尙幾多改良の餘地を有するが爲め歐米に於けるが如く食料及飼料としての用途甚だ薄く、爲めに其の供給の範圍も稍狹き感ありて從て其の

相場も內地期米の騰落に左右せらるゝの狀態を免がるゝ能はざる事情にあるも、其の肥料としての强味は現在の生產を悉く擧げて尙不足を感ずる程度にあることにして、年々に於ける需要及相場の累進によつて見て之を想像することが出來る。蓋し豆粕肥料の本體たるべき窒素は豈料植物を除きては何れの植物にも必要缺くべからざる要素にして、之れが吸收充分ならざれば細胞原形質の基本たる蛋白質の形成困難となり、爲めに充分の成育收穫を望み難からしむるものである、而して其窒素は硫安、豆粕、硝石、魚肥、綠肥より採取し得らるゝも、目今日本內地に於ける此種肥料の需要は大部分は豆粕によるもの多く、主として滿洲よりの供給に俟つの狀態にある、卽ち昨十四年に於ける內地輸入肥料の數量を揭げ日本に於ける滿洲豆粕の位置を窺へば左の如くである。（單位米噸）

硝石	三八、七六〇	豆粕	九九五、六七三
硫酸加里	二〇、四七一	棉實粕	六二、九六〇
硫安	二一五、四〇一	菜子油	八六、二五三
燐礦石	二五二、〇九六	其他油粕	一一、七七五
獸骨粉	三二、六二六	フイツシユケアノ	一七、三三四
骨粉	四二、六八七	合計	一、七七四、九七九

斯く大豆粕は日本內地に於て輸入肥料の主要なる位置を占め居るも、最近に於ける情勢は他の窒素肥料殊に硫酸アンモニアによりて其の勢力範圍を蠶食せられつゝある見逃し難い事實を示して居る。蓋し硫安の輸入は歐洲戰亂前までは年額十萬噸內外に過ぎざりしが、折柄歐洲よりの輸入杜絕に刺戟せられたる我國は空中窒素固定法其他に急激なる進展を見せ、年を加ふると共に窒素肥料界に著々たる勢威を張るに至つた。卽ち日本に於ける硫安供給の勢程を見れば自ら其の趨向を察することが出來る。（單位米噸）

年次	生產高	輸入高	合計
大正十四年	一五〇、〇〇〇	二一五、四〇一	三六五、四〇一
同十三年	一一〇、〇〇〇	一五三、一五四	二六三、一五四
同十二年	一〇三、五〇〇	一四四、五七四	二四八、〇七四
同十一年	八二、九三九	九一、五三五	一七四、四七四
同十年	九三、二三八	七七、九五八	一七一、一九六
同九年	七八、八〇七	七〇、九四三	一四九、七五〇
同八年	七七、七三四	一一六、一四五	一九三、八七九
同七年	五一、九七〇	一、〇七一	五三、〇四一
同六年	四〇、〇四三	一四、八五八	五四、九〇一
同五年	三六、七六二	七、〇五〇	四三、八一二
同四年	三一、三一五	一九、六三〇	五〇、九四五
同三年	一五、七七八	一〇三、九四二	一一九、七二〇

卽ち十四年に於ける豆粕の內地輸出の不冴は此の硫安の俄かなる崛起も亦與つて力ありしが如く感ぜらる、然しながら假令尙引續き硫安の需要が增加し行くとしても之等人造肥料を以て大豆粕の如き有機肥料に換らしめんとすることは恐らく程度の問題にして、土地の生產力其のものゝ將來に鑑みれば或る限度以上に之を採用することは到底想像し難く、或は綠肥によつ

て之が補足を畫するとしても休閑地の利用と勞力の高價は實現に甚だしき困難あり、尠くとも近き將來に於ては豆粕の窒素肥料として有する位置は硫安乃至綠肥に脅威せらるゝことなかるべきことが推察せらるゝと共に、其の取扱容易にして如何なる土壤の施肥にも適し、使用の成績優良なることは其の販路に漸進的增大を加へ、農家の作物に對する化學的智識の向上は折柄の食糧自給の聲と相俟つて農耕の前途に愈々集約的傾向を喚び、窒素肥料は大豆粕又は之を主とする配合肥料に據らんとする形勢に入るべきこと明らかなれば、屢々唱へらるゝ豆粕販路の悲觀は所謂杞憂に過ぎざるべきこと勿論なるも、製品を一段良好ならしむること、價格の低廉にして變動少なからしむべきことに努むることは將來の發展に更に一層の光彩を添へしむるものならんか。

二　油房の大勢と豆粕の出廻り數量

由來滿洲に於ける油房が其の實際生產能力に對して約三分の一見當の從業に過ぎざるは、之れ原料大豆對豆粕、豆油相場の採算關係により或は操業を短縮し或は一時之れが休止をなすによるものにして、必ずしも其の生產に一定の標準なき感あり。卽ち其の大豆出廻り期に當つては原料關係より相當數量の集散を見るも、出廻期を終りては採算有利なる時期を選んでのみ操業するに過ぎざるを以て、時に其の生產高を甚だしく減少せしむることあり、殊に奧地に於ける油房に此の傾向が顯著である。

大正十四年五月に於ける大連油房聯合會の調査によれば當時に於ける全滿洲の油房總數は四百四十八にして大連の八十六に對する奧地三百六十二の割合にありしも、年產額は全滿の年產額豆粕大約四千萬枚に對し大連は二千七、八百萬枚に上り、生產市場及輸出市場として豆粕及豆油の取引の中心は大連によつて占められ居る情勢である。因に五月に於ける大連の八十六工場は其後小寺油房の廢業、加藤油房の合併となり、又支那人油房中同聚永、德聚澧、德興成の廢業、源成棧の新設にて年末には八十二工場となり之に鈴木油房を加へて八十三工場となれり。

奧地に於ける油房は哈爾賓を最大とし、安東、營口及開原之れに次ぐ、各地に於ける油房數及生產能力を擧げ油房の地方的分布狀態を示せば左の如くである。

（大正十四年五月調査）

地別	工場數	壓搾機臺數			一晝夜製造能力	
		水壓式	螺旋式	楔式	豆粕	豆油
大連						
埠頭區	五二	一、一八六	二、一六一	—	一七八、九〇五	八九四、五二五
小崗子區	二七	四八七	九〇六	—	七〇、一八〇	三五〇、九〇〇
沙河口區	七	二〇〇	—	—	一九、三七六	九六、八八〇
計	八六	一、八七三	三、〇六七	—	二六八、四六一	一、三四二、三〇五
營口	二三	二〇	七二六	—	二一、七九〇	一〇八、九五〇
安東	二五	一一二	一、一一九	二六三	四三、九二五	二一九、七八五

哈爾賓	八區	二一	一六六	一、〇〇八	—	三九、一四四	一九五、七二〇
	舊哈爾賓	一四	二一四	三二〇	—	二六、三六八	一三一、八四〇
	インテンダンスキ	六	一二五	四〇	—	一一、五〇〇	五七、五〇〇
	埠頭區	二	—	六一	—	一、五二五	七、六二五
計		四三	—	五〇五	一、四二九	七八、五三七	三九二、六八五
北滿	三叉河	三	—	—	一四	四二〇	二、一〇〇
	窰門	二	—	—	四	一二〇	六〇〇
	陶賴照	一	一六	—	—	一、三四四	六、七二〇
	齊々哈爾	五	六	四一	—	二、一五〇	一〇、七五〇
	安達	六	—	二一五	—	五、三七五	二六、八七五
	黑河	一	—	三	—	一〇五	五二五
計		一八	二二	二五九	一八	九、五一四	四七、五七〇
奉天以北	長春	八	五六	一五	一四	七、五九〇	三七、九五〇
	范家屯	六	二〇	二五〇	—	八、〇七〇	四〇、三五〇
	公主嶺	四	—	一三五	—	三、三七五	一六、八七五
	郭家店	一	—	四〇	—	一、〇〇〇	五、〇〇〇
	四平街	六	—	一八七	—	四、六七五	二三、三七五
	雙廟子	一	—	一〇	—	二五〇	一、二五〇
	昌圖	四	—	四	一〇	二五〇	一、七五〇
	開原	二〇	一〇〇	四二六	—	二一、三六〇	一〇六、八〇〇
	鐵嶺	一〇	一六	一三三	一〇	五、〇三一	二五、一五五
	新臺子	四	—	六三	—	一、五七五	七、八七五
	虎石臺	二	—	一	二	七五	三七五
計		六六	一九二	一、二六四	三六	五三、三五一	二六六、七五五
奉天以南	奉天	一五	—	一一〇	—	二、七五〇	一三、七五〇
	蘇家屯	二	—	四二	—	一、〇五〇	五、二五〇
	沙河	二	—	一四	—	三五〇	一、七五〇
	十里河	三	—	一五	—	三七五	一、八七五
	煙臺	三	—	一三	—	三二五	一、六二五
	張臺子	一	—	二	—	五〇	二五〇
	遼陽	二〇	—	一六六	—	四、一五〇	二〇、七九〇
	立山	一	—	一〇	—	二五〇	一、二五〇
	鞍山	四	—	三八	四	一、〇五〇	五、二五〇
	海城	一〇	—	八二	三二	二、四九〇	一二、四五〇
	大石橋	三	—	一五	—	三七五	一、八七五
	太平山	二	—	九	—	二二五	一、一二五
	蓋平	四	—	三〇	—	七五〇	三、七五〇
	蘆家屯	四	—	一一	三	三五〇	一、七五〇
	熊岳城	四	—	二五	—	六二五	三、一二五
	松樹	五	—	一〇六	五	二、七七五	一三、八七五

得利寺	二	二	一	四〇	一〇〇〇
瓦房店	三	八二	一	一〇〇	二〇〇五
普蘭店	二	一九〇六	一六	三七八	一〇九〇六
三十里堡	一	八	一	一五	一〇〇二
金州	一	一五	一	一五〇	三〇三五〇
貔子窩	一〇	一六	一	一三六一	三五二八二
計	二二	一六	一	一〇	五二〇
鳳凰城	三	一	一	一〇	一〇〇
鶏冠山	二	四	一	四	一〇〇
劉家河	一	一	一	一	五〇〇
通遼堡	一	二	一	二	五〇
南坎	二	六	一	一五	一〇〇
橋頭	三	一	一	七	一七五
本溪湖	三	三七	一	三	一〇〇〇
火連寨	一	四	一	一	一〇〇
石橋子	六	二三	一	六	三七二五
姚千戸屯	一	二	一	二	五〇
陳相屯	一	三	一	一	七五
撫順	一七	一九九	一	一	四、九七五
安奉撫順					二四、八七五

李石寨	二	二三	一	八	一
計	二三	二九二	一	三六	三六
湯南	一〇	三六	一	二	九五〇
通遼	五	五六	一	一	一、四一五
鄭家屯	一五	一五三	一	二	三、八七五
四洮線 八面城	一〇	五一	一	三	一、三五〇
梨樹	六	二〇	一	四	六〇〇
計	四六	三一六	一	二	八、一九〇
吉林	四	一三六	一	一	三、四〇〇
吉長線 卡倫	四	一	一	九	一、三五〇
計	四	一三六	一	九	三、六七〇
總計	四四八	二、七四〇	一	四三七	五三一、四七九
					二、六五四、七五五

然しながら之等油房の生産能力は必ずしも其の出廻り數量と一致するものにあらず、即ち北滿方面に於ける生産品は浦鹽を經由して裏日本方面に供給せらるゝもの尠なからず、安奉線方面のものは直ちに朝鮮に入り、營口亦獨特の立場より大連と別箇の販路を開拓して大連の集散に一敵國を造り居るの觀がある。即ち南滿三港に搬出せらるゝ仕出地別數量を擧げ更に綏芬河通過の數量を掲げて全滿の出廻量を見れば左の如くである。

（單位米噸滿鐵鐵道部調査による）

大正十四年

發驛＼着驛	大連	營口	安東	其他	計
東吉線	七四〇四	五、七二九	一〇一	二、三八五	一五、九九九
長春線	一三、一三五	一三四	六七	一、一五三	一四、四八九
范家屯線	一、六一三	一	三三九	四五	一、九九七
公主嶺線	一三、〇一三	六七	一、四〇七	一、九七	一四、六三三
郭家店線	一一、四七九	一	七七一	三、八五六	一二、六四七
四平街線	一三、四〇〇	一〇一	一、一三九	一二四	一、四八八四
四洮線	九、三五五	七〇一	三二八	七一	一〇、四六六
雙廟子	六七	一	三四	六七	一一、五〇八
昌圖	一〇二	一	一	一	一〇二
開原	一七、〇八	一	七七一	三、八五八	二二、六四七
鐵嶺	一二、〇二二	六七	一、四〇七	一九七	一四、六三二
奉天	一、六一二	一	三三九	四五	一、九九七
撫順	一三、一三五	一二四	六七	一、一五三	一四、四八九
遼陽	七四〇四	五、七二九	一〇一	二、三八五	一五、九九九
其他各驛及各線	一四、二一四	二、二二七	一、七二一	二、三六七	四〇、五四八

大正十三年

發驛＼着驛	大連	營口	安東	其他	計
東吉線	三九、五〇一	一	一	五三	一四、五〇九
長春線	一四、四五七	一	一	七七一	三〇、九六六
范家屯線	三、〇八二	一	六七	一	三、四一一
公主嶺線	一六、〇一三	二、五八〇	一	七	一八、六〇〇
郭家店線	一、九四三	一	一、六六	一	二、一一一
四平街線	一〇、八九九	一、二八六	一、三五	一一	一二、二七一
四洮線	一六、一八一	三〇二	一、五七五	一八六	一八、〇九四
雙廟子	四〇二	一	三四	一	四三七
昌圖	八一四	一	一	一	八一四
開原	三五、〇七五	六〇三	九三八	三五	三六、六五一
鐵嶺	一八、四三五	一	一、三七四	三	一九、八〇二
奉天	二、五八〇	三八二	四	一四七	三、一一三
撫順	一九、五八八	一〇三	三四	一三	一九、七四八
遼陽	三三、八一六	一一、八七六	六七	一、八一二	一七、九四〇
其他各驛及各線	四八、五三〇	一	一	一	四八、五三〇
合計	二六三、六〇	一九八、三	五、五三五	一一、三九三	三〇一、六一九
線外に沿線搬出のもの計	一	一	一	一	一八三、六四四
大計	二六三、六〇	一九八、三	五、五三五	一一、三九三	四八五、三〇三

其他各驛及各線	二八、〇一〇	一三、一二二	一、九〇五	四、六九六	四七、七二三
合計	五二〇、七四五	二九、一〇六	七、一七二	七、二三八	五六四、二六一
外に浦鹽搬出のもの	—	—	—	—	一三九、七七六
總計	—	—	—	—	七〇四、〇三七

大正十二年

遼陽	五、五六〇	一〇、一二九	三四	五	一五、七二八
撫順	二七、三三六	三〇二	—	—	二七、六三八
奉天	四、一八八	五三六	三四	—	四、八五八
鐵嶺	二六、二九七	一、七〇九	四〇二	三	三八、四一一
開原	四五、〇二四	七三七	五三六	一三	四六、三二〇
昌圖	一、七〇九	—	—	—	一、七〇九
雙廟子	一、三八九	—	一〇〇	一一	一、五〇〇
四平街	二〇、九七七	一、四〇八	四三六	三九	二二、八六〇
洮昂線	一七、一六〇	三三六	六七	一六七	一七、七三〇
郭家店	二、八一四	—	一六八	—	二、九八二
公主嶺	一、七二五	四六九	三四	七	一二、二三五
范家屯	一六、七八四	二、八一四	二〇一	四五	一九、八四四
長春	二九、三八〇	—	一〇〇	—	二九、四八〇
吉長線	一二、五八〇	—	—	—	一二、五八〇
東支線	一〇四、七七九	二〇一	一三六	二、七八〇	一〇五、一一六
其他各驛及各線	三五、六五〇	一八、四五〇	一、七三七	三、九八五	五八、六一七
合計	三六三、四五二	三七、〇九一	三、九八五	三、〇七〇	四〇七、五九八
外に浦鹽搬出のもの	—	—	—	—	二六六、三〇五
總計	—	—	—	—	六七三、九〇三

三　大連に於ける油房と豆粕生産高

大連に於ける油房は露治時代小崗子に所謂拱式の小規模なるもの數箇所を見るに過ぎざりしが、租借權の日本に移り、域内工業の勃興が勢を爲すや、明治三十九年末雙和棧なる支那人經營の油房が設立せらるゝに至り、四十年末更に天興福、公成玉、泰東の三油房を加へた、四十一年滿鐵が其運輸政策より海港發著特定運賃制度を施行し大連を以て滿洲に於ける輸出入貨物の呑吐港となすや、隨て油房も亦此地に於て經營せらるべき必然の運命を擔ふに至り、同年に於ける油房設立は實に十四油房の多きに上り、日本側も始めて三泰油房、日清油房の設立を見るに至つた、而して四十二年に十一油房、四十三年に十一油房、四十四年に十四油房と顯著なる增加を見せ、爾來一起一倒は免れ得ざりしとは云へ、特定運賃の特點あること、營口が冬期結氷して輸出困難なること、警備安全にして然かも取引金融に便宜あること等により大正二年には其數既に四十八

個を算するの盛況を見るに至りしが、比較的容易に企業せらるゝ關係より周圍に顧みざる濫設の嫌ひを生ずるに至り、爲めに油房聯合會を組織し製造能力を制限して結束充實に盡し、歐洲戰亂を受けたる豆油の大需要と米價暴騰とによりて豆粕空前の騰貴を喚びたる大正六七年に際しても新に開設せられしもの四油房に過ぎざりし事情にあらしめたりしが、九年に至り金建問題の餘殃に累せられて再び開設簇生を見るに至り、十四年末に於て現在數八十三油房を算し製造能力一日二十八萬三千枚に及んで居る。然も昨年十月に制定せられたる獨逸豆油關稅の實施は歐洲向豆油販路に一大打擊を與へ、此の豆油に振替はるべき原料大豆も浦鹽を通じて輸出せらるゝ顯著なる傾向は、大連の油房工業に相當の脅威を與へずして已むべき筈もなく、自然豆粕市場にも稍不利なる事情を展開すべきことが想像せられ、之が打開に一段の努力を必要とする事情に當面するに至つた。然しながら叙上の如き油房工業の進展は豆粕生産にも多大の增進を與へ大正元年に於ける九百萬枚は十四年に於て二千七百萬枚を見るに至つて居る。

年次	油房數	豆粕生産高	年次	油房數	豆粕生産高
大正十四年	八三	二七、三六二、〇〇〇枚	大正七年	五七	二五、一〇六、〇〇〇枚
同十三年	八五	二七、五三一、〇〇〇	同六年	五七	二一、四三四、〇〇〇
同十二年	八三	三〇、九四一、〇〇〇	同五年	五七	一九、一二六、〇〇〇
同十一年	七九	二六、七七一、〇〇〇	同四年	五六	一六、七〇五、〇〇〇
同十年	六二	二九、二七四、〇〇〇	同三年	四六	六、五八〇、〇〇〇
同九年	六二	二五、七五六、〇〇〇	同二年	四八	九、二三三、〇〇〇
同八年	六〇	二七、九三四、〇〇〇	同元年	四六	九、〇九二、〇〇〇

現在に於ける大連油房一日の製造能力は約二十八萬枚なるも諸種なる事情より約三分の一程度より操業し難き立場となつて居る、即ち原料關係と製品需要に按配宜しきを得れば幾多生産に增加を劃し得る用意あるも、現在の需給を以て新たに打開せらるゝなくば、寧ろ設備過剩の感あるも、其採算が一々相場の趨向に支配せらる現狀に於ては之れ亦已むを得ざる現象なるべきか、次に各工場に於ける製造能力の大小を示し竝に十四年中の大連に於ける豆粕生産高を示し其の大勢を察するに資せしめば左の如し。

油房名	一日生産能力	十四年中生産高	油房名	一日生産能力	十四年中生産高
日清	七、〇〇〇	四〇三、五四四	第一天興福	四、〇〇〇	四四三、〇〇〇
三泰	五、〇〇〇	一、一四四、三〇〇	福元	四、〇〇〇	二八五、〇〇〇
三菱	三、〇〇〇	五五六、〇〇〇	乾泰和	三、〇〇〇	六〇九、五〇〇
大連油脂	四、五〇〇	二〇二、〇〇〇	福順厚	六、〇〇〇	七五七、五〇〇
和盛利	四、〇〇〇	—	新順洪	五、〇〇〇	三九九、〇〇〇
成裕昌東記	七、二〇〇	五五八、四〇〇	萬慶昌	四、四〇〇	五五一、〇〇〇
同西記	三、二〇〇	四八九、〇〇〇	同支店	四、〇〇〇	四七六、〇〇〇
東永茂	四、〇〇〇	四四〇、〇〇〇	豐成	三、〇〇〇	七七、〇〇〇

昇源	五、〇〇〇	六八、一、一〇〇	政興利	二、〇〇〇	一四五、〇〇〇
忠興福	四、〇〇〇	六二六、三〇〇	裕泰	二、五〇〇	—
同案厚	四、〇〇〇	四〇六、〇〇〇	玉昌合	三、〇〇〇	三四二、一〇〇
裕成東	三、〇〇〇	三二七、〇〇〇	東亞	四、〇〇〇	四六四、四〇〇
和生祥	二、〇〇〇	三三〇、三〇〇	和泰	四、〇〇〇	六二五、六〇〇
義順丞	五、〇〇〇	四九三、〇〇〇	和泰支店	二、〇〇〇	—
中和	一、五〇〇	一二七、〇〇〇	萬義長	六、〇〇〇	一、〇三三、〇〇〇
忠盛和	四、五〇〇	四五八、二〇〇	永和東	五、〇〇〇	一一一、〇〇〇
雙案福	二、五〇〇	四〇九、三〇〇	大信	四、〇〇〇	一六八、〇〇〇
裕生蔚	三、〇〇〇	—	福興	四、〇〇〇	—
裕豐泰	四、二〇〇	三六八、〇〇〇	東福順義	二、〇〇〇	二五〇、〇〇〇
恒昌公	三、〇〇〇	二八〇、七〇〇	晉豐	五、五〇〇	四七二、二〇〇
達昌	四、五〇〇	三三五、〇〇〇	政記	五、〇〇〇	五二七、〇〇〇
同泰	二、五〇〇	五三七、五〇〇	同案祥	五、〇〇〇	五二二、〇〇〇
裕豐成	三、〇〇〇	二七七、〇〇〇	安嘉棧	二、一〇〇	三四〇、〇〇〇
同案洽	二、〇〇〇	三〇六、〇〇〇	亨祥裕	三、〇〇〇	四〇八、〇〇〇
福案恒	三、〇〇〇	五〇六、〇〇〇	福順義	二、〇〇〇	四〇九、〇〇〇
裕福	一三六、〇〇〇	五四二、五〇〇	福祥	一、七〇〇	一九四、〇〇〇
成德	五、〇〇〇	一六三、八〇〇	裕和	三、〇〇〇	三四六、〇〇〇
天成	二、五〇〇	義興福	福順	三、〇〇〇	三五九、〇〇〇
萊永春	四、〇〇〇				

廣永茂	三、二〇〇	四二八、〇〇〇	瑞祥	一、〇〇〇	一七、〇〇〇
怡順東	三、〇〇〇	三九二、〇〇〇	慎德	一、〇〇〇	三三、〇〇〇
成順和	三、〇〇〇	三五六、〇〇〇	忠盛和支店	一、五〇〇	—
公玉成	二、〇〇〇	一六七、〇〇〇	源成棧	一、五〇〇	六四、〇〇〇
泰來	三、〇〇〇	五一二、〇〇〇	同源昌	二、〇〇〇	—
泰來支店	二、〇〇〇	—	恒昇	三、〇〇〇	三八、〇〇〇
義祥	三、四〇〇	四三九、六〇〇	忠興厚	三、〇〇〇	二七二、〇〇〇
第二天興福	四、〇〇〇	四五〇、〇〇〇	福和盛	六、〇〇〇	五四七、七〇〇
新順洪支店	二、〇〇〇	—	慶和春	三、〇〇〇	七九、〇〇〇
雙盛	六、〇〇〇	三四八、〇〇〇	順盛	二、五〇〇	二二〇、〇〇〇
怡順成	四、〇〇〇	三六九、〇〇〇	元發成	三、〇〇〇	一三四、〇〇〇
擴穀	一、〇〇〇	—	西福順義	四、〇〇〇	四七六、〇〇〇
成順和支店	四、〇〇〇	三五一、〇〇〇	鈴木油房	撤粕	
天發盛	二、四〇〇	三一、〇〇〇			

計八十三工場、一日生産能力二八二、八〇〇枚、十四年中生産高二七、三六二、六四四枚

四　豆粕の輸移出徑路と其仕向地

目今に於ける豆粕の用途は主として日本に向けらるゝ窒素肥料としての需要にあるを以て、從て仕向地も日本を主とすること勿論にして、大體八割内外が日本によつて占められ居る狀態である。而して其の仕出港としては油房工業の中心を爲し亦取引市場としての中樞を爲す大連

を以て最も優勢となし、其の輸出額は全滿總輸出額の殆ど八割内外に當る情勢である。即ち左記大連、營口、安東及浦鹽に於ける累年の勢程は、其の輸出事情の隆替と搬出徑路の大勢を窺はしむるに足るものである。

（單位米噸）

年別	大連	營口	安東	浦鹽	計
大正十四年	一、三一〇、〇三三	一一六、三九七	一一五、四八〇	一八一、六八五	一、七四五、〇七五
同十三年	一、四〇四、四七七	一八一、一八四	一一一、四三八	一一九、七七七	一、八四九、九七六
同十二年	一、三一九、八一一	一一七、一一三	一七五、〇三一	一一六、三〇三	一一、四〇五
同十一年	一、一四〇、五三一	一一一、一五一	一四五、〇〇八	一七一、四九〇	一、八六九、八五〇
同十年	一、一八六、八一四	一一一、九一九	一四一、四〇〇	九九、九一七	一、六五八、〇八〇
同九年	一、一六〇、四九九	一一〇、一一〇	一一九、一九六	四八、九六六	一、四八六、九一一
同八年	一、一〇〇、五一七	一一一、一一五	一一一、一七一	三一、九八一	一、四九〇、一七七
同七年	一、〇五四、四一一	一四八、九五七	九六、一八〇	三五、四七七	一、一一五、四七七
同六年	九一一、四七九	一七六、九五九	一一一、一七一	一四八、一一五	一、一一五、五四六
同五年	七一八、九九〇	一一一、九一〇	六〇、九九一	七四、一四一	一、〇七六、九四六
同四年	六八五、一九一	一一八、七一一	五六、四八四	七一、四一五	一、一〇〇、八一一
同三年	五一一、五五四	一一一、八八一	一一一、一一一	一一四、五九一	八一一、一一六
同二年	五六一、六四一	一九五、九九六	四四、八〇〇	一五、七五〇	九一八、一八九
同元年	三七六、九六五	一八〇、六一一	五四、一一八	一	七一一、九一六

以上諸港よりする輸移出の仕向地を割合によつて示せば左の如くである。

年別	日本	支那	朝鮮	歐米	計
大正十四年	七四六	一一七	一一八	九	一〇〇
同十三年	七九一	一一六	一一一	一一	一〇〇
同十二年	七九一	一一八	一一一	七	一〇〇
同十一年	七七一	一一〇	一一一	八	一〇〇
同十年	八六九	一一七	一〇	四	一〇〇

五　大連を中心とする豆粕輸移出

大連に於ける輸移出數量の合計は大正元年の四十六萬九千噸を一〇〇として十三年は二八四にまで累進を見せたりしが十四年は諸種なる事情により二七五に低落を見するに至つた、是れ要するに日本内地向需要に減退を喚びたるに起因するものにして支那各港向けに特に著しき進展を示したるに拘らず總計に於て十三年に比し四萬四千九百噸の減少を示した、然しながら之れを十二年に比すれば約二千噸の增加にして必ずしも十四年に於ける減少を以て直ちに豆粕需要の將來を忖度する能はざるは勿論、南支方面への需要增加の如きは愈々販路擴大に確信を有せしむるものである。其の主なる仕向先きに付き輸移出額を各年別に示し其の輸移出の

推移を見れば左の如くである。

日本内地向け需要推移　日本向け豆粕の需要推移は即ち滿洲に於ける豆粕販銷の事情を物

年別	日本	支那	其他	計
大正十四年	一、一三九、六二一	一三二、五九〇	一七、四一八	一、二八九、六二九
同十三年	一、二二六、四七五	八六、二六七	二一、七七二	一、三三四、五一四
同十二年	一、一九七、一八一	七四、六二二	一五、三七五	一、二八七、一七七
同十一年	一、〇六五、三六〇	九二、二七〇	一五、三四三	一、一九二、九七三
同十年	一、一一一、〇八一	三一、一七九	八、六六〇	一、一五〇、九二〇
同九年	一、〇四七、一五一	五六、一五〇	二七、九〇七	一、一三一、二〇八
同八年	一、〇五七、八八三	一七、三九五	一五、二八〇	一、〇九〇、五五八
同七年	九五二、四一六	九三、八五〇	八二	一、〇四六、三四八
同六年	七一九、九六二	一三一、四五六	一、四四九	八五二、八六七
同五年	五八一、〇五八	一〇九、五四六	六三九	六九一、一四三
同四年	五三一、四五五	一二五、七四五	四四六	六五七、六四六
同三年	四九〇、〇四五	二二、一九八	五八〇	五一二、八二三
同二年	五一九、一二九	三五、七六一	五三八	五五五、四二八
同元年	三九六、九九九	七一、八六九	二二一	四六九、〇八九

（單位米噸）

語り得るものにして、滿洲油房の急速なる發達は、豆油の歐米需要喚起に俟つこと大なりしと共に、豆粕に向つて日本に負ふ所亦甚だ大なるものがあつた。今最近に於ける大連の日本内地向數量を見るに、十二年は百十九萬七千噸、十三年は百二十二萬六千噸にして十四年は稍下つて百十四萬噸を示し居るも、此の十四年の搬出減少は硫安の使用に其の需要を阻害せられたる事實ありとしても亦は甚だ輕微の影響に過ぎずして、寧ろ北滿市場に於ける產品の運賃關係より浦鹽搬出に有利を喚び居りたるによるものゝ如く、浦鹽港搬出の數量は調査困難にして正確を期し難きも大約十四、五萬噸内外に上ることが稱せられ居る事情にあるを以て、最近に於ける大連の日本向品減少の傾向は、其の日本に於ける需要の減退と見るよりは寧ろ浦鹽搬出を採算的に有利とするによりて起りたる輸送徑路の變更と察することが出來るのである。即ち十三年及十四年の浦鹽を通じて内地諸港に入れたる數量は大約左の如き分布を示して居る。（單位米噸）

仕向地	十四年	十三年
横濱	七二、三六四	五三、三九七
清水	五五二	—
敦賀	二〇、五四〇	二三、三九二
伏木	九、〇六二	一六、二八一
新潟	二、七三八	一七、六六二
武豐	四、九七四	五四七
青森	二、二一七	四、八五七
清津	一六四	—

米子	八三四	—	—	—
大石	一、九五四	—	二二	—
高濱	一六、六五〇	一四六	六、四二三	—
神戸	五、六八四	二、六八五	五、〇九六	—
新町	二、五一〇	一、三六九	二、七九二	—
石濱	七六九	四、四六六	—	—
名屋	八〇四	二七	一、五九五	—
小樽	一、一七七	一、一六六	一、八二〇	—
船川	一、一六六	—	五七六	—
那覇	一、二五二	一五四、一〇四	二四五	—
四市				
熱田				
境				
釜山				
七尾				
門司				
夷鶴				
舞鶴				
計				

斯くの如く浦鹽を基點とする豆粕販路が進展を告げ居ることは大連の搬出事情に幾分の變轉を與ふべきこと勿論にして、最近三箇年に於ける各港別輸入高と其趨向とを前掲の浦鹽輸出量に對照すれば其影響の比較的微々たりとは云へ、亦首肯し得る點の尠なからざるを覺ゆ。

仕向地	十四年			十三年			十二年		
知取	—	—	—	五	—	—	—	—	—
惠須取	—	—	—	—	—	—	—	—	—
小樽	二、三七〇	六〇九	二二	八、七三六	一、一二六	七、二八一	七〇〇	四五六	三、九七四
函館	六〇九	九、八〇八	四、五六四	一、一二六	七、二八一	—	四五六	三、九七四	三、五一五
青森	九、八〇八	四、五六四	六、九八八	七、二八一	—	—	三、九七四	三、五一五	—
酒田	四、五六四	六、九八八	四一、七一四	—	—	二〇、五三八	三、五一五	—	一三、二三八
船川	六、九八八	四一、七一四	一、五二一	—	二〇、五三八	—	—	一三、二三八	一〇、四三二
新潟	四一、七一四	一、五二一	一〇、六二五	二〇、五三八	—	一二、三三九	一三、二三八	一〇、四三二	九、一九四
直江津	一、五二一	一〇、六二五	一四、五二一	—	一二、三三九	九、八七七	一〇、四三二	九、一九四	八二一
伏木	一〇、六二五	一四、五二一	九一三	一二、三三九	九、八七七	—	九、一九四	八二一	三〇四
敦賀	一四、五二一	九一三	六〇九	九、八七七	—	—	八二一	三〇四	一三、八一四
鶴舞	九一三	六〇九	三、九二四	—	—	九、二八〇	三〇四	一三、八一四	一、一五六
宮津	六〇九	三、九二四	—	—	九、二八〇	—	一三、八一四	一、一五六	九一
境	三、九二四	—	—	九、二八〇	—	—	一、一五六	九一	一八、〇七一
米子	—	—	三九、六七八	—	—	三九、七八九	九一	一八、〇七一	二九一、六七一
濱田	—	三九、六七八	二七八、〇六四	三九、七八九	三九、七八九	二九六、〇〇八	一八、〇七一	二九一、六七一	五二、五〇一
石濱	三九、六七八	二七八、〇六四	三五、七一二	二九六、〇〇八	二九六、〇〇八	五四、〇八二	二九一、六七一	五二、五〇一	八四、四二二
横濱	二七八、〇六四	三五、七一二	四九、三〇八	五四、〇八二	五四、〇八二	七一、五四九	五二、五〇一	八四、四二二	一〇二、四七五
清水	三五、七一二	四九、三〇八	七一、六六〇	七一、五四九	七一、五四九	七六、九三四	八四、四二二	一〇二、四七五	四二、一一一
武豐	四九、三〇八	七一、六六〇	三一、三一二	七六、九三四	七六、九三四	四五、六一七	一〇二、四七五	四二、一一一	
名古屋	七一、六六〇	三一、三一二		四五、六一七	四五、六一七		四二、一一一		
四日市	三一、三一二								

大阪	一五、三二一	二、八九八	八、一一七
神戸	一四九、六一五	二一五、六五七	二三九、三六二
尾道	—	—	一五二
三津ヶ濱	—	—	二、〇九九
宇野	一、一三一	二、〇一一	—
糸崎	三、七九一	二、一五〇	—
宇品	六、六八三	六、六七九	七、七八二
關門	八七、一六八	一〇一、〇五二	九〇、三九三
若松	三、九四四	一、四五八	—
博多	三、四一二	—	一、五二一
長崎	八、一八〇	一五、五三〇	一八、九九七
口之津	—	一八三	—
住之江	二、八九〇	二、四六二	二、七三八
若津	一、九六二	二、二七六	五、六八七
三池	四、三二〇	三、三四七	六、〇八六
三角	三四、八五五	四二、四八一	三九、〇五八
鹿兒島	八、七四六	八、一一五	八、五八四
那覇	三、一七九	八、二九〇	七、九四一
基隆	六八、一六二	五九、二〇六	四二、〇〇八
高雄	一三二、三六二	九九、五一八	六七、七〇九
合計	一、一三九、六二一	一、二二六、四七五	一、一九七、一八一

支那各港別移出情勢　支那は滿洲以外にも大豆の生産可成りに多く中部揚子江沿岸地方は所謂河南の産地にして現在に於ても各地に油房を有し自給自足の狀態にあるも、南部地方は一體に大豆の作柄薄く、爲めに滿洲に大豆及其製品の供給を受くる關係にあり、殊に近年其の農耕事情が日本に於けるものに近似し來れる關係上需要は愈々增加の趨向に入り、尙飼料としての使用も相當量に上るを以て將來に於ける支那各港向け豆粕は年と共に增大すべきことを推察することが出來る。最近に於ける各港向け數量を見れば左の如くである。（單位米噸）

仕向地	十四年	十三年	十二年
天津	二八五	—	三一
虎頭	—	—	一二二
崖	一	—	一五三
石虎咀	—	—	—
秦王島	—	—	一二二
樂家口	—	—	一三二
龍口	二二三	六〇三	一、二四七
登州府	五一〇	一五四	三四八
龍旺家	一〇三	二	—
芝罘	二	四〇	一四
威衛	四九	六五〇	七〇三
海島	三九九	一三三	六、〇一三
青島	八、〇一五	二四、二七八	二〇、七三三
上海	三一、〇六九	四九三	—
福州	一、一二六	一三、三二五	—
興化	二〇、四六三	五、三〇三	—
泉州	六、五七一		

油頭	二四、二五九	二二、〇三二	三七、〇〇六
香港	三五、一三二	一六、六四一	五、一一一
廣東	六一	二	—
	四、三二二	二、三五七	三、〇九六
計	一三二、五九〇	八六、二六七	七四、六二一

南洋・歐洲及亞米利加への輸出　現在に於ける豆粕を以て歐米向け需要に範圍を擴張せんと欲せば先づ其の製造工程の改良より始めざるべからず、即ち豆粕をして輸送中腐敗せず、黴の生ぜざることの必要條件を具備せしむる先決問題あり、換言すれば豆粕中に含有する水分を少くし且つ油分を完全に脱せしむるを要件とすることにして、現在の豆粕は厚さ四吋以上なるを以て水分も油分も完全に抜き取り難く、尚一七％以上も水分を含めるため長途の輸送、殊に熱帶地を通過するに於ては黴を生じ腐敗を來し遂に使用に耐へざらしむ、之れ歐米搬出の阻止ぜられ居る原因にして、之を歐米式の一吋厚みの薄粕とすれば幾分其の弊を救ひ得るべけんも一方運送上の困難あり、製造方面に一大打開を與ふるにあらざれば歐米輸出は可なりに困難あることが察せらる、最近三箇年に於ける仕向け港別數量を掲げ其の大勢を見るに便せしめば左の如し。

仕向地	十四年	十三年	十二年
(歐洲)			
ロッテルダム	—	二、九九八	二、〇九〇
ポートサイド	一	一一一	—
ロンドン	一七八	—	—
レイザ	一、七三二	—	—
リバープール	一〇一	—	—
ポートランド	一〇一	—	五五四
計	二、一一二	三、一〇九	二、六四四
(亞米利加)			
ホノルル	—	—	二五
ヴクトリア	五一	—	三〇
バンクーバー	二〇二	一〇〇	五〇
シヤトル	六、三三〇	七、五四二	四、〇一三
タコマ	八五七	一、三五二	七〇一
ポートランド	一、七五三	四、五〇一	二、四〇七
サンフランシスコ	二、〇八六	二、四七九	四四、二〇二
オークランド	二、〇一八	一、一九八	—
ロスアンゼルス	七八六	五五七	四五〇
サンペドーロ	九五八	七九七	六二六
ニューヨーク	二五	—	—
計	一五、〇六六	一八、五二六	一二、五〇四

六　豆粕需給の一般的將來

滿洲に於ける豆粕が主として日本に於て肥料の目的に使用せられ、支那各港向けに其勢を增さんとする趨向にあること前述の如し、然しながら原則として豆粕を直接肥料とすることは可

なりに不經濟の方法たるを免かれず、歐米にありては一般植物種子の油粕は家畜の飼料として利用せられ蓖麻子の如く下痢を起すもの、芥子の如く刺戟性あるが爲めに使用困難なるものゝ外は、腐敗又は黴を生じたることによつて飼料として與へ難きものに非ざる限り直接肥料とすること勘し。然も現在に於ける肥料としての銷化は之を直接施肥し豆粕中の蛋白質を一度アンモニアに分解せしむるの過程を取り居り、分解の遲速吸收の程度にこそ特徴あれ均しく硫安などゝ同一結果の作用を爲さしめ居るものにして、豆粕としての將來は寧ろ蛋白質を利用するに妙味ある如く、假令硫安と逐鹿して勝算歴々たるものありとしても、食料が今日の化學に於て未だ之を人工に求め難きより見て其の蛋白質を利用加工して食料調節に資すべきは經濟的環境上甚だ緊要事項たるの信ぜらるゝものがある、即ち消化性蛋白質の一噸に含有する封度數を他品に比較するに小麥八四、黍一五六、大麥一九二、椰子油粕三二八、亞麻油粕四八八、大豆粕八〇〇封度にして、然かも大豆粕の消化性蛋白は一封度十錢内外に過ぎざるを以て食料原料としての需要を世界的に喚起するの時機に達するを得ば、豆粕の販銷は自ら其の系統を異にするに至るべく、之れが化學的研究と製造工程の改良とは豆粕をして一大飛躍を與ふるの期なるべし。

三　豆　油

一　豆油用途の範圍と其特質

支那に於ける脂油の需要は甚だ多量のものにして、本邦に於ける醤油の需要より遙かに大であることが唱せられて居る。即ち日常の食物に於て殆ど之を使用せざるなく其他器具、家屋等の塗料及燈火用に至る迄其の利用方途の廣汎なること實に驚嘆に價するものがある。惟ふに滿洲大豆搾油業の發達は支那人の此の油に對する需要と大豆の生産に天惠ありしことに出發したるものにて、豆粕が特に日本に於て肥料として利用せらるゝに至りしことゝ、之に伴ふ豆油の生産過剰が遂に歐洲向けに多大の需要を喚ばしむるに至つて更に新たなる發達を遂げたものである。然も海外に於ける豆油の需要は其の當初に於て棉實及亞麻仁の代用品としての使用に過ぎざりしが、使用量の增加と共に大豆油としての價値も年と共に認識せらるゝに至り、價格の廉なることゝ生産量の多大なることは利用の範圍廣大なると相俟つて今や植物性油界に覇を唱するの現狀と爲つた。

一般大豆油の用途に就て見れば、支那人は主として食用に供し、或は燈用とし、或は塗料とし、又車軸用其他の用途に用ゆ。日本に於ては石鹼、蠟燭、精製油、硬化油、グリセリン、特殊防水塗料の原料に供するもの多く、歐米に於ては最も多量に食料油原料即ち人造バター、ラード代用品、サラダ油

人造バター僞和用原料竝にペイント原料、石鹼原料其他ワニス、リノリウム、防水塗料、堅護謨代用品、洋蠟、機械油、漬鰮油、グリセリン竝にダイナマイト及爆發物製造原料として消費せらるゝもの多く、尙リノリウム、化粧料の製造原料として或は催滑用油傘及提燈用油として使用せらる。斯く用途の廣きことは要するに豆油が他油に對する代替性の多き特質を有するによるものにして一面には獨特の用途を有せさるの缺點をも物語るものなれど、其原料たる大豆が既に人類の食用として重要の位置を占め居るものなれば、之が加工によつて生じたる油が食料として利用せらるゝは當然のことにして、只固有の臭氣ありて之れが除去に容易ならず、一旦之を除去するも貯藏長ければ臭氣の戻りある等サラダ油、一般調理用油及人造バターの原料として棉實油に一歩を讓り、石鹼原料としても其必要條件たる鹼化價より見れば、豆油は一九三にして棉實油の一九四、コーンオイルの一九〇と殆ど同等の程度にありて石鹼製造に好個の資料を提供し居る如きも、主として軟石鹼用卽ち消費量多き風呂用、洗濯用及工業用石鹼の原料に向て價格の低廉を强味として消化せられ居り、上等の化粧石鹼用としては落花生油、パーム油、オリーブ油、コプラ油、棉實油に及ばざる狀態にある。卽ち代替性による用途廣汎は特徵卽ち短所たるの嫌ひ尠なからざる如きも、豆油の特徵は製造の容易なることにして、從て製造費の少なきこと、遊離脂肪酸が百分の一乃至百分の一半なるを以て原油の儘比較的長期の貯藏に耐へ得るに特徵あり。又棉實リンシードの如く年に依りて生產高に非常に差違あることなく逐年增加を辿りて、更に一層の原料增收が期待せられ居ること　ある。

二　搾油の歷史と其將來

豆油搾取に關する記錄の現はれたるは、明の崇禎年間卽ち西歷の一六三〇年頃にて、我國に於ける寛永年間卽ち約三百年前の淵源に係るものである。爾來煮取法、舂磨法を經て壓搾法に入り壓搾法も楔式、螺旋式より水壓式に進歩を示しつゝあり、又別に抽出法卽ちベンヂン、ベンゾール其他の揮發性溶劑を用ゐて大豆中の油分を化學的に抽出する方法が採らるゝに至つて居る。抽出法の大豆に利用せられたるは比較的近年の事にして滿洲に於ては鈴木油房に於て採用せられて居るのみである。元來大豆は特產物中にても農家の食飼として消費せらるゝもの比較的尠なく、其の生產總額に對し食料其他は三割二分に過ぎず油房原料として消化せらるゝもの四割二分、輸出二割五分の割合を示し居り、輸出の多くは海外に送られて搾油原料となるものなれば生產大豆の約七割は搾油の用途に向けられ居るものと謂ふことが出來る。

滿洲の油房は總計四百四十八箇所に上り一晝夜の製造能力は豆粕五十三萬枚、豆油二百六十五萬斤である。卽ち之に要する原料大豆約一萬八千噸となり假りに九箇月の操業を爲すものとすれば四百八十萬噸を必要とするが如く、事實大豆生產高の三百五十萬噸を超へず、然も年々七八十萬噸內外の大豆が原形の儘輸出せられ居るに於て其操業に三割內外より能力を擧げ難き

ことは當然の歸趨である。之れ畢竟好景氣時代に當り、產額增加に伴はざる油房濫設を行ひたる結果に外ならざるも、一方海外に於ける近年の製油事業發達は特に英獨に著しき進展を見せ、搾油機械の革新、工場組織の改造等著々たる進捗は世界の各方面より各種の製油原料を蒐集し最も有利なる採算の基礎に加工を行ふに至り、從て滿洲より之等の國々に原形の儘にて送らるゝ大豆の數量漸次激增を喚ぶに至れる事亦與つて力あるものである。就中獨逸に於てはボルマン式最新搾油機械の据付けを見るに至り產油界に一大革命を齎し、搾油上に最大能率を擧げ得ると共に多量の蛋白質を含有する良質の豆粕を得て之を食糧たらしむるに遺憾なきに至つたことが稱せられて居る。卽ち其の特徵は油分を殆ど完全に採取すること、水分の含量を少量に止むることにして固より豆粕中に殘留せる油分は肥料として聊かの效能を有せざるのみならず却て其肥效を遲緩ならしむる缺點あり、卽ち現在の滿洲豆粕が壓搾不充分の爲め豆粕重量に對し七.五％乃至九.五％を含み居り、最も進步したるベンジン抽出法に依る撒粕に於てさへ二.五％乃至五.五％を殘留せしむるに對し、ボルマン式は殘留〇.四五％なることが稱せられ水分に於ても滿洲豆粕の一.三％乃至一.九％なるに對し一〇％弱を示せることが公表せられて居る。而して獨逸政府は國內製油業を積極的に保護することゝなり、其の一方法として滿洲豆油の獨逸に入國するものに對して百キログラムに付き七馬半の輸入關稅を課することゝなりたるを以て滿洲油房業に甚しき衝動を與へたるや勿論なるも、歐米諸國が其の製油業に保護政策を加へんが爲に關稅引上げを敢行したる事は既に米國に於て先例あり、國策上產業の保護に必要ありとせらるれば如何とも阻止に方途なきものゝ如くである。滿洲に於ける油房は日本向けに年額百三、四十萬噸の豆粕の輸出あり、更に南支那にも年額四、五十萬噸の需要あるを以て其の製油業が全然影を減するに至らざること勿論なるべきも、時代に伴ふ研究施設の講ぜらるゝことなければ之が衰微の免がれざるは自明の理にして、卽ち現在と雖搾油法の研究、經營諸制度の改善に就て講究せらるゝあり、一方精製油、硬化油等に幾多の方途打開が盡され居るも畢竟斯業に永き經驗と發達の歷史とを有せる歐米工業に對抗せんとするものなるを以て、其の競爭の要點は科學的研究に其の基礎が置かれねばならぬこと勿論である。昨年八月獨逸豆油關稅の引上げ問題に刺戟せられて組織せられたる大豆工業研究會は要するに此の問題解決に向ひて設立せられたるものにして化學的試驗を諸般の經濟事情と關聯して學理の研究を實際的に效果あらしめん爲めに外ならない。

三　豆油の生產高と其出廻

滿洲に於ける油房の數は、十四年五月末に於て鐵道沿線重要各都市の主なるもの四百四十八を算し、大連八十六、奧地三百六十二箇所なるも沿線以外の交通不便なる地方のものをも加ふれば六百に近く、更に徹底的なる調査を行ふとせば、其數優に一千を超ゆることが想像せられて居

る、乍然之等各地に散在せる油房は單に地方的需要に應ずる小油房にして貿易品として研究すべき豆油の生産額に對しては甚だ交渉の薄いものとせられて居る、卽ち前述四百四十餘の油房生産能力は豆油大約二百六十萬斤と算せられ居るも、滿洲に於ける油房は事實三割內外の操業に過ぎざるを以て、各地油房夫々の事情にありて繁簡極りなく、其の出廻りは必ずしも生産能力と比例するものにあらざるや勿論にして、然も最近浦鹽港の回復は北滿產の一部が東行によつて搬出せらるゝことゝなり、大正九年に於ける六十四噸は十年の千七百三十六噸、十一年の一萬三千九百五十噸、十二年の一萬九千九百十八噸より遂に十三年に於て四萬一千八百四十六噸を出すに至つて居る。卽ち重要物產組合調査による大正十三年十月より十四年九月に至る間の仕出地別到著數量は、浦鹽向北滿豆油の出廻りと仕出地との大勢を窺ふことが出來る。（單位米噸）

ムーダンチャン	一五・七	哈爾賓
一面坡	三二八・二	シャンチェンプ
安達	三、六三二・二	インテンダントスキ
齊々哈爾	一〇六・五	イリンスキー
哈爾賓八區	一八、八九九・〇	二、四一九・一
舊哈爾賓	八、九八三・四	一五・七
		二、八七二・七
		四七・〇
合計	三七、三一九・五	

卽ち北滿に於ける產出が浦鹽搬出に勢を喚ぶに至りたることは自然大連到著に數を減ずることゝなりたること勿論にして、最近三箇年の各主要市場出廻り高及三港到著高竝に浦鹽港よりの輸出高の對比は此の間の事情を雄辯に物語らしめて居る。（單位米噸）

大正十四年

發著驛	大連	營口	安東	其他	計
遼陽	—	六六	—	—	一一四
撫順	—	二	—	—	三六五
奉天	二〇	—	—	—	一〇
鐵嶺	三六三	—	—	—	七五一
開原	一、一八八	六七	—	—	五五六
昌圖	—	—	—	—	二
雙廟子	—	—	—	—	一
四平街	七九二	—	—	—	七一三
四洮線	一六五	—	—	—	三
郭家店	九九	—	—	—	六五
范嶺	六二七	—	—	—	八三一
長春屯家	九九	—	—	—	五一
吉長線	六九三	三	—	—	八三九
東支線	—	—	—	—	—
其他各驛及各線	二、八五一	一、三六	二三	一、〇四三	五
三豆油	一、二四五				二、八五六
					三、四四七

三　豆油

大正十三年

	一	二	三	四	五
遼陽	三五	—	—	二〇一	二三六
撫順	九	—	—	五三八	五四七
奉天	—	—	—	七	七
鐵嶺	六六〇	二三一	—	四二五	一、三一六
開原	三、一三五	五六一	—	八九	三、七八五
昌圖	—	—	—	一	一
雙廟子	—	—	—	—	—
四平街	九九〇	三三〇	—	二五六	一、五七六
四洮線	三九五	二三二	—	—	六一七
郭家店	三三	三三	—	二四	九〇
公主嶺	九六四	九九	—	五〇六	一、五六九
范家屯	三八三	三三	—	六八	四八四
長春	一、七八三	—	—	四〇一	二、一八四
吉長線	六七	—	—	—	六七
東支線	一六五	—	—	一	一六六
合計	八、一四二	一、二七四	三	五、三五九	一四、七九八
外に浦鹽出廻り	—	—	—	—	三三、四七四
總計	—	—	—	—	四八、二七二

三　豆油

大正十二年

	一	二	三	四	五
遼陽	三	一七	—	六八	八八
撫順	—	—	—	八八三	八八三
奉天	四	—	—	一一	一五
鐵嶺	二、二二五	—	—	三五二	二、五七七
開原	四、五五七	一二	—	八〇	四、七四八
昌圖	—	—	—	三	三
雙廟子	—	—	—	二	二
四平街	一、六九二	九六	—	二一三	二、〇〇一
四洮線	一、〇九三	二四	—	八	一、三一五
郭家店	六六	—	—	四一	一〇七
公主嶺	五二八	六六	—	七三	六六七
范家屯	一、四八五	二三〇	—	八〇	一、七九五
長春	一、二五一	五	—	一三	一、三七八
吉長線	—	—	—	—	—
其他各驛及各線計	一、三六六	八四二	三四	一、一九〇	三、四三二
合計	九、九八五	二、三五一	三四	三、七〇七	一六、〇七七
外に浦鹽出廻り	—	—	—	—	四〇、三二〇
總計	—	—	—	—	五六、三九七

東支線	四、八〇五	—	—	—	—	—	—	—	—	—	四、八〇五
其他各縣及各線	一、〇五八	一、三五九	二〇	一、八一四	三、七五〇	—	—	—	四、二五一	二四、六三五	一九、七六〇
合計	一八、七六七	二、〇九八	二〇	一、八一四	三、七五〇	—	—	—	四、二五一	二四、六三五	四四、三九五
外に浦鹽出廻り	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
總計	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

四　豆油の輸移出と其仕向地

豆油は其用途が主として歐洲に於ける諸植物性油の範圍蠶食にあるを以て、從て歐洲向けに數量最も多く、總輸出量の八割乃至八割五分は歐洲向けに占められ居る有樣である、而して其の輸出港としては市場の關係と船便の便宜とにより大連が壓倒的勢力を有せること勿論なるも、近時浦鹽港に回復を見るに至り、十四年に於ては大連六割七分、浦鹽二割、營口一割一分、安東二分の割合を示すに至つて居る。

（單位米噸）

年別	大連	營口	安東	浦鹽	計
大正十四年	一、二、八五八	一八、二二一	三八〇	三三、四七五	一六四、九三四
同十三年	一〇四、一七五	二一、九一七	三二四	四〇、三二〇	一五六、七三六
同十二年	一三四、三一二	一八、五一四	二九五	一九、七六〇	一七二、八八一
同十一年	九九、六八四	一九、一四〇	四二八	一三、八四三	一三三、〇九五
同十年	一一一、二八〇	一七、二〇六	八一二	一、七二四	一三一、〇二二
同九年	一二二、八九三	一四、五〇〇	二九八	六三	一三七、七五四
同八年	一三二、七四二	一五、七四五	二、三八二	七二	一五〇、五九〇
同七年	一二八、九九〇	一一、五六六	二、一四七	一八一	一五二、八八四
同六年	一一三、一二三	八、七五八	三、〇九〇	三五八	一二五、二二九
同五年	七七、九九一	一三、七〇六	三、七三七	三、六七七	九九、一一一
同四年	五八、一四五	一六、九〇九	四、〇九五	一、五〇六	八〇、六五五
同三年	四五、一二八	一三、八八〇	二、三九一	四五	六一、四四四
同二年	四二、九五二	二〇、六二一	三、一七三	五二	六六、七九八
同元年	三五、九一五	二一、六五三	三、二六五	—	六〇、八三三

南滿三港輸出の仕向先は左の如くである。浦鹽輸出は殆ど歐洲向にして前掲噸數の如し。

年別	日本	支那	歐洲	米國	其他	計
大正十四年	四三、八〇四噸	三三、九一七噸	八七、四三九噸	九、一五六噸	五〇八噸	一三一、四五八噸
同十三年	四八二	一七、七七三	八九、七五一	八、一四二	二六三	一一六、四一六
同十二年	七一一	三三、八五四	九三、九八七	二三、六五八	九一一	一五三、一二六
同十一年	六三九	三八、二一三	七二、一二三	七、七三四	五三二	一一九、二六一
同十年	三、七一二	五七、二九一	五九、七〇八	八、一八八	三九七	一二九、二九六

五　大連港に於ける豆油の集散

元來豆油の需要は他の植物油、即ち棉實リンシード其他製油材料の收穫如何に影響を受くること甚だしく、從て一定の規繩を以て漸增の途を辿るものにあらずして、之を過去の推移に顧みれば六、七、八、九の四箇年、即ち歐戰によつて受けたる好影響時代を以て黃金時代となし、爾來歐米に多大の需要を喚びながら歐洲搾油工業の復興と浦鹽港の回復とによつて稍不振の情勢を展示して居る、大正元年以後十四年に至る大連港輸出噸數は明かに此間の事情を物語つて遺憾がない。（單位米噸）

年次	輸出數量	年次	輸出數量
十四年	一一六、〇九九	七年	二〇九、二七五
十三年	一〇四、一〇三	六年	一五九、二八〇
十二年	一四〇、二二六	五年	一〇五、六八〇
十一年	一一五、五〇六	四年	七七、八九三
十年	一一四、〇九五	三年	五四、三四三
九年	一六七、五三八	二年	五二、三四九
八年	一八三、五一五	元年	四九、一二一

更に之に就て仕向地別の勢程を考察すれば米國及日本は大勢に於て歐戰中に最も優勢を喚び、歐洲及支那は戰後に於て需要を加へ居り、而して最近に於て大連に於ける輸移出は保合の情勢にあるを見ることが出來る。

年別	日本	支那	歐洲	米國	其他	計
大正十四年	四二〇噸	九、一一九噸	九三、七六九噸	一一、二〇一噸	一、五九〇噸	一一六、〇九九噸
同十三年	一九八	二、四一六	九二、八〇八	八、六二一	六〇	一〇四、一〇三
同十二年	五二九	七、八三七	一〇四、七二七	二七、〇五七	七六	一四〇、二二六
同十一年	七六四	九、九一〇	九五、六八一	九、〇八二	六九	一一五、五〇六
同十年	四、三六九	二一、六五一	七五、六六一	一二、三〇五	一〇九	一一四、〇九五
同九年	二四、四四三	一〇、二六五	八二、五四五	五〇、一二八	五七	一六七、五三八
同八年	三九、一八八	八、三四八	七〇、二八三	六五、六六五	三一	一八三、五一五
同七年	五、〇六〇	四〇一	七五	二〇三、七三五	四	二〇九、二七五
同六年	二〇、三〇八	一、六四二	八〇〇	一三六、五二八	二	一五九、二八〇
同五年	二九、三五七	九六八	四五、〇四三	三〇、一六七	一四五	一〇五、六八〇

歐洲向け輸出情勢　滿洲產豆油の歐洲向けに旺盛を喚びたる端緒は明治四十一年三井物產が「リバープール」の製油業者に向つて大豆百噸の引合ひを行ひ之を材料として同地製油業者が豆粕、豆油の試製をなしたるに始る。其の結果石鹼業者に多大の好評を博して、同年末更に大豆一萬噸の輸出を爲すに至り、爾來大豆の輸出漸增を見るに至りしが、一面大連に於ける油房の發達は歐洲に於ける搾油業に不引合の形勢を喚ばしめ大豆より寧ろ豆油に一層の優勢を喚ばしむるに至り、大正一、二年の二萬噸臺は四、五年に至りて四萬五千噸臺に進むに至らしめた、然も戰禍

の影響深刻となるに及んでは其の輸出量を甚だしく減じ、大正六年は八百噸、七年は僅に七十五噸を算するに至らしめしが、大正八年より再び回復の途に入ることゝなり十二年に於て最も旺盛を見せたるも、其後搾油工業の復興に連れ、大豆原形に於ける輸入に勢を増すことゝなり、特に十四年十月獨逸が豆油輸入關税を七馬半に引上げ、之れが輸入を阻止して國内製油業の振興に策するに至つたことは一層豆油輸出不振に力を與へた。

歐羅巴向豆油仕向地別

（單位米噸）

地名	十四年	十三年	十二年
ポートサイド	一七、五五六	一四、一一五	一七、二〇七
トリエスト	五、八四一	六、四一〇	一、一六五
ゼノア	一二、〇七八	三、三一一	一、二三〇
マルセイユ	五〇五	一七七	一、二五一
アントワープ	二、二五七	二、八三六	八、三六三
ロッテルダム	一八、二六五	一一〇、九八二	四一、〇八五
ハンブルグ	一二、九〇六	七、五三〇	一一、四〇八
コペンハーゲン	—	—	一、三二五
マルモ	—	一七七	一三三
ストックホルム	—	七五	四九五
ゴセンブルグ	—	—	七〇二
ロンドン	一七、五二三	三一、二〇一	一〇、三一一
ハル	二、〇二五	四、六三〇	七、六五八
リーブール	四、六九七	一、一九九	二、三九四
ネーブル	—	一三三	—
オーロ	—	三二	—
カサブランカ	一三	—	—
ラライセ	四〇	—	—
タンザーエル	二四	—	—
オーラム	三九	—	—
計	九三、七六九	九二、八〇八	一〇四、七二七

米國向け輸出事情　米國への輸出は、大正元年試用の目的を以て二十五噸を發送せるに甫る當時米國は年々百萬樽以上の棉實油輸出國たりし關係上遠く滿洲に豆油の供給を仰ぐを要せず、僅かに安値を利用する石鹸ペイント業者が稀に註文を發したるものにして一箇年二、三千噸内外の程度に過ぎないものであつた。然るに歐戰酣なるに及び歐洲各地に於ける油脂の需要甚だしく嵩まり一方東洋方面よりの船舶極度に逼迫して之が緩和困難なりし折柄、米國も自國内の動植物油を輸送し盡し、爲めに滿洲豆油の需要を喚起するに至り獨逸潜航艇の危險薄く船腹亦比較的豊富なりし太平洋を通じ多大の數量が米國に供給せらるゝに至つた。即ち聯絡港灣に大貯藏タンクの設備を見るに至り數千のタンクカーを以て太平洋諸港と東部工業地とを聯絡する等戰前二、三千噸内外に過ぎざりし輸出量は六年に於て十三萬六千噸を喚び七年に於て二十萬噸を唱するの盛況を見るに至つたが、戰後ハーヂング内閣がウヰルソン内閣に代るや農民

保護の色彩からフオドネー非常關稅を制定するに至り一ガロン二十仙卽ち一封度二仙六七の關稅を賦課することゝなり、更に十一年十月より永久關稅として二仙半を課することゝ決定するに至りたるを以て需要の潮流は玆に堰かるゝの已むなきに至り、大正十四年を以て大正七年に對比すれば實に十八分の一に減ずるの情勢を見るの已むなきに至つたのである。

亞米別加向豆油仕向地別

（單位米噸）

地名	十四年	十三年	十二年
バンクーバー	一五五	六〇	六三
シアトル	四、〇五五	三、四六九	七、九四〇
サンフランシスコ	三、八四〇	二、〇七九	二、四八五
サンペドロ	六七	六二七	六四七
ロスアンゼルス	七四九	—	七五〇
ノルホルク	—	一、五二三	二、七五六
ニューヨーク	七五八	八三三	一、一二七
ポートランド	一、五七七	三〇	一、二九九
計	一一、二〇一	八、六二一	二七、〇五七

支那港向け輸移出　支那に於ては豆油を搾取して食用に供し、豆粕を家畜の飼料とする古き習慣あり、大豆の主要產地として知らるゝ山東、江蘇、河南、直隸、安徽、湖北に亙る各地は何れも多數の小規模油房ありて製油業を營むも、材料の關係上其の需要に對する供給兎角不充分を免れざるを以て、勢ひ其の補給を滿洲に仰がざるべからざる事情にして、從來營口より戎克を以て移出せらるゝもの多かりしが、近來は大連より輸出するものに增加を見るに至つて居る。

支那向豆油仕向地別

（單位米噸）

地名	十四年	十三年	十二年
天津	二六五	三	一二
龍口	九	一	七
登州府	一二	二	四一
芝罘	六	—	—
青島	一五	一〇	二二一
上海	五、二〇二	一、二〇二	四、七三八
寧波	一九一	二六	六八
香港	六一〇	二一四	一、〇六六
廣東	一、八八七	九四六	一、六八三
虎頭崖	一	一	—
威海衛	六三	一	—
福州	四七五	一〇	—
梁家口	三	—	—
海州	二五	—	—
汕頭	三五五	—	—
計	九、一一九	二、四一六	七、八三七

日本向け輸出事情　滿洲に於ける豆油の貿易品として現はれたる當初に於ては其の大部分は神戸に向けられ而して更に歐米へ轉送せらるゝの狀態であつた、偶々大戰に際し歐洲向け航

路の杜絶に會し輸送系統の米國に移るや自然日本向けの輸出量を減ずるに至り、其後も大連の港勢擴大と輸出數量の增加とにより日本通過を必要とせざるに至りたれば、最近に於ける輸出量は僅かに四、五百噸内外に過ぎざるの狀態となつた。日本内地に於ける採油工場は現在其の數十八に過ぎず、其の產油採算も輸出に向つて滿洲產に對抗すること困難の立場にあり、何れも精製加工を行ひ油揚天ぷら用として又車軸用、塗料用、石鹼製造用として自給自足の方途に入らんと努め、菜種油の用途に換はりつゝある有樣なるを以て、化學的作業に更に一歩を進めざる限り豆油の日本向けは多大の將來を望み難きものゝ如く、現在の仕向港は神戸を第一とし横濱、大阪之れに亞ぐ、之れ主として豆油工業地としての原料關係竝に外國向輸出の振替事情によるものに外ならざるなり。

日本向豆油仕向先別

（單位米噸）

地名	十四年	十三年	十二年
横濱	一一六	—	七〇
古屋	一	—	五
武豐	—	—	一四五
大阪	七一	三	一二五
神戸	一八九	一三〇	一五一
門司	—	—	一
關品	一四	三	三
長崎	一七	三一	一九
基隆	—	—	一〇
大泊	二	二	—
東知	—	二	—
嘉取	—	一	—
須取	—	一六	—
青森	五	—	—
境	—	一〇	—
高雄	五	—	—
計	四二〇	一九八	五二九

戎克による移出入　汽船貿易に比すれば戎克による數量は甚だ少量のものなるも、尙大連に集散するもの、搬入に於て五百噸を超へ、搬出に於て五千噸乃至一萬噸を往來して居る、但し搬入は鏡子窩よりするもの多く、主として州内及之に近接せる地方にして馬車輸送によるよりは寧ろ戎克によるを便とせるもの及山東萊州方面より入るものである。

（移入）　（單位米噸）

地名	十四年	十三年	十二年
奉天省	—	—	三九
安東及大孤山	—	—	—
莊河	三一	—	—
子窩	四八三	三八七	五〇六
三豆油			

三 豆油

(移出) 地別	十四年	十三年	十二年
其他	三七	|	|
計	五五一	三八七	五四五
山東省			
平暢河	|	一	|
萊州府	二九	一三一	一八
緊山	|	|	一
石島	|	|	九
淮河	|	一二	|
計	二九	一四四	二九
總計	五八〇	五三一	五七三

三 豆油

(移出) 地別	十四年	十三年	十二年
奉天省			
安東及大孤山	|	|	三六
莊河	六〇	|	九
浪窩口	四	|	|
天橋廠	三五一	|	|
其他	|	|	一九
計	四一五	|	六四
直隸省			
大庄河	二二	一五	六六
蘆臺	|	一	四六
天津	六	|	一五
大清河	三六九	一五	九三
關裡	六	|	|
其他	一二	五〇	一〇四
計	四一五	八一	三二四
山東省			
大山	三	|	五
羊角溝	|	|	三九
登州府	一四	八	七
平暢河	|	|	二
威海衛	五八	六	七四
砣磯島	|	|	七三七
長山島	四	|	一
俚島	|	一	五
石舊所	|	|	一八九
濤雒	一八	|	九三
萊州府	四	|	|
淮河	八	|	|
梁家河	七五	|	|
其他	七	|	一三

三豆油	一九一	一五	一、一六五	
計				
江蘇省				
鹽城	二、五三四	四九八	二、九五九	
海浦	四八二	三一三	八三四	
上海	四、九七七	三、八三四	三、六三七	
其他	三八五	五八	一五四	
計	八、三七八	四、七〇三	七、五八四	
其他				
寧波	四五七	一三〇	二八五	
福州	一六一	一〇五	二七九	
計	六一八	二三五	五六四	
總計	一〇、〇一七	五、〇三四	九、七〇一	

四　取引及採算

一　大豆栽培の收支計算

滿洲に於ける農業地は、其地域の廣汎なる事情より、多少農作に趣を異にすること勿論なるも、概して坦々たる平原にして、然も其農民の多くは移住者にして漸次開拓の歩を進めつゝ北遷したる事情にあるを以て、農具農法何れも其の軌を一にして、大豆栽培法に於ても亦其の經營に多少の集粗こそあれ大體に於て其方法を一にして居る。

整地及播種　整地に對する耕耘方法に耕地、畠地、翻地の三あり、何れも牛馬を以て曳かしめたる犁によりて土地を耕起し、土壤を膨軟ならしむる目的にありと雖、整地に際し畦と溝とを造るを翻地と稱し耕地、畠地は全面平坦となつて畦を立てざるものにして、即ち耕地及畠地は翻地に比し一層集約的方法なるも、海城附近より以南、關東州内には行はるゝも北部地方には之れを見ること甚だ稀である。之を一般に就て見れば大豆作は前年休閑したる畑、或は土壤固結して畦立するに困難を感ずる土地、又は特に集約なる栽培を爲さんとする以外には耕地を膨軟ならしむる目的の爲めに耕起を行ふこと尠くして、土地の耕鋤と同時に播種に要する畦立作業を兼ね行ふを通例として居る。其の播種に先ち大抵三月下旬より四月上旬の時期に於て、肥料を前年來の内に散布し、然る後牛馬に犁杖を曳かしめ、前年作物を栽培したる畦の中央を耕鋤せしむ、然

る時は畦の土壌は左右の溝に反轉して前年の溝は今年作物を栽培する畦となる肥料を適當に埋沒して整地の目的を達せしむ。播種は四月中旬より五月中旬迄の間にして、北部地方は他作物に先ちて播種し、南部地方は高粱、玉蜀黍に亞ぎて播種を行ふ。之れ北部地方は秋冷の來ること早く作物の生育期間南方に比し短きによる。

大豆作に於いて行はるゝ管理法の主なるものは、除草、間引、中耕及培土にして、除草は鋤頭と稱する柄と刄の角度少なる農具を以て雜草を根元より削り取る、回數は雜草の多少、勞力の關係より時期及回數を異にするも、發芽後十七、八日卽ち高さ三、四寸に生長したる折に第一回の除草を行ひ、其後二、三週間置きに第二回、第三回を行ふ、開花期に至り雜草の發生多ければ更に一回を加へて之を除去す。間引は第一回除草の際鋤頭の尖頭にて厚播きを間引し第二回の際更に適當に之を行ふ。中耕は多く培土を兼ね行ひ、除草に引續き犁の鑱の兩角を缺きたるものを牛馬に曳かしめて耕溝内の土を左右に分け、作物の根側に覆土す、蓋し中耕、培土の時期は除草後直に行はれざれば下葉黄色を呈し發育不良の因を招くと云ふ、中耕は大體三回を以て普通となすものゝ如くである。

收穫は品種により早晩の差あるは勿論、年々の氣候により又農家の努力により一定せざれども、概して南方は遲く、北方は早し。之れ北方は秋冷早き關係より種實の登熟を早めしむるによるものにして、何れも成熟するに從ひ漸次黄葉して遂には全く落葉し、其の莢は褐色を帶ぶるに至る、是れ收穫の適期に達せる特徴である。收穫の方法には拔き取るものと鎌を以て刈取るものとあり、前者は北方に多く、後者は南部地方に多く行はる。斯くて充分乾燥追熟せしめたる大豆を脫穀場に運搬し、之を堆積して雨露を防ぐ裝置を施し、農閑の時期を見て脫粒す。

收量は各地方の肥瘠及其年の豐凶或は品種等により大差あるも、平年に於ける中等地の平均收量は反當り一石内外にして、左記各地に於ける數量は各地域に於ける收量の大勢を想像することが出來る。

地方名		反當平均收量
熊岳城	上等地	一・一九石
奉天	中等地	一・〇〇
鐵嶺	上等地	一・〇五
公主嶺	同	一・五〇
遼陽	上等地	一・三八石
開原	同	一・一八
四平街	同	一・五〇
長春	同	一・三〇

尙公主嶺農事試驗場に於て試驗せる主なる品種の自大正二年至大正八年七箇年に亘る平均收量は左の如き割合となつて居る。

奉天白眉	反當平均收量	一・二六七石
四平街白花	同	一・一七六
四平街黑臍	同	一・一九九
奉天黑臍	同	一・二四〇
公主嶺白眉	反當平均收量	一・二四〇石
開原白花	同	一・一七九
公主嶺丸形黑實	同	一・二〇九

既に脫穀場に搬入堆積せられたる大豆を脫粒するには、大豆の莖稈と共に脫穀場に擴け六、七寸の厚さとし、其の上を石製のローラーを轉曳せしめ、豆粒の全く莢より脫離するに至りて、莖莢

を木叉を用ゐて掻き集め、殘留せる豆粒は莢、塵芥、土砂等の夾雜物より選別す。選別を終りたる大豆は直ちに麻袋に入れて市場に出すことあれども、多くは之を貯藏し結氷期を俟ちて市場に搬出するを常とす。

即ち叙上大豆栽培に就て滿洲に於ける生産費平均額を調査すれば、其の收支計算は大體に於て左の如き數字を示すことゝなるのである。

南滿洲大豆生産費

1 滿鐵調査　大正十四年度、面積一天地六反、市場距離二十哩

收入之部

種目	數量	單價	金額	備考
種實	五石一	一五・〇〇元	七六・五〇元	反當日本桝八斗五升
莖稈	二一〇貫	三・五〇	七・三五	反當三五貫
計			八三・八五	

支出の部

種目	數量	單價	金額	備考
地代	三斗五升	一・五〇元	三〇・〇〇元	中地
種子代			五・二五	
肥料代	四〇〇〇斤	一・五〇	六・〇〇	單價は千斤
肥料運搬費	馬車一	三・〇〇	三・〇〇	人夫附
施肥費	人夫一、三	七〇	九一	
播種費	馬二 人夫三	一・五〇	三・〇〇	
鎮壓費	馬〇、五 人夫〇、五	一・五〇	二・一〇〇	
除草中耕	馬三 人夫一、五	一・五〇	七五	
收穫	二、五	七〇	三五	
運搬	馬車〇、八 人夫一、三	三・五〇	四・五〇	
脱穀	馬一、三	一・五〇	一〇・五〇	
調製	人夫三	七〇	一・七五	
運搬費			二・八〇	
雜費			九一	
計			一・九五	
			二・一〇	
			四・〇八	行程二十哩一石八〇角とす
			二・五〇	學校費、保甲、團費其の他稅金を含む
			八三・一五	

差引益　〇・七〇

備考

一、即ち日本桝一石の生産費は小洋一四元八六

二、生産費計算には支出中より莖稈の收入を控除せり

三、日本桝一石を二二一斤とす

2 公主嶺滿鐵農事試驗場にて在來農法に依れるもの（面積一天地即ち六反歩）

收入之部（價格の右側は小洋にて左側は金なり）

種別＼年次	大正九年		大正十年		大正十一年		累年平均
	收量	價格	收量	價格	收量	價格	
種實	二、八四二 支石	四九、七三三 四三、六九〇	三、四四七 支石	六八、三〇六 五九、四九九	二、九一九 支石	五四、六五〇 三九、七八六	五七、五六三 四七、六五八
整科	一五九、二〇 支斤	七、九六〇 六、九八七	一五七、三〇 支斤	七、八五〇 六、八三七	一一九、六七	五、三八五 三、九二〇	七、〇六五 五、九一四
合計		五七、七一三 五〇、六七七		七六、一五六 六六、三三六		六〇、〇三五 四三、七〇六	六四、六三四 五三、五七三

支出之部

種別＼年次	大正九年		大正十年		大正十一年	
	小洋	金	小洋	金	小洋	金
播種地代	三一、五九八	一一、七四一	一一、六七六	一一三、二四	一四、三一〇	一一、七一一
施肥料代	三、七一一	四、六四三	一一、七九八	一、八一八	三、七二九	一一、七五四
施肥料代	八、九六四	一一、七〇〇	一八、〇〇〇	一一、七〇〇	一五、八四〇	一一、七〇〇
施肥運搬費	四、〇一一	五、八一四	四、一〇〇	一一、七一九	四、一六〇	三、一一七
施肥運搬費	〇、四六〇	〇、四四七	〇、三八〇	〇、一四八	〇、四〇〇	〇、一五三
種費	三、四一〇	三、五八一	三、一六〇	一一、一三〇	三、六〇〇	一一、六三七

損益計算

種別＼年度	大正九年		大正十年		大正十一年	
	小洋	金	小洋	金	小洋	金
日本桝一石生產費	一一、〇三〇	一一、一六〇	一〇、四三〇	七、〇〇〇	一一、〇七〇	八、一〇〇
一坦生產費	四、九九〇	五、〇五〇	四、七一〇	三、一七〇	五、〇一〇	三、六七〇
收入	五七、七一三	五〇、六七七	七六、一五六	六六、三三六	六〇、〇三五	四三、七〇六
支出	六七、五四八	六七、二七〇	六九、六八八	五三、六七四	六五、一八四	四七、六七一
差引損益	(一)九、八三五	(一)一六、五九三	(一)六、四六八	一三、六六二	(一)五、一四九	(一)三、九六六

備考

一、但し支那桝一石は大正十年迄一石九斗にして大正十一年度は一石八斗五升なり

二、生產費の計算には支出合計中より整理の收入を控除せり

三、日本桝一石を二二一斤として計算す

二　奥地搬出と混合保管

滿洲特産の域内輸送は南滿洲鐵道及東支鐵道を以て其の幹線とする、即ち滿鐵は大連より長春に至る四百三十七哩の本線と、安東より奉天に至る安奉線、撫順線、營口線其他合計二百三十九哩の支線を以てし、之に加ふるに培養線たる四洮、洮昂兩鐵道を四平街に於て接續し、吉長鐵道を長春に通ぜしめ、而して更に長春に於て東支南線に聯絡す。即ち大石橋以北は遼河の流域及松花江の支流一帶に於ける肥沃なる農産地を貫通し、然も常に特産物の吸收策として或は東支鐵道と運輸協定をなして北滿大豆の南下策を畫し、或は混保制度を設けて取扱に迅速を計り、其他主要驛に倉庫を增設する等、輸送と金融とに便宜を供し、滿洲特産輸送の中樞を作り、一方東支鐵道も亦北滿の穀倉地帶を横走し、大連の海港として有する繁榮を浦鹽に移さんことを努め、鋭意物資の吸收策を圖りて裏日本方面及び歐洲向け大豆に漸次殷盛を告げ居り、之等鐵道に聯絡する水運あり、馬車便あり、前者は南滿に於ては遼河、北滿に於ては松花江最も多く利用せられ、何れも低廉なる運賃と馴致せられたる特種習慣によつて特産輸送に重要なる位置を占め、後者は水運なき生産地と鐵道との聯絡に唯一の交通機關をなして居る。然しながら之等各交通機關を通じ、特産の海港搬出に對する最も特色ある取扱は、滿鐵に於ける大豆及豆粕の混合保管とする。

混合保管とは同一の寄託貨物を全部混合の形式に依りて保管するものにして、貨物の寄託者は寄託貨物全體の中にて、各自の寄託したる數量だけの所有權を持つ保管方法である、滿洲に於ては大正二年十二月滿鐵が大連埠頭に於ける豆粕の混合保管規程を制定し、同年十二月一日より之を實施したるを以て混合保管制の濫觴とし、當初檢査方法其他に多少の不平ありしに拘らず、混保の性質諒解と共に當業者の歡迎を受くるに至り、大正四年奉天、鐵嶺、開原の三驛に奥地産豆粕の混合保管を實施するに至り、其の普及と共に大豆の混合保管を實施するの氣運を促進し、大正八年十二月より沿線各驛に亙る大豆の混合保管が行はるゝに至つた、即ち之れが普及を促進せんが爲め所定の奬勵金を交付するの規程を定め、次で大正十年一月より豆粕も亦大豆混合保管施行各驛に於て實施することゝなり同年十月より小麥の混合保管をも開始し、更に東支南滿聯絡大豆の混合保管を十一年十月より取扱ふことゝした。而して豆油の混保問題も目下施行法研究中なるを以て遠からず實現せらるべく、又混保大豆の撒積輸送に對する撒保管がグレーン、エレベーターの施設完備によりて包裝麻袋の不用となる等其他保管引渡しに際して便益を得るに至るべきことが豫測せらるゝに至つて居る。

現在實施せられ居る保管條件の大要を擧げて概念を示せば左の如し。

一、大　豆

一、受寄及出庫の取扱は別に定むる驛所に限り行はれ、寄託者は寄託の際出庫驛所の指定を爲すことを要す。

一、品質、麻袋、口縫絲及口縫方法は會社所定の大豆其他檢査規則に依る檢査に合格したることを要し、寄託者は一袋毎に寄託者の氏名又は商號、改裝地名及改裝の年月日を記載したる會社所定の證票を挿入することを要す。

一、保管は生産年度を異にするもの毎に區別し出庫は受寄物と同一年度生産のものに就き之を行ふ、入庫の際檢査に附すべき袋數は寄託總數の約一割とし、一口の袋數は三百五十袋とし各袋は風袋共百四十二斤以上の重量を有することを要す、但し重量に付ては三十袋の重量四千二百六十斤以上(此の内六袋迄百四十一斤以上百四十二斤未滿のもの混入を妨げず)を有するか三百五十袋(各袋は風袋共百四十一斤以上たることを要す)の重量四萬九千七百斤以上を有する場合に於ては此の限りにあらず、荷繰りに付ては三十二噸八分を一口の重量と看做す。

一、寄託者又は證券所持人は出庫の際所定の手數料を支拂ひ品質又は數量の檢査を請求することを得、手數料は會社の責に歸すべき變質又は減量ありたる場合に於ては之を返還すべし、檢査に付異議の申出ありたるときは所定の會社及關係同業者組合の選定する特別委員之を決定す、會社は一口の重量に付て責任を負ふ但し毎年生産期の始めより翌年三月末迄に出庫の分に對しては千分の十五、又前年生産のものは四月一日以降出庫の分に對しては千分の十五又前年生産のものは四月一日以降出庫の分に對しては千分の二十五以内の減量は受寄物の性質上減量したるものと推定す。

一、會社は出庫の際等級の異りたる麻袋の引渡を爲すことを得、其の場合に於ては別に定むる所に依り格差相當の金額を授受するものとす。

一、舊一等麻袋は　新品に對し　一袋に付　金　八錢値引
一、舊二等麻袋は　同　同　金十六錢値引

一、鐵道に依り到著せる會社の混合保管大豆にして大連、營口、普蘭店及安東に於て出庫するものに限り出庫の際當分の内一口(一車)に付金十五圓の大豆混合保管奬勵金を交付す。

一、檢査に就ては受寄物の提供と共に先づ麻袋の檢査を行ひ口縫絲及口縫方法の適否を檢し、一口中より適宜三十袋を選出し之を一袋宛檢斤して其合否を定め、品質の檢査は寄託申込一口の中少なくとも三十袋を選出し各其の口縫絲を解き回轉差を用ゐて各袋より一定の分量を所定の容器に摘出し檢査の上其の等級を定む、檢査に對する作業は會社に於て之を負擔す。

一、檢査に合格したるものは其の全部に對し各袋毎に別に定むる檢査人番號を刻したる左記様式の檢印を押捺するものとす(檢印形狀は一年毎に循環使用せらる)

大豆品質	檢印形狀	麻袋	
特等品	◎	新品	舊一等
一等品	□	赤色	青色
二等品	⬡		黑色

檢査に合格せざるものは各袋毎に左の檢印を押捺して識別に便す。

品質不合格　赤色
麻袋不合格　黑色　×印

麻袋、重量及品質の檢査に合格せざるものに對しては所定の檢査料を徵す。

一、白眉大豆、黑豆、青豆、金元豆、油豆及白花子以外の大連、營口、奉天、普蘭店及安東到著大豆(東支線雙城堡及其の以遠の聯絡驛發大豆及大連、營口若は奉天構外搬入大豆並に普蘭店及安東驛著受寄驛以外の驛發送を除く)にして混合保管に寄託せざるものに對しては所定の別扱手數料を運賃と同時に拂込ましむ。

二、豆粕

一、混合保管丸形豆粕は大連並に營口產と大連、營口以外の各地產とに區別して保管し入出庫共各別に之を行ふ、豆粕一口の數量は之を一千一百枚とし品質は大連取引所に於て取引せらるゝものを標準とし、重量の檢査は一口毎に任意の四十枚を摘出し之を五枚宛檢斤して一枚の平均重量が所定重量以上に達したるものを以て合格とし、其の毎五枚の重量は所定重量の五枚分より一斤以下の不足あるを妨げずとなす、以上の檢査に合格せざるものと雖寄託者の請求ある場合は全數量に對し檢斤を爲し一枚の平均重量が所定の重量を有するときは之を合格とす、但し毎一枚の重量は所定重量より一斤以上の不足あるを得ず、叙上の檢査に手數を要したるときは其の費用を申受くべし。

一、混合保管豆粕には一枚毎に製造地名及製造者名の極印を附するを要す。

一、大連及營口產豆粕にして毎年十月一日より翌年六月三十日迄の期間に受寄せらるゝものは一枚に付左記重量以上を有することを要す。

熱粕四十六斤五分、中冷粕四十六斤二分、冷粕四十六斤、毎年七月一日より同年九月卅日迄の期間に受寄せらるるものの一枚の重量は前項重量に各半斤を加へたるもの以上たることを要す。

一、奥地產豆粕入庫の際は一口毎に別に二枚を添加するものとす、保管中會社の責に歸すべからざる事由に因り本貨物に損害を生じたる場合に於て其の責任者不明なるとき之を以て補塡す。

一、大連、奉天及營口到著並に搬入の丸形豆粕にして會社の豆粕混合保管に寄託せられざるものは別扱手數料として十枚若くは其の未滿毎に金一圓五十錢を運賃と同時若くは入庫の際に受入る、但し青粕、黑粕、耳附粕、小粕並檢査に不合格となりたるものは此の限りにあらずとなし、輸出聯絡豆粕、東支線雙城堡及其の以遠の聯絡驛豆粕に對しては當分の中之れを徵收せず、

一、檢査に對しては左記に該當するものは品質不合格として取扱ふべし(一)青豆若くは黑豆の混入に依り一見青粕又は黑粕と紛はしきもの(二)壓搾不十分の爲め龜裂を生じ容易に破損する虞あるもの(三)雨露霜雪の損害を蒙りたるもの(四)油の沈澱物又は土砂を內部に包込みたる

「もの(五)裏面を削りたる形跡あるもの(六)製造後長期に、亙り黴を生じ又は變色したるもの。

混合保管に附すべき豆粕にして品質、重量並に極印の檢査に合格したるときは大連產及營口產は無印とし、奥地產には黑線一本を施す、奥地產と雖大連到著後規定の檢査を受け混合保管に寄託せる場合は無印とす、不合格品に對しては各赤線三本を施すものとす、但し大連產豆粕一口三百斤以內の斤量不足品に對しては紫線一本を施すものとす。

三　特產三品の取引事情

大連に於ける取引は殆ど全部大連重要物產取引所內に於て行はる。該取引所は大正二年九月開始の官業取引所に係り、其擔保及清算事務を取扱ふ目的を以て同時に開業したる大連取引所信託株式會社と相俟つて滿洲特產取引の中心をなし、其公定相場は今や世界的標準をなさしむるに至つて居る。

一、現物取引

大豆　大豆の現物取引を大別して袋込大豆、裸大豆及び看貫大豆の三となす、袋込大豆は混合保管證券一口三百五十袋、正味斤量四九、〇〇〇斤を以て賣買單位とし、呼値は麻袋價格を含めたる百斤の價格とす、品質は特等品、一等品、二等品と各區別して取引し、又麻袋の新舊をも明示す、主として船積物又は定期の引當てとして賣買せらるゝものは之なり。裸大豆は混合保管證券一口三百五十袋、正味四九、〇〇〇斤を以て單位とし、呼値は百斤の價額(麻袋の價額を含まず)を以てす、油房原料の引當てとして取引せらるゝものを主とす。看貫大豆は主として北滿大豆にして混合保管以外の大豆とし、通常大連油房の原料として買付せらるゝものにして受渡しの際實斤量を看貫し品質をも其の都度立會ふものとす、看貫費用は賣手負擔とし、麻袋の斤量は一枚に付二斤としてグロス斤量より控除するを習慣とす。受渡期間は大連取引所第五條に「現物取引の受渡期間は十日以內とす」と規定せるも實際に於ては現物大豆の受渡しに關しては其の時々賣買兩者にて特定す、卽ち現物證券渡しは混合保管大豆出庫期間卽ち入庫日附より七日間を經過したる證券を賣買成立の翌日引渡す、右の證券を賣買成立後三日目に引渡しを爲すを三日物と稱し、五日物、一週間物皆之れに準ず、看貫物は賣買成立後十日以內に埠頭にて立會ひ看貫をなし代金の受渡しを了するものとし、埠頭繁忙の折柄は屢々之が受渡しを遲延することあり。賣買費用とは取引人間の直接賣買にありては賣買兩者共に手數料を要せず、若し仲買人を通じて賣買する場合に於ては口錢として大豆一車に付金五十錢を支拂ふ。受渡場所に就ては混合保管物は全部埠頭渡しとなす。

豆粕　豆粕取引の種類は

一、混合保管合格品(無線)

二、混合保管不合格品

A(紫線)一千枚四六、〇〇〇斤に三〇〇斤未滿の斤量不足品にして大連定期受渡の場合受渡數の一割迄は一枚銀三錢引きにて受渡出來得るもの

B(赤線)三百斤以上不足品又は形狀不良、品質不良

三、貨車粕(青線)

四、耳付粕

以上四種あるも大連に於て取引せらるゝ殆ど大部分の豆粕は第一の混合保管合格品にして大連取引所の受渡しの目的物を爲して居る、豆粕は千枚(四六、〇〇〇斤)を以て賣買單位とも、呼値は一枚の價額を以てす、混合保管は紫及赤によつて其の程度を別ち、貨車粕は奥地產豆粕にして大連混合保管に寄託せらるゝものにして青線を引く、耳付粕は特に南支方面の需要に供するものにして毎年六、七、八月頃に製造せらるゝもの多し。受渡期間は翌日渡し二、三日物、四、五日物、一週間物及二週間物あり。賣買費用は仲買人を通じて現物豆粕を賣買するときは口錢として一千枚に付金七十五錢を要し。受渡場所は一般に埠頭倉庫渡しとす。

豆油　豆油は一般に五百函(正味五十六斤七分詰)即ち二八、三五〇斤を以て賣買の單位となし、呼値は百斤の格價を以てす。受渡期間及受渡場所に就ては賣買成立後十日以内に買主は賣主の院内に容器を運搬して豆油の引取をなし其の際發行する豆油受證と引換へに代金を支拂ふ。賣買費用は組合員の直接賣買は費用を要せざるも仲買人を經るときは百函に付金七十五錢の口錢を要す。

二、先物取引

大豆　受渡しは滿鐵混合保管品一等品新麻袋入りを以て標準物となし、年々其の金額を異にするも、大約特等品は百斤五錢增、二等品は五錢減となし、舊一等麻袋は一枚に付金八錢減、舊二等品は一枚に付金十六錢減内外となす。賣買單位は一車三百五十袋、正味四九、〇〇〇斤を以てし、呼値は百斤の價額(麻袋の價格を含む)を以てす。受渡期限は五箇月以内とし其の受渡期日は毎月末日とす。賣買證據金は競賣買の方法により取引せらるゝ關係上、本證據金(價格の百分の三十以内)、追證據金(本證據金の半額を損方より差入る)、增證據金(價格の百分の五十以内)を徴收することとし、現在の本證據金は大豆一車に付銀八十圓にして、追證據金は賣買當日の帳入値段より百斤に付銀八錢を變動する毎に銀四十圓を損方より信託會社に差入る。增證據金は相場に激變ありと認むるときは適宜信託會社に於て賣買双方より追納せしむ、賣買諸費用としては其の賣建又は買建に對し、

信託會社手數料(大豆一車に付銀一圓三十五錢、特別手數料金一圓五十錢、仲買手數料金五十錢、取引税一箇月公定相場一萬分の二を要す。

以上は取引人が仲買人の手を經て取引するものにして、其費用は賣建又は買建一方に對し大豆百斤に付八厘となす、されば轉賣又は買戻をなしたる場合は往復一錢六厘を要するものとす。

豆粕　受渡しは滿鐵混合保管豆粕合格品を以て標準とす、即ち豆粕一千枚(四六、〇〇〇斤)を賣買單位とし呼値は豆粕一枚の價格なり、但し混合保管不合格品(紫線斤量不足の不合格品に限る)にありても受渡數量の一割以内に限り之を提供することを得、此の場合に於ける豆粕の不足斤量は千枚に付三百斤以内(一枚四十五斤七分)にして渡方は一枚に付銀三錢の格差を支拂ふことを要す、尙ほ不合格品の受渡有效期間は入庫後三十日以内なることを必要とす。受渡期限先物豆粕受渡期限は五箇月以内とし受渡期日は毎月十四日及月末とす。賣買證據金は從來は相對賣買の方法により取引せられたるが大正十二年三月信託會社の增資を條件として競賣買の方法により取引することに變更せられたり、即ち本證據金は價格の百分の三十以内、追證據金は本證據金の半額を損方より差入る、增證據金は價格の百分の五十以内とし、現在本證據金は豆粕千枚に付銀六十圓にして追證據金は相場が賣買當時よりも一枚に付銀三錢方變動する毎に銀三十圓を損方より信託會社に差入る、增證據金は大豆の場合と同じ。賣買諸費用は賣建又は買建に對し、信託手數料(豆粕千枚に付銀一圓)特別手數料金一圓五十錢、ブローカー手數料金五十錢、取引稅一箇月公定相場一萬分の二約三十六錢を要することゝなる。

豆油　受渡しに就ては品質に關する詳細の規定なく賣買兩者が其の都度立會の上良否を決定す、賣買單位は五百函(五十六斤七分詰)即ち二八三、五〇斤にして呼値は正味百斤の價格とす、受渡期限は先物取引の契約期限は五箇月以内とし受渡期日は毎月十四日及末日とす、豆油の取引は大豆及豆粕と異り相對賣買の方法により取引せらる、賣買成立したるときは取引人組合の定めたる豆油先物相場賣買受渡及清算申合規約に基き信託會社をして清算事務を取扱はしむ、物件の受渡しに付ては荷渡人は受渡期日より起算し、七日以内に引渡に必要なる準備をなしたる上受渡物件の所在場所を指定し之を荷受人に通知するものとし、荷受人は前項の通知を受けたる翌日より起算し七日以内に受渡物件の引取を完了するものとす、受渡場所は賣主の院内渡とす、從て買主は賣主の院内に容器を運搬して受取らざるべかるざるものとす。賣買諸費用として は賣建又は買建に對し左の諸費用を要す、信託會社整理手數料(毎五百函)銀一圓三十五錢、仲買人手數料金七十五錢、取引稅一箇月公定相場一萬分の二を要することゝなる。

三、三　品　相　場

需要と供給との關係により公定相場に騰落を示すこと一般原則に違はざるも、之を過去十數年に顧みれば其の需要範圍の擴大は生產事情の急速度なるに超へ、各品何れも年々の昂騰を免れざる事情にある、即ち大正二年以後に於ける各月高低相場を擧げ變遷を窺ふに資せば卷末第一表、第二表、第三表の如くである。

四　特產市場と銀爲替取引

滿洲に於ける通貨と、支那の一般通貨事情と共の輸を均しくし、各種貨幣の比價に著しき變動

あり、爲に大連重要物產取引所內に於ける特產物の賣買が銀建取引を以て行はれ居る以上金銀の比價及通貨の差額に依りて受くる相場の高低に無關心たる能はず、卽ち貨幣賣買に關する特種機關の運用を俟つにあらざれば取引所の機能を全ふし能はざるの狀況にあるを以て錢鈔取引部を設け、別に其擔保及清算業務に當らしむる爲め錢鈔信託會社を組織して其取引機關の萬全を期せしめて居る。

錢鈔取引を大別して二種とす、一、現物取引　二、先物取引卽ち之れである。

一、現　物　取　引

現物取引市場にて取引せらるゝ目的物左の如くである。

鈔票對金票　正金銀行發行の圓銀券(鈔票)百圓に對する朝鮮銀行券(或は日本銀行券)の數字を以て表示す。「鈔票對金票一〇三」とは鈔票百圓を以て金票百三圓と交換することを意味す鈔票は主として特產物の取引に用ゐらる。

鈔票對小洋　正金銀行鈔票を標準として小洋錢の數字を以て相場を表示するものにして「鈔票對小洋一一二」とは鈔票百圓は小洋錢百十二圓なることを意味す、小洋錢は支那人間日常の通貨として使用せらる。

金票對小洋　朝鮮銀行金票を標準として小洋錢の數字を以て相場を表示するものにして「金票對小洋一〇九」とは金票百圓は小洋錢百九圓なるを意味す。

鈔票對大洋　現大洋百圓に對する鈔票の數字を以て相場を表示するものにして「鈔票對大洋一〇四」とは現大洋百圓は鈔票百四圓なることを意味す。其他取引の目的として正金銀行日本向電信買及上海電滙あり、前者は正金銀行に鈔票を渡して日本內地にて金票を受取る換算率を示し、後者は上海向電信爲替にして鈔票百圓に對する墨銀の數字を表示するものである

二、先　物　取　引

大連錢鈔取引所に於て行はるゝ先物取引の目的物は以前鈔票と俄帖の二種なりしも、目今先物取引と云へば一般に鈔票對金票の取引を意味す、卽ち鈔票五千圓を以て賣買の單位とし、鈔票百圓の價格を金票を以て呼稱す、契約期限は四箇月以內と規定せられ居るも大抵一箇月以內の取引多く、受渡期日は毎月十三日と二十七日との二回である。

大正二年以後に於ける現物鈔票對金、鈔票對小洋錢相場及鈔票對金先物相場を揭げ其の間に於ける騰落變遷を示せば卷末第四表、第五表、第六表の如くである。

五　油房經營と生產經費

油房の操作工程にベンジン抽出法、板粕法及び圓粕の三種あり、ベンジン抽出法による豆粕製造法は、原料に對する出油量一四%乃至一五%にして殘留油脂分も僅かに二·五%乃至三·〇%の程度にあり、其の撒粕は形狀色澤共に良しく且つ使用に便にして肥料としての品質亦甚だ佳良

なるも、機械其の他に設備複雑にして多額の資本を固定せしむるのみならず、ベンジンの需給に相當の困難あり、且つ形狀の撒なるは保管及運送に容器を要し又容積嵩むを以て船運賃も輕量品として取扱はれ從て高率たるを免れず。板粕は原料に對する出油量一二%乃至一三%あり、殘留油脂分も割合に少量にして五乃至七%に過ぎずして、最も家畜の飼料に適するを以て歐米各國は主として此の方法によるも、高度の壓力を必要とするを以て圓粕の如く油草にて包めば忽ち切斷するが爲め、人毛又はキヤメルヘアー等にて編みたる布に包みて搾らざるべからず、從て生産費を高むると共に扁平長方形の板狀なるを以て運搬中の破損を防ぐ必要上容器として麻袋を使用せざるべからず、又此の方法によつて製したる豆油は蛋白質をも含有するが故に高度の熱を加ふるときは黑色に變ずる虞れあり。以上二法の何れも其工程嶄新の方法なるに拘らず採算的事情其他より、目今としては滿洲獨特の手押螺旋式壓搾法及水壓機械式壓搾法による圓粕の製出が殆ど其製產の大部分を占め、豆粕と云へば圓粕を指すの狀態を示して居る。

蓋し圓粕製造法は理想的裝置にあらず、亦理想的製品にあらざるや勿論にして、水分多きを以て腐敗醱酵の爲め變質し易くして貯藏久しきに耐へず、特に熱帶地方に於て此の憂ひ最も多く目減り缺斤を生じ易く、殘留脂分の多きは肥效を遲緩ならしめ、飼料としても滋養上に效力なくして却て下痢を誘致する虞あるも、(一)圓粕製造は割合に生產費を節約することを得　(二)作業簡單にして多量農產物より粗製品を製造するに適す　(三)圓粕は堅き圓形にして運搬及保管に容器を要せず且つ積載に容積と重量との調和よく　(四)混合保管制度には斯の如き單純なる形態を有利とし　(五)勞銀低廉の爲め歐米に於けるが如き精巧なる施設を必要とせざること等幾多の事情により將來に對する工程改良に多大の努力を拂ひながら、尙且つ現在の圓粕中心より脫却を見るに至らない即ち各油房何れも設備及作業の順序に稍相違あるも、今其中樞をなす水壓式油房に就て概略を示せば左の如くである。

油房院內に搬入せられたる大豆は一度檢斤せられて倉庫に保管或は野積保管とせられ、(一)麻袋の口を切り大豆の投入場よりエレベーターによつて大豆貯藏室に送らる(二)大豆貯藏室より更にエレベーターにより乾燥室に送らる(三)大豆は乾燥器及スクリューコンベヤーを通過する間に水分多きものは乾燥せられ、堅過ぎるものは幾分間接蒸氣を與へらる(四)第三のエレベーターによりて大豆はローラーにかゝり壓搾扁平せられて搾油室に送らる(五)此の所謂元粉を檢斤し(六)蒸釜の上に麻布を敷きたるものゝ上に置き一定時間直接蒸氣を與へ、之を油草中に投入す、(七)油草を以て之を包み、記號板を入れ鐵輪二本を掛けて假壓搾器に收め(八)之を鐵板上に乘せて水壓器上に運搬す(九)壓搾器は水壓式にありてはダブルとシングルとあり、ダブルとは十三枚乃至十五枚宛を二列とし合計二十六乃至三十枚を一臺とし壓搾するものにして、其の一列をシングルとす(十)搾出したる豆油は一且搾油タンクに集るものにして出油率は普通原料大豆斤量の一割乃至一割一分と云ふ(十一)搾油タンクの豆油は更にポンプにて精晒場に送り(十二)數日間精

晒場にて日光に精晒したる後貯油タンクに送る(十三)壓搾、豪上の豆粕をプレスより取下し油草を外し豆粕の耳を切る(十四)仕上げ粕を一枚宛檢斤して混合保管に合格し得る樣檢査し(十五)倉庫に保管す。

叙上の工程に就いて其の生産經費を擧げ、一枚當り生産費が何程を要するかを見れば大凡左の如くである。

油房生産費一覽表

	水壓式 本人支那人	水壓式 手締式
工賃	二三、九六四・七一〇円	二八、一〇〇・七五〇円
動力費	二一、六九一・〇七七	一四、七九〇・二五〇
油草	一七、三〇七・六九〇	九、四二八・五〇〇
工場用品	四、九一五・〇一五	一〇、七九九・七五〇
修繕費	四、六四九・四三五	四、九八八・七五〇
運搬費	一三、三三九・一〇二	一一、七〇八・五〇〇
保險料	一、八八四・一九七	九八二・七五〇
給料	七、七一三・八一五	七、一三九・七五〇
諸税金	四、六八八・七八二	四、五八三・二五〇
利子	一四、九一二・二六〇	六、一八九・五〇〇
地代	三、六〇九・六二五	八、六九五・〇〇〇
償却費	二二、三三四・八八〇	一一、九二八・二五〇
雜費	八、九八八・八三五	八、五四二・五〇〇
計	一四九、九九九・四二五	一二七、八七七・二五〇
豆粕製造高	七三〇、六三八枚	七二八、〇〇〇枚
同一枚當生産費	二〇錢五二	一七錢五七
金換算	——(金勘定)	二一錢九六(銀勘定)
		三、九一〇・七五〇
		九、二五〇・〇〇〇
		六、五二六・五〇〇
		八九、九四二・〇〇〇
		五五一、七五〇枚
		一六錢三〇
		二〇錢三七(同上)

上記數字は日支人經營の水壓式油房及支那人經營手締式油房各四箇所の平均を取り、大正十二年七月より十三年六月に至る一箇年間の生産費を同期間の豆粕製造高を以て除し、豆粕一枚當の生産費を計上せり。日本人經營の油房は工賃及運搬費は小洋錢拂、油草は香港ものは鈔票拂山東物は小洋錢拂なるも鈔票と金の交換率を百二十五圓と定め全部金に換算し又支那人經營の油房は燃料の一部、保險料、諸税金、地代等金拂のものは前記の交換率によつて鈔票に換算し、更に償却費は其の時に於ける設備費を時價に換算し、各工場共十箇年に償却するものと假定して一箇年分の金額を計上したり。

六　輸出諸掛りと船運賃

輸出向けの採算に就て先づ「FOB」の諸掛りを擧ぐれば左の如くである。但し算出數字は現在の計算に付事情と共に變化すること勿論とす。

一、大　豆

現物混合保管袋込大豆を買付けて神戸、横濱、伊勢灣其他の日本各港へ賣約する場合に於て、

保管料	（十四日間として）	百斤に付	金一、〇〇〇
荷繰料	（一口三百五十袋正味斤量（四九、〇〇〇斤に對し）	同	二、八五七
船積賃及船内人夫賃	（一噸五十錢）	同	三、三五七
輸出關税	（海關兩六、〇〇〇@一五六、八〇＝銀圓九、四〇八　金換算を九〇、〇〇〇として）		八、四六七
金利	（十四日間として）		一、〇九〇
支出合計			一六、七七一
混合保管奬勵金			三、〇六〇
五厘金戻し	（現物に限る賣方負擔）		二、八一二
差引FOB純諸掛			一〇、八九九

歐洲向け賣約品は遠洋航海中品質に變化を來す虞れあるを以て通風設備を行ふことあり、又品質證明書を必要とすることあり、此の場合には夫々に付約一錢即ち二錢内外を加ふ。

定期市場に於て先物大豆を買建で期日に引取り船積をなしたる場合の大連「FOB」までの諸掛りは、前述現物の諸掛りに取引所買付け費用大豆百斤に付金八厘を要し、現物五厘の戻金なきを以て、結局大豆百斤に付三錢七厘を加ふることゝなる。

二、豆　粕

混合保管豆粕を大連取引所定期取引にて買付けたりとして大連「FOB」までに要する諸掛りを見れば左の如くである。（豆粕一枚四十六斤建）

保管料	（一枚に付十日間として）	〇、二五（注）
荷繰料	（一枚に付）	〇、七〇
船積賃及船内人夫賃		一、五二
輸出關税	（百斤に付海關兩〇、三五　銀圓一五六、八〇　金換算九〇圓〇〇として海關兩一〇〇、〇〇一）	二、二七
金利		〇、四二
取引所買付諸費用	同	〇、〇八

三、豆　油

大連「FOB」條件に於ける豆油の採算をなすに當りては容器の種類に依り採算を異にすること勿論なるも、油箱詰めは主として南支向けにして營口よりするものに限らるゝものなるを以て茲には函入、樽入、及撒積の採算を擧ぐることゝせり。函入及び樽入に於ける諸費用は荷造費、運搬費、船積賃、船内人夫賃、マーク刷其他、輸出關税、取引所買付費用及び金利等にして大體左の如き

計算である。

函入豆油	（一函五十六斤七分詰め）	
函代	一箇に付	金一〇〇、〇〇〇
諸費用	百斤に付	同　七〇、〇〇
樽入豆油	（一樽二百八十七斤入れ）	
樽代	一箇に付	金八〇〇、〇〇〇
諸費用	百斤に付	同　六五、〇〇

撒積豆油に對する「FOB」までの諸費用計算は撒積設備及積込の方法如何によつて其費用を異にす。

一、タンクカー式船積

専用引込線を有するものはタンクカーを利用して撒船積を行ふものにして大連「FOB」まで豆油百斤の諸掛大約金七十四錢見當なり、

二、鐵管流込式船積

貯油タンクの設備を有し「タンク」と岸壁間を鐵管を以て流送する裝置にして、其の積込費用は苦力賃と豆油の數量を測定する「サーベヤー」費用と稅金を要するに過ぎず、タンクカー式船積の約十錢安に採算せらる。

大連の輸出商が產地から買付ける際は信用狀により通例參着十日拂を以て決濟せらる。而して內地向輸出取引は買手より信用狀を受けて、參着十五日拂の荷爲替附を以て積出すを通例とし、現物大豆の賣買に際しては五厘金戻卽ち賣買値段の千分の五を賣主より買主に拂戻す慣習あり、產地より買付けたる場合の不足斤量に就ては總量の五分迄を買方の負擔とし其れ以上は賣方の負擔となす、而して大連に於ては輸出の際大豆一車に付金十五圓の輸出奬勵金を滿鐵より荷主に拂戻すことを採算せざるべからず。

「CIF」條件にて賣約する場合の採算法は大豆の原價及「FOB」までの諸掛りに船運賃、海上保險料、荷爲替割引料を加へたるもとす。

海上保險料は大抵保險會社と特約あり、定められたる料率によつて契約せらるゝもの多く、大豆に於て左の如き割合を示して居る。

	W.A	F.P.A
大連―横濱	、二〇	、一七
大連―伊勢灣	、一八	、一六
大連―阪神	、一七	、一四
大連―門司	、一六	、一三

特擔分擔を契約したりとして假りに大豆百斤「CIF」金六圓二十錢とすれば、送狀面金額の二

四　取引及採算

割増と算定して百斤には神戸一錢二厘六毛、横濱一錢五厘となり。豆粕は大體百斤に付神戸一錢、横濱一錢二厘内外を普通とする。

船運賃は大勢豆粕運賃の二割増を以て大豆運賃となし、伊勢灣及横濱は門司、阪神より二、三錢高を通例として居る。豆油は大量搬出を原則とし船腹事情によつて一定せざるを以て之が高低を表示し難きも横濱、伊勢灣及門司に於ける豆粕の大正七年以後月別運賃を掲げ海運賃の大勢を示すに資すれば卷末第七表のくである。

第一、第二、第三表公定相場ハ大正十年十月ヨリ大正十二年十月マテチ金圓建トシ其他ハ銀圓建大連埠頭倉庫渡トス

大正十五年十一月十五日印刷
大正十五年十一月二十日發行
編纂兼發行人　大連市敷島町八二　篠崎嘉郎
印刷人　大連市東公園町二二　吾妻力松
印刷所　大連市東公園町二二　滿日社印刷所
發行所　大連商業會議所

重要物産先物公定相場表（大豆）

（第一表）

年	次	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
三年	最高	4,390	4,210	4,185	4,155	4,320	4,190	4,040	3,710	3,510	2,830	3,095	3,090
	最低	4,260	4,070	4,055	4,010	4,260	4,050	3,905	3,490	3,380	2,460	2,770	2,940
四年	最高	3,500	3,450	3,300	—	3,875	3,630	3,250	3,475	3,425	3,490	3,845	3,795
	最低	3,390	3,450	3,255	—	3,705	3,510	3,005	3,060	3,205	3,300	3,625	3,715
五年	最高	3,760	3,655	3,590	3,615	3,490	3,380	3,435	3,375	3,255	3,500	3,580	3,525
	最低	3,595	3,620	3,450	3,460	3,420	3,360	3,280	3,255	3,080	3,275	3,440	3,420
六年	最高	3,540	3,345	3,325	3,495	3,980	4,100	4,430	4,160	—	4,060	3,610	3,790
	最低	3,480	3,150	3,095	3,350	3,425	3,890	4,000	4,010	—	3,660	3,470	3,600
七年	最高	4,150	4,220	4,870	4,140	3,650	3,490	3,260	3,420	3,470	3,620	3,920	3,810
	最低	3,960	4,040	4,620	3,590	3,480	3,170	3,250	3,300	3,390	3,520	3,720	3,730
八年	最高	3,880	3,660	3,540	3,720	4,550	4,780	4,610	4'270	4,150	4,590	5,020	5,200
	最低	3,750	3,460	3,450	3,600	3,730	4,360	4,450	3,920	4,010	4,380	4,690	4,950
九年	最高	6,000	5,810	5,390	5,130	4,750	4,240	4,810	3,970	3,980	3,910	3,880	3,700
	最低	5,500	5,560	5,120	4,670	4,540	3,790	4,300	3,820	3,800	3,800	3,610	3,480
十年	最高	3,670	4,010	4,430	4,290	4,300	4,630	4,350	—	5,630	5,560	5,200	5,530
	最低	3,550	3,840	4,180	4,200	4,300	4,450	4,350	—	4,950	5,260	5,100	5,410
	平均	3,603	3,924	4,271	4,245	4,300	4,550	4,350	—	5,320	5,361	5,151	5,480
十一年	最高	5,470	5,860	5,760	5,780	5,950	6,170	5,380	5,130	4,950	4,660	4,880	5,290
	最低	5,320	5,740	5,590	5,640	5,740	5,910	5,200	4,930	4,540	4,400	4,610	5,050
	平均	5,400	5,797	5,675	5,699	5,804	6,033	5,287	5,055	4,695	4,542	4,479	5,175
十二年	最高	5,650	5,750	5,630	5,750	6,080	5,980	5,020	5,330	5,250	5,430	5,540	5,750
	最低	5,450	5,500	5,470	5,650	5,730	5,460	4,600	4,910	5,060	5,170	5,330	5,440
	平均	5,549	5,594	5,539	5,710	5,871	5,726	4,962	5,135	5,167	5,282	5,431	5,599
十三年	最高	5,950	5,910	5,760	5,630	5,420	5,380	5,520	5,780	6,140	5,460	5,520	5,690
	最低	5,940	5,680	5,510	5,390	5,230	4,940	5,290	5,520	5,300	5,190	5,310	5,460
	平均	5,829	5,766	5,610	5,510	5,295	5,174	5,403	5,638	5,794	5,306	5,438	5,558
十四年	最高	5,730	5,640	5,640	5,960	6,260	6,170	6,570	7,360	7,180	5,550	5,610	5,690
	最低	5,540	5,450	5,470	5,670	5,920	5,870	5,990	6,460	6,120	5,370	5,410	5,580
	平均	5,643	5,523	5,566	5,824	6,093	5,992	6,261	6,874	6,524	5,454	5,553	5,624
十五年	最高	5,990	5,970	6,100	6,300	6,220	6,490	6,200	—	—	—	—	—
	最低	5,680	5,900	5,770	6,120	6,000	6,030	5,960	—	—	—	—	—
	平均	5,871	5,946	5,903	6,233	6,119	6,277	6,125	—	—	—	—	—

重要物産先物公定相場表（豆粕）

（第二表）

年次		一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
三年	最高	1,545	1 475	1,470	1,450	1,505	1,610	1,460	1,400	1,365	1,540	1,155	1,190
	最低	1,500	1,450	1,460	1,390	1,390	1,540	1,405	1,365	1,325	1,030	1,155	1,160
四年	最高	1,380	1,390	1,245	1 270	—	—	—	1,320	1,170	1,260	1,280	1,300
	最低	1,295	1,390	1,245	1,250	—	—	—	1.280	1,170	1,165	1,280	1,300
五年	最高	1,280	—	1 240	1 195	1,110	1,110	1,215	1,195	1,160	1,135	1,155	1,135
	最低	1,280	—	1,150	1,170	1,095	1,095	1,155	1,160	1,055	1,070	1,155	1,095
六年	最高	1.150	1,065	1,000	1,000	1,115	1,190	1,500	1,355	1,320	1,150	1,095	1,175
	最低	1,095	1,010	0,970	0,965	1,065	1,140	1,135	1,285	1,320	1,050	1,075	1,150
七年	最高	1,340	1,365	1,540	1,330	1,160	1,125	1,085	1,165	1,140	1,195	1,300	1,320
	最低	1.200	1,310	1,405	1,185	1,120	1,025	1,085	1,125	1,110	1,165	1,215	1,300
八年	最高	1,430	1,395	1,355	1,300	1,580	1,505	1,545	1,510	1,520	1,645	1,960	2,130
	最低	1,350	1,300	1,285	1,245	1,190	1,450	1,455	1,390	1,455	1,595	1,770	1,900
九年	最高	2,365	2,200	1,860	1,710	1,500	1,390	1,820	1,400	1,375	1,350	1,410	1,475
	最低	2,170	2,150	1,860	1,535	1,500	1,225	1,510	1,325	1,285	1,298	1,355	1,320
十年	最高	1,420	1,600	1,635	1,670	1,875	1,850	1,730	—	2,360	2,370	2,200	2,240
	最低	1,385	1,540	1,600	1,645	1,740	1,780	1,720	—	2,025	2,230	2,125	2,195
	平均	1,398	1,570	1,612	1,657	1,805	1,816	1,725	—	2,185	2,273	2,163	2,219
十一年	最高	2,170	2,235	2.165	2,120	2,060	2,265	2,050	1,985	1,905	1,745	1,710	1,845
	最低	2,100	2,190	2,020	2,015	2,045	2,170	1,985	1,900	1,725	1,590	1,625	1,745
	平均	2,142	2 207	2,113	2,103	2,054	2,218	2.010	1,940	1,794	1,671	1,532	1,804
十二年	最高	1,980	2,045	1,905	1,950	2,150	1,925	1,815	1,900	1,825	1,885	1,935	1,990
	最低	1,875	1,980	1,860	1,950	2,120	1,860	1,760	1,845	1,695	1,780	1,910	1,905
	平均	1,929	2,000	1,880	1 950	2,131	1,893	1,783	1.860	1,762	1,829	1,920	1,942
十三年	最高	1,975	1,940	1,850	1,850	1,790	1,715	1,780	1,740	1,740	1,720	1,745	1,770
	最低	1,975	1,880	1,810	1,850	1,705	1,645	1,665	1,670	1,680	1,705	1,710	1,735
	平均	1,975	1,890	1,834	1,850	1,755	1,683	1,706	1,704	1,716	1,710	1,730	1,750
十四年	最高	1,755	1,710	1,800	1,875	1,900	1,915	1,975	1,980	1,800	1,755	1,830	1,840
	最低	1,700	1,690	1,770	1,780	1,900	1,820	1,890	1,800	1,740	1,720	1,800	1,805
	平均	1,720	1,706	1,785	1,824	1,900	1,870	1,925	1,870	1,773	1,740	1,819	1,825
十五年	最高	1,955	1,985	2,030	2,100	2,015	2 075	1,940	—	—	—	—	—
	最低	1,915	1,975	1,970	2,030	1,955	2,035	1,875	—	—	—	—	—
	平均	1,940	1,982	1,981	2,077	1,981	2,055	1,916	—	—	—	—	—

重要物産先物公定相場表（豆油）

（第三表）

年次		一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
三年	最高	13,000	12,250	12,800	12,800	12,930	13,000	13,100	10,500	10,250	7,365	9,600	10,000
	最低	13,000	12,100	12,400	12,400	12,500	12,700	12,670	10,500	9,500	6,965	9,000	9,950
四年	最高	12,000	12,600	12,500	11,600	11,600	10,800	9,900	10,350	10,000	11,815	12,500	12,250
	最低	11,600	12,300	11,000	11,600	11,600	10,000	9,600	9,900	9,550	10,740	12,500	11,900
五年	最高	12,600	12,100	12,900	13,300	13,700	12,800	12,335	12,360	12,360	15,375	15,000	14,100
	最低	12,085	12,065	12,000	12,900	13,230	12,800	12,200	12,000	12,000	14,605	14,650	14,000
六年	最高	14,200	13,260	14,420	15,565	19,200	17,350	19,200	15,000	15,050	21,550	18,800	18,300
	最低	14,200	13,142	13,300	15,100	17,990	17,020	17,050	15,000	15,050	18,000	18,000	18,100
七年	最高	19,100	18,000	18,400	18,050	17,150	14,900	15,250	15,900	15,550	17,200	17,150	13,900
	最低	18,400	17,900	18,150	15,000	15,700	14,350	14,700	15,300	15,250	15,300	15,500	12,900
八年	最高	12,500	10,300	11,850	15,550	19,500	17,800	18,200	15,500	15,100	15,700	14,800	13,750
	最低	12,150	9,550	10,550	13,400	16,300	16,600	16,900	14,800	14,100	14,300	12,000	12,500
九年	最高	16,100	15,200	15,300	14,550	16,400	14,700	13,800	12,300	12,500	12,000	11,050	10,100
	最低	14,600	14,700	15,200	12,800	13,900	13,200	12,650	11,750	10,900	12,000	10,100	9,300
十年	最高	9,500	9,800	9,800	9,350	8,800	9,800	10,350	—	12,850	11,000	10,750	12,000
	最低	8,900	9,000	9,800	8,750	8,800	9,450	9,700	—	12,200	10,050	10,050	11,600
	平均	9,190	9,408	9,800	8,944	8,800	9,617	10,085	—	12,475	10,442	10,371	11,793
十一年	最高	11,500	14,200	14,700	15,200	18,000	16,000	14,000	12,950	12,200	13,050	14,500	14,750
	最低	11,300	14,050	14,700	14,150	16,000	16,000	13,200	11,550	11,200	12,050	13,150	14,400
	平均	11,420	14,125	14,700	14,844	16,583	16,000	13,550	12,479	11,802	12,539	13,863	14,535
十二年	最高	16,400	16,200	16,950	17,700	16,200	16,150	13,650	14,600	16,200	15,400	15,550	16,400
	最低	15,150	16,200	16,100	16,200	15,300	15,000	13,600	12,600	14,300	15,150	15,550	16,000
	平均	15,767	16,200	16,506	17,029	15,892	15,477	13,616	13,654	15,625	15,292	15,550	16,320
十三年	最高	17,150	17,000	16,000	16,400	15,400	16,300	16,650	16,750	18,100	17,600	17,200	17,700
	最低	16,550	16,600	15,750	15,500	15,200	15,050	16,650	16,700	17,850	17,050	17,200	17,300
	平均	16,850	16,800	15,914	16,046	15,283	15,716	16,650	16,733	17,950	17,483	17,200	17,525
十四年	最高	17,650	17,450	16,900	17,650	19,000	18,900	18,900	17,650	17,500	16,850	16,500	16,300
	最低	17,350	16,450	16,250	17,450	17,550	17,950	18,000	17,150	16,900	16,000	16,150	15,600
	平均	17,417	16,850	16,529	17,550	18,253	18,500	18,000	17,440	17,483	16,316	16,256	15,929
十五年	最高	15,950	16,100	16,450	16,750	16,950	17,850	16,600	—	—	—	—	—
	最低	15,700	15,550	16,450	16,700	16,350	17,550	16,500	—	—	—	—	—
	平均	15,819	15,812	16,450	16,725	16,615	17,733	16,550	—	—	—	—	—

銀對金現物公定相場

（第四表）

年次		一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
二年	最高	103,200	101,200	98,400	100,000	100,500	98,280	96,300	96,550	98,150	97,950	96,300	95,000
	最低	99,200	97,000	92,850	93,950	97,700	94,700	94,750	95,700	96,150	95,550	93,500	92,500
	平均	102,299	99,918	94,905	96,693	98,786	96,729	95,487	96,196	96,907	96,872	95,075	93,442
三年	最高	92,700	91,900	93,100	94,550	94,000	91,650	89,850	89,200	85,750	85,020	81,570	82,710
	最低	91,000	91,300	91,800	92,350	91,450	89,700	82,800	79,550	83,100	79,790	78,050	79,500
	平均	91,768	91,510	92,323	93,275	93,123	90,457	87,483	84,708	84,508	82,670	79,560	80,782
四年	最高	80,900	81,390	84,990	83,480	82,620	82,170	80,740	80,160	80,390	82,200	90,950	90,220
	最低	79,710	80,480	81,420	81,970	81,160	80,540	78,580	78,820	79,110	80,480	81,970	85,400
	平均	80,377	80,901	82,787	82,658	82,027	81,168	79,540	79,354	79,663	81,643	84,235	86,980
五年	最高	91,450	90,960	98,450	103,970	109,690	101,000	98,930	99,930	103,060	104,430	120,250	124,620
	最低	87,230	89,630	90,020	97,100	99,920	95,090	94,950	97,200	99,590	102,830	105,390	106,900
	平均	89,175	90,031	92,995	99,762	104,903	98,085	96,065	98,623	101,870	103,829	111,332	115,521
六年	最高	118,250	119,580	116,550	116,350	118,200	124,160	126,950	147,850	167,540	131,640	135,000	143,345
	最低	105,440	112,380	109,140	112,700	116,000	117,320	120,260	126,120	137,485	119,405	128,890	131,695
	平均	110,394	117,080	112,904	114,472	116,978	120,743	124,159	138,554	158,260	124,544	130,956	135,778
七年	最高	145,045	140,260	145,170	142,450	143,165	152,825	155,495	163,245	174,255	161,790	166,245	171,265
	最低	137,600	138,015	140,610	138,965	141,360	143,510	151,085	153,460	163,745	150,390	135,565	165,150
	平均	141,192	139,365	142,503	141,188	142,159	148,925	153,096	157,823	168,823	153,610	148,916	168,115
八年	最高	174,190	170,050	157,000	165,240	171,765	178,065	178,100	187,390	191,600	204,780	252,810	251,390
	最低	168,690	154,310	143,335	153,900	163,050	171,280	170,910	178,220	182,000	191,325	199,930	216,390
	平均	170,550	158,454	153,292	157,875	168,347	174,806	175,161	183,306	184,583	199,009	220,583	233,691
九年	最高	237,995	238,930	233,180	219,645	172,525	161,445	154,640	159,500	150,835	147,750	136,405	117,255
	最低	220,790	227,405	213,410	178,865	153,940	130,560	140,275	151,415	147,470	130,080	116,690	106,000
	平均	228,566	233,546	221,737	197,643	162,624	144,023	143,719	154,902	149,345	136,030	128,643	112,100
十年	最高	117,380	105,480	97,225	100,320	103,795	100,300	101,890	101,860	123,500	121,490	115,065	115,595
	最低	104,800	96,975	88,915	93,685	96,875	98,425	99,640	100,630	101,820	112,985	110,110	113,260
	平均	110,699	100,260	93,731	96,327	99,713	99,227	100,711	101,113	110,532	117,887	113,318	114,170
十一年	最高	113,490	109,695	111,120	114,780	122,800	120,090	120,680	116,450	116,860	113,010	109,245	105,630
	最低	108,240	105,440	103,015	100,825	114,980	116,350	115,875	113,500	112,720	106,880	103,925	102,640
	平均	111,842	108,483	106,630	111,499	118,193	118,417	117,365	115,104	114,650	110,397	106,240	104,149
十二年	最高	107,310	109,250	113,935	113,955	112,160	106,715	103,400	102,220	107,920	103,880	104,915	108,365
	最低	104,335	104,970	110,310	110,165	107,400	102,685	100,460	101,090	101,220	100,765	100,930	103,260
	平均	105,910	106,248	112,663	111,440	110,430	104,996	102,020	101,625	104,654	102,097	102,863	105,729
十三年	最高	115,280	113,480	119,160	127,900	126,210	125,715	126,920	127,040	139,660	148,655	142,500	141,020
	最低	107,775	110,145	112,420	116,020	121,190	119,610	119,690	126,220	132,155	139,385	137,265	138,110
	平均	110,535	112,065	116,077	120,704	124,487	122,509	123,667	126,745	136,901	143,555	139,303	139,319
十四年	最高	139,790	139,290	134,520	128,095	129,970	137,760	135,755	138,205	140,700	136,665	132,235	128,205
	最低	138,055	133,110	123,710	123,080	125,090	131,785	132,060	132,315	134,765	133,845	125,655	123,525
	平均	138,993	136,977	128,042	125,594	127,120	134,770	133,454	134,595	137,756	135,648	128,570	126,111
十五年	最高	125,725	117,900	116,990	112,560	112,730	112,260	111,040	106,410	—	—	—	—
	最低	116,590	111,810	112,810	104,720	107,550	108,320	106,810	102,480	—	—	—	—
	平均	120,563	115,535	114,956	108,325	109,245	110,352	108,995	104,236	—	—	—	—

銀對小洋錢現物公定相場

（第五表）

年次		一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
二年	最高	116,600	120,800	119,200	120,000	120,400	118,000	117,750	118,500	119,100	117,000	114,500	114,050
	最低	121,500	123,000	121,400	122,800	122,500	120,400	119,800	120,000	121,400	120,700	117,000	116,000
	平均	118,566	122,019	120,460	121,718	121,366	119,328	118,555	119,217	120,023	118,041	116,029	115,122
三年	最高	114,500	118,000	119,250	120,500	119,700	119,950	115,600	113,750	118,200	117,280	116,830	115,510
	最低	118,800	119,900	120,800	122,900	121,600	121,000	120,350	119,700	121,900	121,230	118,830	117,320
	平均	117,654	119,246	120,150	121,680	120,850	120,508	118,672	117,319	119,940	118,800	117,660	116,171
四年	最高	115,530	117,770	119,260	120,000	118,670	119,450	119,760	120,620	121,190	120,930	120,770	120,680
	最低	118,760	119,830	121,180	122,880	122,880	120,630	120,990	121,650	122,560	122,530	121,540	122,230
	平均	116,458	118,958	119,973	121,658	121,450	120,157	120,270	121,041	122,176	121,799	121,100	121,472
五年	最高	120,730	123,180	122,300	123,490	102,490	122,820	123,560	119,860	118,300	113,040	100,830	106,080
	最低	123,020	125,670	123,710	124,870	129,990	124,940	124,920	124,600	124,300	119,500	115,580	112,820
	平均	121,944	124,410	123,146	123,881	122,606	124,000	123,895	121,773	119,750	116,955	111,549	110,737
六年	最高	107,440	116,570	116,930	119,000	117,000	115,465	115,790	114,330	107,800	113,680	116,335	116,950
	最低	118,200	118,640	117,980	120,600	119,770	118,850	117,950	116,560	115,390	115,895	118,120	118,090
	平均	110,720	117,460	117,588	119,592	118,145	117,427	116,991	115,683	113,574	114,730	117,090	117,520
七年	最高	114,970	117,085	117,010	115,125	115,900	115,935	116,000	112,235	112,685	106,295	102,430	112,890
	最低	116,910	118,480	118,205	116,740	116,865	118,715	118,935	116,120	117,170	113,615	115,975	116,400
	平均	116,469	117,537	117,622	116,085	116,472	117,162	117,180	114,733	113,768	111,824	107,118	114,993
八年	最高	114,910	117,005	118,230	112,445	111,640	110,600	112,030	112,180	112,245	111,800	102,970	104,465
	最低	117,300	118,670	119,250	118,585	118,140	114,930	114,015	113,140	115,380	117,620	111,210	111,000
	平均	116,628	117,999	118,841	116,641	116,290	112,904	113,307	112,606	113,177	114,596	107,686	108,278
九年	最高	103,810	106,770	108,990	114,940	113,120	115,470	118,015	116,700	118,020	116,690	117,035	117,575
	最低	107,750	109,065	115,890	115,935	116,265	118,850	119,915	118,620	118,425	118,605	118,650	122,810
	平均	105,211	107,570	113,874	115,587	115,278	116,444	119,058	117,889	118,231	117,760	117,769	120,458
十年	最高	116,235	113,175	116,330	116,570	116,225	116,630	114,115	112,170	111,000	112,740	111,695	108,570
	最低	121,930	117,885	117,795	117,500	117,495	117,195	117,025	114,340	113,665	113,945	115,610	112,470
	平均	119,618	116,655	117,206	117,088	117,045	116,999	115,635	113,443	112,641	113,367	114,140	111,333
十一年	最高	110,645	112,730	115,770	117,640	118,695	119,880	116,500	115,635	115,940	113,885	112,360	110,810
	最低	111,900	116,435	118,270	119,365	120,250	121,232	120,490	117,110	116,990	115,820	114,990	112,705
	平均	111,373	114,953	116,659	118,233	119,524	120,436	118,690	116,420	116,554	114,850	113,469	111,[illegible]
十二年	最高	110,560	110,040	116,830	117,955	113,720	112,840	112,330	114,785	106,770	114,310	111,300	111,815
	最低	114,650	116,500	119,930	119,850	119,480	114,420	114,615	115,960	115,160	116,010	114,325	115,830
	平均	113,081	113,062	118,995	118,984	117,443	113,346	113,579	115,245	113,626	115,138	112,871	113,723
十三年	最高	115,480	115,800	120,470	120,795	121,175	120,440	120,940	123,635	128,290	117,740	112,460	111,510
	最低	118,690	121,000	122,980	123,965	122,305	121,530	123,945	126,405	137,830	141,140	118,850	113,480
	平均	116,910	119,311	122,790	122,575	121,657	120,912	122,634	124,225	133,371	126,348	114,712	112,769
十四年	最高	112,690	121,375	123,255	125,335	125,855	131,485	127,330	123,230	123,376	117,450	114,875	116,190
	最低	121,640	124,540	130,950	126,340	129,870	135,295	134,300	127,710	127,945	123,760	122,395	121,135
	平均	115,515	123,438	126,097	125,584	128,174	133,971	130,017	125,634	125,720	119,663	116,677	117,761
十五年	最高	117,250	117,560	124,970	125,875	125,500	123,220	120,620	118,395	—	—	—	—
	最低	119,850	127,600	126,700	128,390	127,910	125,960	123,235	120,930	—	—	—	—
	平均	119,622	121,923	125,549	126,539	126,608	125,031	121,166	119,338	—	—	—	—

備考　小洋錢は銀又は金に對する相場を表示するものなれば其の數の大なるは安く小なるは高し

銀對金先物公定相場

（第六表）

年次			一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
六年	近期	最高	—	—	—	—	—	117,950	124,705	132,510	170,300	133,000	132,940	135,400
		最低	—	—	—	—	—	117,000	120,420	126,190	149,425	133,000	128,930	131,685
		平均	—	—	—	—	—	117,505	121,542	129,151	161,519	133,000	130,268	133,034
	遠期	最高	—	—	—	—	—	124,120	125,950	149,085	171,770	132,360	133,560	143,765
		最低	—	—	—	—	—	117,600	120,250	125,630	149,970	119,155	128,900	131,420
		平均	—	—	—	—	—	121,214	123,564	137,065	160,402	124,773	130,687	136,739
七年	近期	最高	145,160	140,610	142,795	142,475	142,840	148,170	154,890	158,700	173,665	161,140	150,360	169,800
		最低	142,385	138,480	140,730	138,830	141,470	143,555	151,620	153,750	165,080	153,605	140,265	163,320
		平均	144,470	139,348	141,160	141,433	142,344	145,772	152,908	155,032	170,039	157,094	148,987	167,402
	遠期	最高	145,685	140,570	145,780	142,675	142,575	151,725	154,605	163,150	173,600	160,605	153,850	171,515
		最低	137,515	138,290	140,475	140,125	141,170	143,275	151,115	153,595	165,080	149,725	130,935	161,730
		平均	141,857	139,138	142,810	141,434	142,014	147,880	153,043	157,063	169,155	153,490	143,808	165,580
八年	近期	最高	173,700	169,800	153,375	156,425	169,805	175,490	174,845	186,475	184,635	199,050	212,510	249,845
		最低	167,200	166,835	149,100	153,430	163,720	170,700	170,220	178,270	180,240	190,690	200,545	236,690
		平均	171,388	168,751	150,127	155,227	166,953	173,068	173,094	182,395	183,378	194,348	205,973	241,445
	遠期	最高	172,960	166,855	155,810	161,435	172,150	177,995	178,520	187,307	190,625	205,660	251,560	249,560
		最低	164,430	152,640	147,605	152,750	163,590	170,020	168,100	177,790	179,780	188,775	200,700	217,650
		平均	169,503	157,596	151,964	156,793	168,320	174,321	173,690	182,983	183,608	197,147	220,522	234,643

七年	遠期	最高	145,685	140,570	145,780	142,675	142,575	151,725	154,605	163,150	173,600	160,605	153,850	171,515
		最低	137,515	138,290	140,475	140,125	141,170	143,275	151,115	153,595	165,080	149,725	130,935	161,730
		平均	141,857	139,138	142,810	141,434	142,014	147,880	153,043	157,063	169,155	153,490	143,808	165,580
八年	近期	最高	173,700	169,800	153,375	156,425	169,805	175,490	174,845	186,475	184,635	199,050	212,510	249,845
		最低	167,200	166,835	149,100	153,430	163,720	170,700	170,220	178,270	180,240	190,690	200,545	236,690
		平均	171,388	168,751	150,127	155,227	166,953	173,068	173,094	182,395	183,378	194,348	205,973	241,445
	遠期	最高	172,960	166,855	155,810	161,435	172,150	177,995	178,520	187,307	190,625	205,660	251,560	249,560
		最低	164,430	152,640	147,605	152,750	163,590	170,020	168,100	177,790	179,780	188,775	200,700	217,650
		平均	169,503	157,596	151,964	156,793	168,320	174,321	173,690	182,983	183,608	197,147	220,522	234,643
九年	近期	最高	237,930	240,200	233,220	219,730	184,085	161,905	143,390	155,390	151,070	147,345	136,810	116,785
		最低	222,920	232,210	221,820	203,800	154,760	139,760	138,680	151,790	147,525	137,185	134,370	105,070
		平均	223,067	235,059	229,041	213,902	166,494	152,722	141,005	153,045	149,304	141,403	135,757	111,602
	遠期	最高	238,910	237,620	229,440	219,620	170,565	161,285	146,980	159,930	151,000	147,730	136,765	116,420
		最低	221,810	227,855	213,700	186,130	151,290	129,090	137,830	151,420	147,710	130,365	117,935	103,700
		平均	228,583	232,692	220,535	200,017	161,932	143,882	141,832	155,205	149,342	136,847	129,234	110,534
十年	近期	最高	117,430	—	95,740	98,530	103,550	99,645	—	—	—	122,935	114,760	114,195
		最低	106,470	—	89,565	93,910	100,960	98,300	—	—	—	116,015	111,860	113,140
		平均	111,234	—	91,857	95,547	102,188	98,704	—	—	—	119,669	113,287	113,579
	遠期	最高	115,510	105,840	96,995	100,100	102,900	100,400	—	—	119,010	123,405	115,215	115,810
		最低	105,550	98,235	89,530	94,570	96,890	98,320	—	—	107,700	112,670	109,815	112,630
		平均	110,730	101,010	93,460	97,078	99,377	99,461	—	—	111,791	118,559	112,911	113,839
十一年	近期	最高	113,640	110,410	106,970	110,905	116,700	119,680	120,610	116,045	116,920	113,050	109,200	105,680
		最低	111,890	108,700	102,575	109,850	115,155	116,490	117,175	113,530	114,950	111,355	106,420	104,385
		平均	112,796	109,418	104,830	110,499	115,916	117,845	118,839	114,730	116,038	112,430	107,843	105,038
	遠期	最高	113,440	110,375	109,390	114,695	123,230	119,990	120,380	116,010	116,940	113,200	108,160	105,655
		最低	110,435	107,645	104,360	109,895	115,435	116,200	115,905	113,610	113,420	107,450	104,525	102,575
		平均	111,973	109,313	106,423	111,939	118,929	118,376	117,333	114,924	114,801	100,405	106,111	104,135
十二年	近期	最高	105,770	106,065	113,360	114,000	112,305	107,010	103,480	101,970	104,900	104,080	102,155	105,070
		最低	104,305	105,030	110,550	110,590	110,190	104,820	100,740	101,590	101,570	101,170	101,105	103,350
		平均	104,874	105,443	111,689	111,896	111,502	105,846	102,013	101,762	103,125	102,992	101,607	103,968
	遠期	最高	107,375	107,890	114,145	113,095	111,920	106,300	103,570	102,510	107,220	104,540	104,900	107,625
		最低	104,510	106,650	110,750	110,360	109,150	103,720	100,745	101,210	103,690	101,210	101,380	103,350
		平均	105,892	107,270	112,639	111,362	110,284	105,330	102,245	101,954	109,529	102,510	103,024	105,494
十三年	近期	最高	110,010	—	115,405	117,600	125,985	125,210	122,895	127,250	135,310	149,670	142,570	141,070
		最低	108,710	—	112,430	115,820	120,815	121,635	119,245	126,090	132,245	139,595	137,410	138,820
		平均	109,448	—	113,544	116,889	123,679	123,794	120,971	126,649	133,974	143,797	139,807	139,612
	遠期	最高	116,080	113,430	119,290	127,300	126,260	125,090	125,684	127,060	139,400	148,510	141,550	140,980
		最低	107,795	111,440	112,425	115,860	120,660	119,455	119,060	126,020	132,130	139,490	137,345	138,800
		平均	110,665	112,291	116,047	120,160	124,206	122,546	123,133	126,750	136,379	144,276	139,209	139,415
十四年	近期	最高	139,390	139,245	134,810	127,960	127,620	136,610	135,860	133,405	140,360	135,220	132,035	128,140
		最低	738,190	138,275	127,540	125,910	125,210	132,050	133,020	132,020	137,760	134,150	127,975	126,460
		平均	138,793	138,821	131,006	126,653	126,522	133,746	134,245	133,627	139,304	149,146	130,031	127,377
	遠期	最高	—	139,190	132,325	127,840	129,475	136,485	135,630	136,700	140,345	136,970	131,605	127,790
		最低	—	133,355	123,840	123,020	125,065	131,990	132,070	132,545	135,580	134,050	126,405	123,415
		平均	—	137,300	127,670	125,411	126,778	134,376	133,469	134,454	137,794	135,560	128,851	126,111
十五年	近期	最高	125,750	117,000	117,160	112,655	112,440	110,880	111,160	106,550	—	—	—	—
		最低	123,050	117,000	114,800	109,380	108,230	108,430	109,815	103,720	—	—	—	—
		平均	124,423	117,000	115,831	111,201	109,986	109,143	110,595	105,080	—	—	—	—
	遠期	最高	125,890	118,080	117,260	112,790	112,380	112,325	111,250	106,510	—	—	—	—
		最低	117,155	111,925	112,870	104,870	108,000	108,505	106,885	102,570	—	—	—	—
		平均	121,346	115,434	115,331	108,859	109,401	110,424	109,348	104,101	—	—	—	—

大連內地主要港豆粕運賃統計表

(第七表)

年次	仕向先		一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	平均
大正七年	橫濱	最高	77.0	82.5	96.0	100.0	130.0	140.0	120.0	120.0	120.0	120.0	115.0	100.0	110.1
		最低	45.0	72.5	95.0	96.0	115.0	135.0	115.0	110.0	110.0	115.0	110.0	38.0	96.4
		平均	61.0	77.5	95.5	98.0	122.5	137.5	117.5	115.0	115.0	117.5	112.5	69.0	103.2
	伊勢灣	最高	65.0	75.0	85.0	93.0	128.0	135.0	115.0	100.0	105.0	105.0	105.9	85.0	99.7
		最低	40.0	60.0	80.0	85.0	115.0	130.0	97.0	95.0	100.0	102.0	98.0	58.0	88.3
		平均	52.5	67.5	82.5	87.0	121.5	132.5	106.9	97.5	102.5	103.6	101.5	72.5	93.9
	門司	最高	52.0	60.0	68.0	73.0	97.0	109.0	92.0	80.0	84.0	84.0	78.0	68.0	78.8
		最低	30.0	48.0	66.0	68.0	92.0	108.0	85.0	76.0	82.0	82.0	78.0	48.0	71.9
		平均	41.0	54.0	67.0	70.5	94.5	108.5	88.5	78.0	83.0	83.0	78.0	58.0	74.8
大正八年	橫濱	最高	60.0	45.0	37.0	40.0	43.0	50.0	65.0	70.0	75.0	55.0	53.0	50.0	53.6
		最低	38.0	40.0	35.0	40.0	30.0	40.0	60.0	60.0	63.0	52.0	50.0	40.0	45.7
		平均	49.0	42.5	36.0	40.0	36.0	45.0	62.5	65.0	69.0	53.5	51.5	45.0	49.6
	伊勢灣	最高	50.0	40.0	38.0	40.0	33.0	50.0	55.0	58.0	63.0	53.0	53.0	45.0	48.2
		最低	40.0	36.0	34.0	36.0	29.0	35.0	50.0	55.0	60.0	47.0	45.0	35.0	41.8
		平均	45.0	38.0	35.0	38.0	31.0	42.5	52.5	56.5	61.5	50.0	47.5	40.0	44.8
	門司	最高	32.0	31.0	30.0	27.0	31.0	33.0	35.0	40.0	45.0	45.0	40.0	36.0	35.4
		最低	30.0	30.0	25.0	24.0	30.0	31.0	33.0	35.0	45.0	40.0	35.0	28.0	32.2
		平均	31.0	30.0	27.0	25.0	30.0	31.5	34.0	38.0	45.0	42.5	37.0	30.0	33.4
大正九年	橫濱	最高	50.0	55.0	45.0	45.0	60.0	50.0	35.0	31.0	30.0	29.0	28.0	20.0	39.8
		最低	47.0	43.0	43.0	41.0	57.0	30.0	30.0	26.0	28.0	28.0	26.0	17.0	34.7
		平均	48.5	49.0	44.0	43.0	58.5	40.0	32.5	28.5	28.0	28.5	27.0	18.5	37.2
	伊勢灣	最高	40.4	43.0	44.0	42.0	50.0	41.0	27.0	19.0	25.0	24.0	23.0	21.0	33.3
		最低	30.0	38.0	41.0	41.0	43.0	26.0	20.0	18.0	23.0	23.0	19.0	14.0	28.0
		平均	35.0	40.5	42.5	41.0	46.5	33.5	23.5	18.5	24.0	23.5	21.0	17.5	30.6
	門司	最高	32.0	35.0	36.0	34.0	40.0	33.0	23.0	16.5	20.0	20.0	20.0	17.0	27.2
		最低	24.0	30.0	33.0	32.0	35.0	22.0	16.0	15.0	19.0	19.0	19.0	12.0	23.0
		平均	28.0	32.5	34.5	33.0	37.5	27.0	19.5	15.5	19.5	19.5	19.5	14.5	24.6
大正十年	橫濱	最高	15.5	16.0	15.0	14.0	15.0	15.0	15.0	15.0	14.0	18.0	23.0	19.0	16.2
		最低	14.0	14.0	13.0	13.0	13.0	13.5	13.5	13.5	13.0	13.0	18.0	18.0	14.1
		平均	14.5	14.8	14.0	13.2	13.0	13.9	14.0	14.2	13.2	15.1	20.7	18.5	14.9
	伊勢灣	最高	16.0	15.0	14.0	14.0	16.0	14.5	14.0	14.5	14.0	18.0	23.0	19.0	16.0
		最低	13.5	13.5	13.0	12.5	13.0	13.0	14.0	13.5	13.0	13.0	18.0	17.0	13.9
		平均	14.2	14.2	13.7	13.1	14.0	13.9	14.0	14.2	13.2	13.1	20.2	18.5	14.7
	門司	最高	12.0	12.0	12.0	13.0	13.0	13.5	11.0	12.0	11.5	11.5	11.5	11.0	12.0
		最低	12.0	12.0	12.0	12.0	13.0	11.0	11.0	12.0	11.0	11.0	11.5	11.0	11.6
		平均	12.0	12.0	12.0	12.5	13.0	12.8	11.0	12.0	11.1	11.4	11.5	11.0	11.9
	橫濱	最高	15.0	15.0	17.0	15.5	15.0	15.0	14.0	13.0	14.0	16.0	15.0	11.5	14.7
		最低	14.0	14.0	15.5	14.5	14.0	14.0	14.0	12.0	12.0	13.0	11.5	10.0	13.2

正十年	伊勢灣	最高	16.0	15.0	14.0	14.0	16.0	14.5	14.0	14.5	14.0	18.0	23.0	19.0	16.0
		最低	13.5	13.5	13.0	12.5	13.0	13.0	14.0	13.5	13.0	13.0	18.0	17.0	13.9
		平均	14.2	14.2	13.7	13.1	14.0	13.9	14.0	14.2	13.2	13.1	20.2	18.5	14.7
	門司	最高	12.0	12.0	12.0	13.0	13.0	13.5	11.0	12.0	11.5	11.5	11.5	11.0	12.0
		最低	12.0	12.0	12.0	12.0	13.0	11.0	11.0	12.0	11.0	11.0	11.5	11.0	11.6
		平均	12.0	12.0	12.0	12.5	13.0	12.8	11.0	12.0	11.1	11.4	11.5	11.0	11.9
大正十一年	横濱	最高	15.0	15.0	17.0	15.5	15.0	15.0	14.0	13.0	14.0	16.0	15.0	11.5	14.7
		最低	14.0	14.0	15.5	14.5	14.0	14.0	14.0	12.0	12.0	13.0	11.5	10.0	13.2
		平均	14.5	14.5	16.0	15.0	14.0	14.6	14.0	12.3	12.6	14.2	12.8	11.0	13.8
	伊勢灣	最高	15.0	15.0	17.0	15.5	15.0	15.0	14.0	13.0	14.0	16.0	15.0	11.5	14.7
		最低	14.0	14.0	15.5	14.5	14.5	14.0	14.0	12.0	12.0	13.0	11.5	10.0	13.3
		平均	14.5	14.5	16.0	15.0	14.7	14.6	14.0	12.3	12.6	14.2	12.8	10.0	13.8
	門司	最高	12.0	12.0	13.0	13.0	13.0	13.0	12.0	11.0	12.0	14.0	13.0	10.0	12.3
		最低	12.0	12.0	12.0	12.0	12.0	12.0	12.0	10.0	10.0	11.0	11.0	10.0	11.3
		平均	12.0	12.0	12.5	12.5	12.5	12.5	12.0	10.5	11.0	12.5	12.0	10.0	11.8
大正十二年	横濱	最高	11.5	14.5	20.0	21.0	24.5	24.5	20.0	18.0	16.0	30.0	25.0	23.0	20.7
		最低	10.0	11.5	15.0	20.0	21.0	21.0	18.0	16.0	16.0	30.0	23.0	17.0	18.2
		平均	10.5	13.3	17.6	20.1	21.8	22.7	18.9	16.6	16.0	30.0	24.7	18.3	19.2
	伊勢灣	最高	11.5	14.5	20.0	21.0	24.5	24.5	20.0	18.0	17.0	20.0	20.0	19.0	19.2
		最低	10.0	11.5	15.0	20.0	21.0	21.0	18.0	16.0	16.0	18.0	19.0	16.0	16.8
		平均	10.5	13.3	17.6	20.1	21.8	22.7	18.9	16.6	16.6	19.0	19.5	17.4	17.8
	門司	最高	9.0	12.0	16.0	16.0	20.0	20.0	17.0	15.0	14.0	16.0	16.0	16.0	15.6
		最低	8.5	9.0	12.5	16.0	16.0	18.0	15.0	13.0	13.0	15.0	16.0	13.0	13.8
		平均	8.7	10.8	14.0	16.0	17.0	18.8	16.0	13.7	13.6	15-9	16.0	15.4	14.7
大正十三年	横濱	最高	18.0	20.0	19.0	15.0	14.0	17.0	14.0	9.0	9.0	11.0	12.0	11.0	14.1
		最低	17.0	16.0	16.0	10.0	10.0	6.0	6.0	7.5	7.5	8.0	11.0	10.0	10.4
		平均	17.6	18.0	17.8	13.3	13.3	11.0	11.7	8.2	8.2	9.4	11.0	10.5	12.5
	伊勢灣	最高	16.0	17.0	16.0	13.0	13.0	11.0	15.0	9.0	9.0	12.0	12.0	11.0	13.3
		最低	14.0	15.0	14.0	7.0	7.0	5.0	15.0	9.0	9.0	9.0	11.0	10.0	10.4
		平均	15.2	15.7	15.2	11.0	11.0	10.3	15.0	9.0	9.0	10.2	11.5	10.5	12.0
	門司	最高	14.0	14.0	12.0	10.0	10.0	12.0	11.0	10.0	10.0	9.0	10.0	9.0	10.9
		最低	12.0	9.0	10.0	7.0	7.0	10.0	11.0	8.0	8.0	9.0	9.0	9.0	9.1
		平均	13.3	12.0	11.1	8.0	7.5	11.7	11.0	9.3	9.0	9.0	9.7	9.0	10.1
大正十四年	横濱	最高	11.0	10.0	13.0	12.0	14.0	16.0	15.0	15.0	15.0	17.0	17.0	16.0	14.2
		最低	10.0	10.0	10.0	11.5	13.0	14.0	15.0	13.0	13.0	15.0	15.0	14.0	12.8
		平均	10.5	10.0	11.7	11.5	13.0	14.4	15.0	13.7	14.0	16.1	15.7	15.0	13.4
	伊勢灣	最高	11.0	10.0	13.0	12.0	14.0	14.5	15.0	14.0	16.0	17.0	17.0	16.0	14.1
		最低	10.0	10.0	10.0	11.5	13.0	14.0	14.0	13.0	13.0	15.0	15.0	14.0	12.7
		平均	10.5	10.0	11.8	11.5	13.0	14.3	14.2	13.4	14.5	16.1	15.7	15.0	13.3
	門司	最高	9.0	9.0	10.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	13.0	12.0	12.0	10.9
		最低	9.0	9.0	9.0	10.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	12.0	12.0	10.6
		平均	9.0	9.0	9.5	10.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.9	12.0	12.0	10.7
大正十五年	横濱	最高	14.0	14.5	14.0	12.0	13.0	14.0	13.0	13.5	13.5	—	—	—	—
		最低	14.0	13.5	11.0	9.0	12.0	12.0	11.0	13.0	13.5	—	—	—	—
		平均	14.0	14.1	11.8	10.5	12.2	12.8	11.5	13.3	13.5	—	—	—	—
	伊勢灣	最高	14.0	14.5	14.0	12.0	13.0	14.0	13.0	13.5	13.5	—	—	—	—
		最低	14.0	13.5	11.0	9.0	12.0	12.0	11.0	13.0	13.5	—	—	—	—
		平均	14.0	14.1	11.8	10.5	12.2	12.8	11.5	13.3	13.5	—	—	—	—
	門司	最高	12.0	12.0	12.0	10.0	11.0	15.0	11.0	11.5	11.5	—	—	—	—
		最低	12.0	12.0	10.0	8.0	10.0	10.0	9.0	11.0	11.5	—	—	—	—
		平均	12.0	12.0	10.5	9.0	10.3	11.8	9.5	11.3	11.5	—	—	—	—

備考　豆粕百斤に對する運賃にして大豆其他の袋物は現在豆粕運賃の二錢增を普通とす廣神は大體門司の運賃による

524
510

終